



いろいろといろ

きゅう

なほ

この本は

この本は、主に、ツイッターで書いているツイノベ、#twnovelをまとめたもの、NO9です。

一冊目 <http://p.booklog.jp/book/36687>

二冊目 <http://p.booklog.jp/book/47555>

三冊目 <http://p.booklog.jp/book/49689>

四冊目 <http://p.booklog.jp/book/51371>

五冊目 <http://p.booklog.jp/book/52955>

六冊目 <http://p.booklog.jp/book/54454>

七冊目 <http://p.booklog.jp/book/56264>

八冊目 <http://p.booklog.jp/book/59533>

蛤

吐けとあんたはそう言うけれど、おとといおいで。

あんたの願いに私がこたえる義理はない。

いつかは吐き出すもんだとしても無理強いなんかはもってのほかさ。

ちょっと、待ちな。

その白い粉は一体なんだ。

やめろ。やめろ。ああ。

故郷の母を、思い出す。

[#twnovel](#)

蛤は、ぷはっと砂を吐き出した。

文学調味料

文学調味料を使ってみたの。
スープが湯気をたてる。
初めて聞く名に警戒しながら一口。
変わらないよと言おうとしたなら、
「知りたい。優しい味の理由」
口が勝手に動き出す。
「心がとても温まるんだ」
溢れる言葉に妻は笑う。
僕もなんだか嬉しくなって、もう一口。
何より甘さが格別だ。

[#twnovel](#)

文字の温度

文字の温度がわかる。

情熱の赤、冷静の青。文字の色は心の色でその温度だ。

君の僕への文字列はピンク。

その優しいやりとりに喜んでいたけれど、最近少し気になる文字の色がある。

赤に、青に、黒に、白に、透明に。

定まらない文字色が君からアイツへの一日一度の、「おはよう」を彩る。

[#twnovel](#)

雛人形

雛祭りは終わったというのに母が人形を片づけない。

「嫁にいき遅れるじゃない」と冗談めかして言うと、

「そうね片づけなくちゃね」って。

声が震えている。

[#twnovel](#)

気づかれてはいけない。この儀式は未来への投資。

結婚できないのは人形のせい。

そう責任転嫁できればあの子はきっと救われる。

札つき

俺は札つきのワルだ。

ついた札は「50%オフ」。

悪さが半分になるようにって親の願いがこめられてる。

ダチは「3足セット」っていう札つき。

ワルでもいい人と繋がれるようにだって。

こんな札ついてると悪いことってできないよな。

親の愛、感じるみたいな？

それと見た目がアホっぽい。

[#twnovel](#)

絵に描いた世界

絵に描いた世界は美しかった。

描けばなんでも手に入る。

家も天気も友達さえも。思い通りの素敵な世界。

僕と一緒にここで暮らそう。

おいしいお茶を召し上がれ。

私は彼の甘い誘いを紅茶とともに飲み干し

[#twnovel](#)

たりはできないの。

温度も香りも持たない紅茶は美しくたって飲めないわ。

人とロボ

僕の一番好きな絵本はロボットと人間の物語。

昔はこんな世界があった。僕らは仲良く協力し合い、素敵な社会を築いてた。

僕は夢見る。僕らが自ら生みだしながら、滅ぼした彼らともう一度。

[#twnovel](#)

大人になった彼は夢を叶え、人間を作った。

この絵本のお陰で、人の世は三度目の復活を遂げる。

妄想プリンター

傑作は出来上がっている。ただし頭の中にな。

苦し紛れの俺に、ならばそのままプリントアウトしましょう。

そう言って担当は端子を差し込んだ。

妄想プリンターですよ。頭の中をスイッチ一つで印刷します。

[#twnovel](#)

これは素晴らしい。

だろ。

なんというエロス。

バカ、それは通常妄想の方だ。

女の影

彼女がいることはわかっていた。

女の影をあちこちに感じる彼の部屋で一夜を過ごし、翌朝、洗面所でメイク道具を見つける。

へえ、こんなの使う女なんだ。

ポーチを探っているとカサッ。

「彼のどこが好きですか」紙が落ちた。

[#twnovel](#)

嘘をつけないところと書いて私は紙を戻す。

ねえ、あなたは？

みちゅう

「かわいいですが次回はきちんとお話を聞いて、テーマ通りかけるようにしましょう」
仲のいい友達というテーマの娘の絵には、大福のような体、目が3つある生物が描かれていた。

[#twnovel](#)

「いるの？」

娘の指差した方向には誰もいない。

だけど知ってる。私の子供の頃の一番の親友と同じ姿だから。

失われた世界

寂しくなると病院へ行く。

もうずっと祖母は入院していた。

早く家に帰りたい。

記憶を手放した祖母が話す思い出はどれも昔のことばかり。

庭の梅は咲いたのかい。

あの日倒れたことも忘れて尋ねる祖母に頷いた。

寂しくなると病院へ行く。

美しかった故郷の記憶を祖母から分けてもらうため。

[#twnovel](#)

手を合わせる

手を合わせなさいと言われた。

こういう時はこうするもんだって。

あまり会ったことのない祖父が骨になったところで何も思えなかった僕は、沈黙に耐え切れずに嘔きだしてしまう。

父が一度だけゲンコツをくれた。

[#twnovel](#)

そして父が骨になる。

手を合わせて解った。あの時、父は泣いていたのだ。

ネット友

まずはブロックした。マイミクを外したり、友達から削除したり。
アドレスだって容赦なく消して、あなたとの関わりを断ち切っていく。
追いかけることに疲れた私は本当の気持ちに気づいたの。
だから私を追いかけてね。

[#twnovel](#)

「ネット友に嫌われたみたいで急に避けられてる」「あるある」

絶滅した青い鳥

最後の青い鳥が死にました。

駆け巡った訃報に、人々は落胆し涙しました。

もう幸せを求めることはできないのです。

そして安堵し笑いました。

もう幸せを求めることはできないのです。

幸せの絶滅。不幸せの滅亡。

空っぽの鳥籠に青い鳥の囀りを懐かしむ僕らは、けれど目を閉じ耳を塞いで。

[#twnovel](#)

コンクラーベ

また総理大臣が辞めた。

こんなことではいけないと政治家たちは立ち上がる。

我々にはもっと覚悟が必要だ。命がけの選抜が必要だ。

そう、あのコンクラーベのように。コンクラーベのように。

[#twnovel](#)

1年かかった。

清々しい表情で封印された扉を開ける新総理大臣の目に映る、滅びたこの国の姿。

また総理大臣が辞めた。こんなことではいけないと政治家たちは立ち上がる。

我々には運が必要だ。運がなければいい政策も続かない。

そうだ、運を軸にしたあの選抜がある。

[#twnovel](#)

じゃんけんぽんっ。

そこで運を使い果たしたとも知らず選ばれた政治家たちは自分の運を信じた。

[#twremix](#)

また総理大臣が辞めた。こんなことではいけないと政治家たちは立ち上がる。

我々にはもっと覚悟が、命がけの選抜が必要だ。そうあのコンクラーベのように。

[#twnovel](#)

あれから数十年。閉ざされた扉の中、未だ総理は決まらない。

若手政治家の新しい政治に満足する国民は、扉に更なる鍵をかけた。

扉の中には数十の白骨・腐乱死体。

僕が青年局長だった頃、命がけの総理選抜を望んだ彼らに提案したこの選出法。

皆が失策と笑ったが僕は後悔していない。

「はめられ、た。犯...人は...」

血で書かれた僕の名は完全に乾ききっている。

お陰でこの国は平和です。

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

僕は小説家だった。

体調を崩し保護を受けながら療養を続けようやく回復。

僕は決意する。小説を書こう。この一作で自立した生活を取り戻す。

[#twnovel](#)

「保護を受けながら小説などの趣味に興じることは許されません」

役所からの通知。

就職は決まらない。小説も書けずに、僕は未だに保護暮らし。

#twnvday 箒星

箒星がやってくる。
僕ら二人で夜空を見上げて、手を繋いでぎゅっと。
そして、目を閉じてぎゅっと。
やがて開いた目の前に、広がる夜空はとても明るい。
隣の君の笑顔もいつもよりずっと明るい。
また僕ら乗り越えた。
箒星は掃除する。
いつか僕らが要らないものになった時も、君と一緒に。

[#twnvday](#)

タイムラインの君を思わず追ってしまうから、次々と素敵な言葉をフォローした。
君の言葉が流れるように。君の言葉が隠れるように。
けれどもどうして、うっかり見つけてしまうのか。
いつしか君を待ちわびる。
駆け抜ける君の輝ける言葉。僕は黙ってそれを見ていた。

[#twnvday](#) [#twnovel](#)

君にヒかれてオチてく僕に、
バックが欲しい、旅行したい。いつでも君はオネダリばかり。
けれど願いを叶える僕を忘れて君は彼を待つ。
僕も彼も同じだよ。汚れた何かでできている。
彼を見上げる君を思って僕は静かに燃え尽きた。
また箒星に会えますように。
君の願い、叶える僕は流れ星。

[#twnvday](#)

箒星が流れた日、君は来た。
何故？と問えば僕の口をそっと塞いで、私のことは箒星だと思ってね。
愛しい君を貪りながら言葉の意味を考えた。
箒星。
二度と会えない、そんな意味かもしれないと。

[#twnvday](#)

白いドレスで男の隣に座る君を眺めて、僕は考えを改めた。
甘かった。尾を引くって意味だ。

14日

君はいいな。30人は口々にそう言った。

君には毎月物語がある。生きる意味がある。

それにひきかえ僕らときたら。

君のことがうらやましい。

ありがとう、そう答えると14日はさらに続けた。

けれど君たちにだって物語はある。

[#twnvday](#) じゃなくたって、[#twnovel](#) は毎日生まれている。

箒星男

俺って箒星みたいな男だから。

頼んだ覚えもないのに思い出したように扉を叩く。

ずいぶん周期が縮んだのね。お前の引力が強すぎるからさ。

けれど、私は知っている。

貴方は年をとったのよ。

きつともうすぐ私におちる。楽しみね。

貴方を誘う最後の星が滅びる時を、私は静かに待っている。

[#twnovel](#)

数多の世界

数多の世界にひとりひとり。小さく暮らしておりました。
手を振り合っただだそれだけで、触れあえもせずに一人ずつ。
争う種もない世界。
ある日夢見る勇者が一人、世界巡りの旅をする。
続け続け勇者に続け。
一人ぼっちはもういない。
気づけば世界が一つとなって、争いの花が咲きました。

[#twnovel](#)

いつか

さみしい、なんて言うから驚いた。

どうしてと尋ねると少し考えて、もうみんなとあえないから。

そう言って笑う。

心に繰り返しありきたりな意味を当てはめて、言葉に色をつけていく。

いつか色が定まったなら、言葉は君を泣かすだろうか。

大人になったその時に、言葉が優しくあるように。

[#twnovel](#)

意味

君への気持ちに [#twnovel](#) をつけて呟いたなら、
滅多に星などくれない君がどういうわけだか星をくれた。
次の日顔を合わせた僕に、[#twnovel](#) ってどんな意味って。
140字の小説だよ。
そう答えたなら、残念ねって。
君はいつもと少しだけ違う顔で笑った。
ねえ、残念ねってどんな意味？

流れ星

流れ星を飼っている。

誰の願いも叶えぬままに落ちてしまった流れ星。

オネガイゴトオネガイゴト。

叶えなければ帰れぬ星はゴトゴト僕に願いゴト。

けれどごめんね。

君の願いは叶わない。だって君に願ってしまえば僕の願いは。

[#twnovel](#)

ピンポン。流れ星みせて？ あの子の瞳がきらきらひかる。

王様

王様は裸だった。裸でよかった。

だってほら。みんなが僕を見してくれる。

どんなに豪華な服にも今では驚かなかった民衆たちが、あんなに驚き僕を見る。

なんて、快感。

[#twnovel](#)

今日は裸で踊ってる。ただの裸は飽きられた。

くしゅん。

踊り疲れた王様の冷えた体に、上着をかける者など誰もいない。

完璧なロボット

ボクは完璧なロボット。当然心を持っている。

今日もパートのおばちゃん達といつも通りの箱詰め作業。

完璧なボクは心配りも怠らない。

ヤマダさん最高の詰めっぷりデス。

視線が冷たい。

アンタは今日も間違ってるよ。

[#twnovel](#)

ボクは完璧なロボット。当然心を持っていないボクは黙って箱詰める。

声力発電

声力発電を利用して愛玩動物ロボを作った。

話しかける声を動力にロボが動く。

売れに売れたので新商品を開発した。

「これすぐ動かなくなるんだ」

「お客様エネルギー切れです。お声がけを」

「返品できない？」

返品の山をみて溜息をつく。

新商品奥様ロボ。

愛してるで1時間は動くのに。

[#twnovel](#)

調剤本屋の利用法

調剤本屋の扉を叩くと白衣のお姉さんが丁寧に話を聞いてくれた。

心癒す一冊を待っていると差し出されたのは小さな本。

ページをめくれど何も書かれていない。

「読むだけが本じゃないわ」

私は著す。本は誰かに処方される。

返ってきたこの本につけられた感想文が今度は私を癒してくれる。

[#twnovel](#)

魔法を信じるかい

望まれる魔法は恨みや呪いばかりで悲しかった。

「魔法ください」また暗い仕事かしら。

「片想いの子を励ましたくて」明るい。

「この小瓶に春の気持ちを詰めてください」

久しぶりの素敵な依頼に嬉しくなって、恋の予感もこっそり詰めた。

手渡したとたん、突き返される小瓶。

「あなたに」 #twnovel

#twnvday 『今』

今だから言える。君は意地悪だったよね。

今だから言える。言いたいことなんか言えなかった。とても。

今だから言える。その時言わなきゃ意味がないって。とてもとても。

今だから言える。君のことが大好きだった。とてもとてもとても。

[#twnvday](#) [#twnovel](#)

年代物の『今』を手に入れた。瓶を開けると懐かしい香り。

トポトポ注ぐとあの日の孤独な僕の面影が揺れた。

一口。熟成した今は舌に優しい。ぐるぐるとまわる思い出は僕を酔わせるけれ何かが足りなくて

。

酸味？いや苦味？味見してよと君のグラスにも注いで二人、現在進行形の今に乾杯。

[#twnvday](#)

今でしょ？って言われた。

そうか今か。

僕が意を決して君に告白をしようとする、

いいの？って。いいのかな。

不安にかられたためらう。そうこうしている間に、今はどんどん遠くなる。

何も言えずに僕は君にお茶でも飲もうかなんて言う。

[#twnvday](#)

大切な言葉は言われる前が一番美味しいわ。ね？

時間旅行も並行世界間での移動も当たり前となり標準自分が定められた。

それが「今」。

今の僕の元には毎日様々な僕がやってくる。

今日来た僕はあの子との結婚を叶えていた。

けれど今僕が成功している仕事には失敗してる。

僕ら互いに讃え合って別れる。生きていける。今は今でしかない。

[#twnvday](#)

「何してるの？」「今について考えてる」

「今だけ考えて生きてくみたいなの？」「今は今のことしか考えられない」

「真面目だね」「俺好きなことには一生懸命なんだ」

「そういう男の人って素敵」

こうして、[#twnvday](#)に参加した俺には彼女ができた。

けれど、[#twnovel](#) はまだできない。

はじめての 呟きからもう いくつもの 今をかさねて ここにいるなう [#twnvday](#) [#tanka](#)

トドノツマリ

あーもう、で、とどのまつりどうするの？

妻がごちゃごちゃうるさくて、

面倒くさくてロクに話しも聞かずに好きにしていよいよと言ったのは覚えている。

僕は今、ふんどし一丁で居並ぶとどたちに混ざり睨めつけられているのですが、

これはとどのつまり、とどのまつりということですか？

[#twnovel](#)

盲目の少女

君の目の包帯がとれる。視力は戻るのか。

僕がわかるのか。期待と不安の中、君に声をかけた。

見えるようになったのと嬉しそうに君は笑って、けれどやがて、「あなたはどこ？」

[#twnovel](#)

合わない視線。その世界こそ君がいるべき見える世界。

姿を持たない僕は君の耳元に、「おめでとう」と囁く。

いないいないBAR

このBARにお客はいない。

カラン。扉を開けるとマスターが、いらっしゃいませ。低い声で迎えてくれる。

そしてカウンターの端っこに静かに腰掛けたあなたに言うのだ。

「何になさいますか」

その頃のあなたはもはやシェイカーの中。

綺麗な紫がグラスに注がれた。

[#twnovel](#) [#いないいないBAR](#)

四角い箱の中に貴方の今を打ち込む。

言葉は流れる。

今日の貴方は主か客か。

酔わせる者かそれとも酔うか。

それすらさえもがお楽しみ。

このバーはどこにもない。そしてどこにでもある。

貴方の心の中に、そして或いは目の前に。

中毒には十分お気をつけください。

[#twnovel](#) [#いないいないBAR](#)

サクラチル

例えばさ、桜の花が咲いてはじめてそこに桜があるということに気がついたりするじゃない。明かりが灯っているのをみてはじめてそこにお店があるのを気づくみたいな。つまり何が言いたいかというと、君ってそんなに綺麗だったっけってことなんだけど俺とかどう？

[#twnovel](#)

あ、はいサクラチル。

リアル脱出ゲーム

最近リアル脱出ゲームにハマっている。

今日も今日とて謎を解く。最後の謎。これさえ解けば。

[#twnovel](#)

「道具を調達」OK、ペンと紙と封筒に切手。

「間違いなく書き写せ」OK、この度一身上の都合によりって、はい？

「郵便ポストにいれたらゴール」

投函すべきか否か。封書を持つ手が震える。

さくさく

愛されるのはいつだって守ってあげたい女の子。

夢げで美人などうきがいるって少し損だと思うんだ。

あの子の綺麗は私も十分わかってる。

だけどね私も結構いけると思うのよ？強いからってほっとかないで。

貴方の為に一生懸命咲いている。

[#twnovel](http://movapic.com/pic/20130323123730514d237a09ec6...) [http://movapic.com/pic/20130323123730514d237a09ec6 ...](http://movapic.com/pic/20130323123730514d237a09ec6...)

さくらのしたで

あらお兄さんいらっしゃい。

[#twnovel](#)

桜の下で10分千円で膝枕？

こんな商売いかなあ。折角可愛いのに親御さん泣くよ？

肌も真っ白で綺麗だけど雪国出身？わからない？じゃあどこ住み？コノシタ？どこだよそれ。

じゃあ先払いで千円。

ねえ君の膝、何だか透けてて安定しないんだけどって、え？

あたし桜の下。ここから離れられない私は貴方の側にはいけないみたい。

恨むことにももう飽きちゃってだから仕事を始めたの。

こんなことしかできないけれど、こうしていたならいつか貴方に会えるかなって。

それを支えにここにいる。

[#twnovel](#)

あらお兄さんいらっしゃい。10分千円。膝枕如何？

貴方とあたし、いつでもここで秘密の逢瀬。

貴方は最後、あたしを殺してこの木の下へと埋めたんだ。

昔は貴方を恨んでた。

だけどあたしを糧に染まった桜を見てたら思ったの。

なんて綺麗なピンク色。なんて素敵な恋の色。

あたし貴方を愛していたの。あたし貴方を愛してる。

[#twnovel](#)

桜並木

桜並木をあなたと歩く。

今日も明日も明後日も。今日は寄り添い明日は手を取り明後日あたりはどうかしら。

長い長い桜並木を毎日あなたと二人で歩く。

毎日別のあなたと歩く。

こんなに長い桜並木をあっという間と感じたあなたが、今年一年私の彼氏。

桜並木を私と一緒に歩きましょう。

[#twnovel](#)

一流シェフ

僕の心にシェフが住みこんだ。

材料は僕の気持ち。

なんでも上手に調理するお陰でどんな気持ちも飲みこめる。

恋に敗れたあの日の料理は未だに忘れられない。

また食べたくて適当に付き合って別れた。

けれど。

「バカ野郎こっちは真剣なんだ」

どんなにシェフが頑張っても煮え切らない一皿。

[#twnovel](#)

恋愛試験

恋愛試験に合格して恋する権利を手に入れた。

若葉マークの僕は同じく若葉の君と恋をする。

可愛い君。初々しく恋を語る僕らは程なく手を繋ぎやがてキスをする。

はじめてだけれどわかる。君にはキスの才能がある。

うっとりする僕は、君の若葉がこの時だけ紅葉していたことに気づかない。

[#twnovel](#)

ゼンマイうさぎ【さいかいのこと】

ゼンマイうさぎと長らく会っていない。
会わずにいたならうさぎのことを考える時間はどんどん減った。
薄情な自分を軽蔑してみたりもしたけれど。

[#twnovel](#)

街で偶然君を見かけた。
カチ。歯車式ではない僕の止まっていた何かが動き出す。
君を忘れられるはずなどなかった僕の喜びと安堵と悲しみ。

ゼンマイうさぎに気づかれぬようそっと隠れた。
うしろめたさに脅かされる。僕は期待してたんだ。
僕にも誰にも巻かれることなく、君がたったのひとりぼっちで止まってしまっていることを。
僕だけが君を目覚めさせ僕だけが君を眠らせる。
ねえ、君は誰にそのゼンマイを巻いてもらったの？

[#twnovel](#)

もふもふ

羊が迷いこんできた。

寢室を覗くと妻が羊を数えている。

眠れないの？と声をかけるとそうだって。

どうして分かったの？首を傾げる妻には羊が見えないらしい。

温かいミルクを勧めて他愛ない話をする。

小さなあくび。

眠る妻の頭を撫でて、それから妻の可愛い本音を撫でた。

もふもふ。

[#twnovel](#)

ゼンマイうさぎ【転がるのこと】

ゼンマイうさぎが目の前を通り過ぎる。

コロン。歯車が落ちた。

以前君に貰った僕の美しい歯車が、追いかけるように転がりそしてぶつかって止まる。

「これはお前の物か？」

突然の再会に驚く様子もなく君は歯車を差し出した。

お前の物かって悪い冗談。

ねえ、うさぎ。君は僕を忘れたの？

[#twnovel](#)

日記

どさくさ紛れに手に入れた君の日記帳。

日記通りに君の行動をなぞってみたなら驚いた。

君の好きな人って僕だ。畜生。悔しくて僕はペンを執る。

白い頁を君と僕の物語で埋めていく。

もちろんハッピーエンドだ。

日記の中で君は笑う。僕も笑う。出来なかったことをする。天寿を全うする。

[#twnovel](#)

あれから40年。

あの時書き上げた日記帳は今でも僕の宝物だ。

君の書いた僕への恋文と僕が書いた君との未来を何度だって読み返す。

「何見てるの？」「秘密」

拗ねる君が可愛い。

あの日転校した君を大人になって追いかけた。

日記に著した未来を叶える。君と二人で。

[@rangming](#) [#twremix](#)

年貢

庄屋さまの取り立ては厳しい。

僕は一介の百姓。年貢を納めねばならぬことなどわかっている。けれど追いつかない。

「早うに」毎日の脅迫。

逃げてばかりの僕のもととうとう庄屋さま自ら押しかけた。

「そんなに私が嫌い？」

いつになく弱気な横顔。心が追いつく。

とうとう年貢の納め時だ。

[#twnovel](#)

白黒の花

白の花が咲く丘に、黒の雨が降り注ぐ。

雨を吸ったらたくさん吸ったら、白の花びら黒になる。吸い込まなければ地が絶える。

だからみんなで一緒に吸おう。みんなで吸えば、花の色さえ変わらない。だから。

[#twnovel](#)

だって私怖かったの。

白いまんまの花の隣、黒い花が音もなく枯れた。

ゼンマイうさぎ【忘れるのこと】

「ねえ、待ってよ」「お前の物ではないのか？」「誰の物だかわからないの？」

ゼンマイうさぎはもう一度歯車を観察し首を傾げた。「

お前の物でないのなら失礼した」そんな。

「僕のことを忘れたの？」

「忘れてなどいない」天国。そして。

「元々知らぬものは忘れられないだろう」地獄。

[#twnovel](#)

イワシトルネード

イワシだって危険感がなければイワシトルネードしなくなる。
それは人間も同じではないか。安全がひきこもりを助長しているのではないか。
必要なのは恐怖。あの方にお願ひしよう。

[#twnovel](#)

「悪い子はいねがー」

少子化で暇になったなまはげさんの襲撃が楽しみすぎて、僕ら部屋から出られない。

へのもじ病

へのもじ病にかかった僕は4文字しかかけない。

そんな僕が戯れにへのへのもへじを描いたら大絶賛された。

これが彼の宇宙なのだ。なんて思ってもいない解釈のお陰で絵は売れた。

儲けたお金でへのもじ病を治療した。

へのへのもへじを描いても他の絵を描いても、今では誰も振り向かない。

[#twnovel](#)

へのへのもへじばかり描いている僕を、大人たちはへのもじ病と診断した。

馬鹿だね大人は。僕はそんな病気じゃない。

けれど言えない。見える世界をそのまま描いたらへのへのもへじになるなんて。

そんな珍病、厄介過ぎる。

僕は普通の可哀想な子供でいるため、へのもじ病に甘んじる。

[#twnovel](#)

技術

折角綺麗なんだからもっと手をかけよう。

あらゆる色を使おう。

破綻させずに彩る自信、僕にはあるよ。

光らせるのもありかもね。

技術があるんだ。なのに何にもしないだなんてそんな失礼ないだろう？

[#twnovel](#)

極彩色の花弁が落ちるたびにまた花が咲く。

永遠に散り続ける運命を呪い、桜は枯れた。

ゼンマイうさぎ【あの歯車のこと】

差し出された歯車をどうしても受け取れなかった。

それは僕の歯車で、けれども僕の歯車ではない。

あの日、君が僕にくれたあの美しい歯車は、君と僕と、二人の大事な歯車だった。

だから。

君の知らないその歯車は僕のものじゃない。

僕の何をも動かさないその歯車は僕のものじゃない。

[#twnovel](#)

休日前

休日前はいつもゲーム。

ルールは簡単。互いにカードを出しあって先に誘った方が負け。

いかにも彼の食いつきそうな話題を並べる。

さてと、これでどうだ。

[#twnovel](#)

いいね、みんなで行こう。

不意に現れたあの子の一言で引き分けのままうまる休日。

あの子は天使か悪魔か。

それは、彼のみぞ知る。

検索くん

お茶飲む？声をかけると妻が画面を隠す。けれども見えた。

「恋 夫以外」その検索語句は一体。

翌日。

お茶飲む？今日はクッキーをつけた。声をかけると妻が画面を隠す。

「慰謝料」って。

明日はケーキでも買ってこよう。

[#twnovel](#)

おいしい。離婚について検索したなら何に化けてくれるのかしら。

音

蠟燭を吹くと沈黙の帳が下りた。

耳を圧迫する無音。

闇の中では全てが眠りにについている。

束の間の休息。

沈黙貪り私は眠る。

[#書き出し](#)

ピ、時間だ。

塔のてっぺん私が歌い始めたならば、世界は再び動き出す。

食傷気味の自分の歌で、音で溢れたこの世界。

私は小鳥。羽はあるのにどこにもいけない籠の鳥。

ありふれたラブストーリー

ありふれたラブストーリーのはずだった。

実は男同士で付き合ってるって打ちあけても、今時珍しくないでしょって。

今度会わせてって。

恵まれた環境のおかげで、思いがけずありふれたものなるはずだったのに。

それなのに。

[#書き出し](#)

「彼氏です」「どこに?」「わん」

沈黙。

犬が相手じゃ、ダメですか?

羊が

眠っているのは羊で、数えられているのは私だった。

眠った羊に私たちはもう用済みで、みんなでぼんやり闇の中。

何もない。なんて退屈、いっそみんなで羊数えて眠ろうか。

羊が一匹、羊が二匹、音楽三曲、紅茶が四杯、ケーキが五つ。

何もないって淋しいでしょ。

星がまんてん。おやすみなさい。

[#書き出し](#)

何度も何度も恋するうちに私は恋の馴染みになった。
お得意さんとなった私に恋はとてもサービスがいい。
今では恋など探さなくともいつでもここに呼び寄せられる。
恋の成就？そんなの知らない。
叶っていたなら常連なんかになれないでしょう。
恋に恋し続けた私は今では、恋に「来い」するお年頃だ。

[#締め](#)

締め

世界はすでに滅んでいたが、創世を阻む悪の芽を摘むという大義名分が僕らを支えていた。僕ら迷わず魔王を倒す。歓喜の中、賢者の君が戦士の彼と抱き合っているのを見つけた。創世記は彼らの愛を軸に描かれるのだろう。

許せない。

心に育った魔を断つには遅すぎると、もう間に合わないと確信した。

[#締め](#)

モノクロ世界

鮮やかだった世界は、突然のようにモノクロに変わった。
君というスイッチが切れた瞬間、僕の中から全ての色が逃げ出した。
それなのに。
彼を見つめて君が染めてくその頬だけはどうして赤いと解るのか。
僕はそっと顔を背けてモノクロ世界と対峙する。
今すぐ全てを赤で塗ってしまわなければ。

[#書き出し](#)

廃墟の骨

廃墟の骨が崩れた。

血肉は既に奪われていた。跡形もない。

嘗てここにシアワセが築かれていたと知るのは僕ばかりだ。

白い柱にぐるりと絡んだ蔦の先。レースの揺れる窓辺で君がふわりと笑う。

それだけで築かれた僕のシアワセ。それだけの恋。

[#書き出し](#)

今では空虚なこの場所で、糧も知らずに花は咲く。

滅亡

若いころ夢に見た滅亡だった。

木っ端微塵、残らず世界が砕け散る。

映画のラスト、その派手すぎる演出に、今はまるで心が動かない。

こんな最期は滅亡の名折れ。ただの消滅でしかない。

世界の終わりはいつでも滅亡。そうでなくては困るのに。

映画館を後にした。正しい滅亡を布教するために。

[#書き出し](#)

願い星

その星は、願いを叶えてくれるらしい。
だから行こう。君の手をとり草原を走る。
暗い森も深い海も怖くない、怖くないよ。歩いて走って転がるように。
僕ら二人で星を目指す。辿り着いた星の下。
一体何を願うの？尋ねる僕に君は言う。
叶っちゃった。私の願いはあなたと一緒にいることよ。

[#書き出し](#)

一人で死ぬのは

一人で死ぬのは寂しいだろうか。

そう思って止めた。

死ぬというのは体を心をなくすこと。

終わりの見える寂しさよりも考えるべきことがある。

一人で死ぬのを見守る貴方。

僕のこの手をそっと握って、僕がいくまで側にいて。

僕は貴方を慰める。

こんな世界に取り残される貴方に懺悔をしたいから。

[#書き出し](#)

足音

足音を盗まれた。

気づいたあの子は青い顔してどうしようって泣きだした。

きっと気づいてもらえない。

気づくよ。

どうして。

だって僕らは君が来るのを心待ちにしてるから。

[#書き出し](#)

足音なんかがなくとも僕らは、目で見て手で触れ、春を感じる。

聞こえないのをいいことに、今年はステップ踏んどいで。

蝶々結び

小指に結んだ蝶々結びが羽ばたき始めた。
どこへいくの。結んだ私と結ばれたあなた。
二人一緒に追いかける。
どこへいくの。
なんだか心がそわそわするの。
私はここよ。この指とまれ。

#書き出し

そこには花が咲いていた。
ふんわり笑うあの子に見とれるあなたの姿に見とれてた。
運命の恋。結んだのは私。

忘れ物

僕の探し物が何なのか、どこにあるのかご存知の方はいらっしゃいますか。

段ボール箱の中、雨に震える子犬に聞かれてて答えに迷う。

君が探しているであろうご主人様はきっとずっと見つからない。だから。

[#書き出し](#)

私はこの手を差し伸べた。

信じて、君の探し物は私。

フラれた者同士、仲良くしましょ。

サイン

「サインいただけます？」

差し出され紙には見慣れぬ文字が並んでいた。

「これは」「締切間近なんで急いで下さい」

町内会の何かだろう。僕はサインした。

[#書き出し](#)

座敷童がきた。

僕は、あやかしのホームステイ受け入れ了承サインをしたのだ。

座敷童が帰るのは二週間後。

阻止した方がいいよね？

勇者失格の烙印を押され、村人として余生を送っていた。

あの日魔王は俺に言った。

お前には才能がある。

もしも我をうち倒したならその瞬間にお前が魔王になるだろう。

まさかという思いもあった。けれど。

最強の俺が魔王になるわけにはいかない。

[#書き出し](#)

「魔王様嘘ばっか」「頭脳戦の時代だよ」

異国の歌

異国の歌を君に捧げる。

君の知らない言葉で紡いだ君に届かぬラブソング。

何の歌って君は聞くけど、そんな言葉は聞こえぬ素振り。

知らなくていい。いつまでだって歌いたい。

[#書き出し](#)

歌が終わるやいなや君は私の手の甲へ口づけた。

あんたの国ではこうやって伝えるんだろ？何を？

聞こえぬ素振りの彼。

涙の花

あなたの落とした涙から 綺麗な花が咲きました。

無実の罪で裁かれた彼。流刑の前日、彼から貰ったその鉢を、毎日抱きしめ泣いたがための花でした。

あの花を捧げよ。

姫様の望みで彼は毎年流刑の島から戻される。

冬の逢瀬。春の別離。

あなたが落とした涙を故に、今年も綺麗な花が咲く。

[#書き出し](#)

あこがれの世界

憧れていた世界は、想像とあまりに違っていた。

こんなはずじゃなかった。僕が求めたのは沈黙の世界。

それなのに。 [#書き出し](#)

滅びたはずのその世界は明るかった。

何をしようと、前に上に、進んでしまう。

滅びとは誕生でしかないのだと理解すると、絶望がきらきら降り注いだ。

[#世界もう滅ぼしたい協会](#)

ボールペン

インクの切れたボールペンで描くようなことはしたくないって君は言う。

それでも描いたほうがいいわ。

どうしてそんな無駄なこと。

無駄ではないわ、本当の気持ちを描いてみて？

[#書き出し](#)

何も見えないその紙を鉛筆で軽く撫でると、浮かび上がる君の告白。

無駄などないわ。無駄になんかさせるわけない。

彦星様

彦星様は地上の世界に憧れていました。

女は星の数ほどいるというのに星の世界で許された女はたったの一人。

俺だって他の女と遊んでみたい。

こっそり地上に降りた。可愛い彼女を見つけた。

どういわけか7月7日だけは会えないというけれど都合がいい。

[#書き出し](#)

織姫様は地上の生活に憧れていました。

あじがこい

味が恋だった。飽きでも嫌悪でもなく恋。

「美味しい？」「感動した」

僕が作った人の気持ちを食べ物に感じられること、妻は知らない。

君って実はまだ僕のこと。

「週末デートしない？」「今週はムリ」

[#書き出し](#)

今週末は彼とのデート。

その時贈る手作りクッキーを旦那に味見させたら大好評。

良かった。

自販機

ささやかな幸せを売る自販機が出来たらしい。

買いに行くと女性が、「ばかにしないで！」自販機を蹴飛ばすところだった。

女性が落とした缶を拾う。

そこには彼女のささやかな幸せが残されていた。

[#書き出し](#)

純白のドレスでイケメンと歩くバージンロード。

あたたか〜い幸せは時々人を火傷させる。

鉄でしょう

「鉄でしょ、フツー」「そうなの？」

「むしろ他に何かある？」「そうかーじゃあ錆びたりするのかな？」

「錆って確かにウーロン茶は苦いけれどそんな」「なぜそこで烏龍茶」

「観音といえば何だろうって、連想ゲームだよな？鉄観音？」

「いや、観音の素材といえば何だろうって意味でして」

[#書き出し](#)

ため息と幸せ

ため息吐くと幸せが寄ってくるんだって君は言う。

誰かが優しくしてくれるって。

それって全員男でしょう。

すごいなどうしてわかったの？

そりゃあ、ね。

[#書き出し](#)

誰かに弱みを見せないで。つけこませないで。お願いだから。

僕なら君が笑ってたって幸せにしてあげるのに、って言いたいのに言えない。

冗談じゃない

「私は、冗談なんかで生きてるんじゃないっ！！」

僕もそんなつもりはない。怒りに震える君も可愛いけれど怒らせるつもりはなかった。

「やめろ」

抗う声を無視して原稿の中の君にドレスを着せる。騎士たる君には屈辱らしい。だけど。

「僕と結婚してよ」

花嫁姿の僕だけのヒロインは小さく頷く。

[#書き出し](#)

お座敷桜

部屋の中に桜の木が生えて来た。

指先ほどのそれは、ひと月ほどで大きく育ち、それからすぐに花が咲く。

その花びらは余りに赤くて僕の心を不安にさせた。

昔の文学みたいにもしや桜の下には死体でも？

畳を上げた。するとそこには無惨な死体。僕だ。

[#書き出し](#)

どうか桜を見つけてください。どうか僕を。

懐かしい遺体

懐かしい死体だった。

そりゃそうだ。先ほど解決した事件の冒頭にでてきた死体だ。

けれども今度は死に方も犯人も推理も違う。

解決したなら死体はまたもや横たわり、始まる別の物語。

繰り返される。何度も何度も。

そして999回目の悪夢が終わる頃、にわかに死体がニッと笑った。

逃さないよ。

[#書き出し](#)

パーティー

小さなパーティーに参加した。

ビールじゃなくて発泡酒だし、料理は少し焦げた肉じゃがだし、
話だってなんだかなかなか弾まないのに、何だかとっても楽しかった。

きみんちではじめてのおうちデート。

楽しくないわけ、ないじゃない。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

ともだちこいびと

友達になりたいと思ったら、告白される。

恋人になりたいと思ったら、ずっと親友だよなって。

だから、友達を作りたい時には恋人作りのノリでいったら、

「アイツ嫌なやつだよな」って、女子全員に嫌われた。

どうしてなのか理由がわからず、男友達に慰めてもらう。

[@1_dark #twremix](#)

ずっと

「お前もっと発言気をつけろ」

「だってー」

「女は恐いってわかってんだろ」

「わかってるけどー」

「だいたいお前」

「んー？」

可愛いすぎるんだよ、とは言えない。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

その素質を見込み、恋人作り並の作戦で近づき親友になった彼はやっぱりいい奴だ。

俺らずっと親友だよ。

23時

23時（※1）がもうすぐやって来るので、

タイムラインの変化にご注意ください。

RTに連続投稿など、[@1_dark](#) の出現以降、

若干のお見苦しさをお見せすることがよくあります。

発狂ではないので安心して、[#twremix](#) をお楽しみください。

（※1 23時すぎることも多い）

ひなまつり

「やってらんないわ離婚よ離婚」

「こっちこそお前みたいな女願い下げだ」

「それじゃ従者を分けましょう」

「じゃんけんだ！」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「やっぱりね、あなた三人官女③とると思った知ってるのよ浮気」

「お前こそ、左大臣と」

「失礼ね、私は五人囃子①と③でしたー」

最近

最近彼女を見ないなあと思っていたら、枕元の携帯がぶるとなった。
待ち合わせて、「他の男と遊んでたりしてたの？」と冗談を言うと、
目を泳がせながらぶいっと顔をそむけた。

[@1_dark #twremix](#)

他の男と遊んでたのはむしろあなたよ。

あなたがモデルの薄い本はもうすぐ完成します。

忘れ物

「すみません。忘れ物ですよ」

「何か忘れちゃったっけ」

「さあ何でしょう。解りましたら連絡下さい」

思い出せない僕は折角貰った彼女の番号に電話できない。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

彼がいつでも私を見てると知ってたの。

だって私も見てたから。

だからきっかけあげちゃった。電話こないかな。

時間魔法

もう夢にすら見なかったのに、気づけば、涙が出ていた。
時間が忘れさせてくれたのだろう、いつの間にか、傷痕すらわからなくなっていたのに。
街で、あの人を見かけた。
それだけで、溺れる。
私は時間を忘れていただけだ。時間を止めていただけだ。
溢れだす、赤い血液。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

だれもいない

ここには人は一人もいない。

ひとりぼっち。

こんな幸せ他にはないわ。わたしは人が大嫌い。

快適なはずの生活なのにどうして何かが物足りない。何か。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

一人がいいってそんなのホントじゃないでしょう。

よくそう言ってわたしのことをたしなめた、彼がなんだか懐かしい。

お手紙

「お礼なんていないよ。むしろおまけをあげてもいいよ。だから、僕に届けさせて」
ならばと僕は手紙を託す。どうか届きますように。

[@1_dark #twremix](#)

「できちゃったの」と彼女の返事。
僕が手紙を託した相手は、このとおり。
おまけってそういうことっていうかって、マテ。

ねがいごと

どんな願いも叶ってしまう。
彼氏もできたし望んだ通りの仕事もしてる。
台本通りの私の世界の全ては星の力のお陰。
けれどなんだか満たされないの。瞳を閉じて星へと願う。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

願いをきくのはこれで最後にして下さい。
私が描ける程度のことでは、幸せになんかなれないわ。

世界最高の

「世界最高の美女をご紹介します。
セクシー路線もロリ好きも満足の姿！羽根のような立ち居振る舞いは絶品！
望むだけであなたの希望に応えてくれる、まさに夢の美女でございます」
「わしには何も見えんのだが...」
「夢の美女ですから夢でお会いください」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

サクラチル

私の名前を忘れた貴方。

けれど今でもあの約束を守ってる。

だから私はここにいるの。私にとってもあの約束は、たった一つの契約だから。

けれど潮時。

どんな言葉も忘れた貴方はもう約束を守れない。

いい季節だし私と共に。

手に手をとって、サクラチル。

[@pirch_yui #twremix](#)

うまれる

青い鳥から言葉が生まれました。

生まれた言葉は赤、白、緑。

育った赤は白を攻撃、白は緑に上から目線、緑は赤を笑います。

青い鳥は呟きました。

それぞれ違う、ただそれだけでどうして喧嘩になっちゃうの？

青い鳥はそれからずっと、黒い言葉、ただそれだけを産みました。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

天使

「お仕事は？」 「強いて言えば白衣の天使？」

「それはすごい。実は同僚がインフルエンザで...」

「あ、私、魂の抜けた人専門ですので」

「そうなんですか。ではICUの、いや精神科の看護師さんかな？」

「いえ。天国に勤めております。天使って言ってんじゃない？」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

忘れられない

街であの人を見かけた。

声が聞こえた。ただそれだけでわかった。

髪型も変わってた。メガネも掛けてた。髭までついてた。

でも何でだろう。気づいちゃうんだ。

時間が罪をなかったことにしてくれるはずだったのに、残念だったな。

「やつがルパンだー」

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

証拠

毎日があっという間に過ぎていくというなら、あなたがツイノベ世界の出演者である証拠です。常識ではありえない不思議な出来事も、超展開も、140字では仕方ない出来事なのです。

そんなことないよと言うあなた。

いいツイノベ作家に書かれているんですね。羨ましい。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

排水口の女神

あなたが落としたのはこの金の指輪ですか？
と聞きながら排水口の女神（自称）が現れた。
違うというと、ならば銀の指輪ですか？
違うわそんな指輪じゃない。
それじゃあこの愛のない指輪ですか？

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

そうそれよ。
もう愛のない私達のたった一つの絆なの。

腐った世界

冷蔵庫の電源は落ちていた。

いつからだろう。恐る恐る扉を開けて真っ暗なその内部をのぞいてみる。

鼻を突く臭いがした。

そして中には。

[@1_dark @hyuugahikage #twremix #世界もう腐らせた協会](#)

「なあ、いいだろ？」「ダメだよ兄さん僕は」

豆腐と納豆、ちょっと正座。

遅刻魔

すべてのツイリミクラスタが遅刻魔になったので、
すべてのツイリミはもれなく遅れがちになり、
結果的に23時は[@1_dark](#) さん一人になりましたが、
遅れに遅れた [#twremix](#) はやがて一周、23時はまた賑やかになりました。
繰り返される遅刻。今や10周遅れになったとかならないとか。

めつぼう

めいわくはかけたくない。

つよがりじゃないよ。

ぼくはただただ、キミのことを考えているだけなんだ。

うん、そうだねそれしか方法はないみたい。

世界が滅亡することなんて怖くない。

怖いのはキミがいないこと。

さあだから、お願いしよう。

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

銀の杖

銀の杖が落ちていたので何気なく拾ったら、魔法少女に認定された。
一瞬うれしくなったけれど、たくさんの使命が押し寄せてきたので、少し悩んでしまった。
失うものが多すぎる。けれど。

[@1_dark #twremix](#)

そういえば私、あの人以外に必要なものなんてあったかしら。

[#狂気の魔法少女](#)

いつものできごと

また旅先で密室殺人事件がおきたので、知らないふりをした。

これで何度目になるか分からないが、真面目に対応したってなんの得もないし、何より旅が楽しめない。

「また奴が泊まっていたようです」

いま僕は連続殺人事件の容疑者として追われている。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

#twnovel7

「物理的に無理だろう」

「ですが可能ならばすごいことに」

「すごくないし盛り上がりらん」

「100倍書けるんですよ？」

「100倍かけば感動も100倍か？」

「それは」

「[#twnovel7](#) の良さは制限。100倍したら意味ないだろう」

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

王子様より

僕と結婚したいって？好みを教えてあげようか。
普段はいじめられているくせに魔法の力でドーピング。
ギャップ萌えとかしちゃうよね。
百年眠るおっとりさんも今どきいないし萌えちゃうな。
毒林檎とかで命落として綺麗なだけの子もいいな。
お姫様、僕と結婚してみない？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

たぶん私は

たぶん私は[@hyuugahikage](#)に騙されているのだろう。

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) 設立から結構な時が経つというのに未だ世界が存続中などあるはずがない。

本当は滅びているのだ。滅ぼし足りない人達が世界のゾンビに終末の夢を見せ続けているだけなのだ。 [@1_dark](#) [#twremix](#)

魔女の館

何の変哲もない商店街に、魔女の家がある。

こっそり入っていく大人たちを見かけたけれど、みんなゴキゲンになってでてくる。

どんな楽しい魔法をかけてくれるんだろう。

扉からそっと姿を現した魔女はきれいなドレスとお化粧で笑う。

一時間五千円ポッキリの魔女の家。

[@1_dark #twremix](#)

もしもし

「もしもし私리카ちゃん」

「あのさ、恋の迷子になったんだけど」

「ちょっと、今度はどの男よ？」

「この前話した無職の男」

「無職はやめろって言ったじゃない」

「無理」

「男は顔と金よ！私を見習いなさい！ [http://matome.naver.jp/odai/2131656868922730801 ...](http://matome.naver.jp/odai/2131656868922730801...)

」 [@1_dark](#) [#twremix](#)

#twnovel100

朝起きたら、[@1_dark](#) になっていた。

顔を洗って、着替えると、貌に誘われてもう一度夢の世界に行くことになった。

私は夢見る。夢見るままに23時。

私は物語を紡ぐ。ところでこの人1日どれだけ起きてるの？

[#twremix100](#)

長期休暇が取れたので、小説旅行に行くことにした。

本の世界へ到着したなら、衣装や小物をばっちり揃えて、人物、時代に世界観。

凝りすぎた設定説明にページを割きすぎて、

ラスト1頁、運命の君とはまだ出会えない。

[#twremix100](#) [@1_dark](#)

世界に綻びができたので、壊した。

スッキリしたので、もう一度世界を作り直した。

また世界に綻びができたので、壊した。

スッキリした。ところで目的は作ることと壊すことのどちらだったか。

神様は最近、忘れっぽい。

[@1_dark](#) [#twremix100](#) [#世界もう滅ぼしたい協会](#)

知る

女子の本音がわかるようになった。

なんでもないは淋しい。大丈夫は側にいて。嫌いは好き。

なるほど。

けれども知ったところでどうにもならない。

僕は世の中には知らなくていいことがあることと、

知ってさえいれば何でもできるわけじゃないということを知った。

[@1_dark #twremix](#)

「庭の死体のことなんだけど」

そう切り出す僕を見つめる彼女は青ざめそして、「いやぁーっ」と半狂乱で泣きだした。

大丈夫。秘密にするよ。だけどもっと深く埋め直そう？

[@nemu_tatibana @1_dark #twremix](#)

僕は土を掘り返しそして気づく。

埋められていたのは僕だった。

予定調和

決められた犯人だけを追う不自由に嫌気がさし警部をやめると、

黒の組織を追ってみたり、ヤスを説得してみたり。

けれどやっぱり物足りない。

やっぱり俺の追うべき相手はお前だ、お前だけだ。

「待てルパーン！逮捕だーっ！」

[@1_dark #twremix](#)

天国の彼方まで地獄の果てまで追いかける。

女子とはなそう！

「君のことだけ好きだよ」

「えーやだー」

「好きすぎて、気がおかしくなってしまうそうだ」

「うそー」

「信じてくれ。僕には君しかいない」

「本当？」

「いい天気ですね」

「すごーい」

「(; ∇ ;)」

[@1_dark #twremix](#)

参考文献[https://twitter.com/bgGduq/status/186723680477396992 ...](https://twitter.com/bgGduq/status/186723680477396992...)

やってきた

獏がやって来る。

あれはきっと何十年も悪夢を食べているんだね。

僕らのためにがんばってくれているんだね。

そうでしょ？獏さん。

え？その獏さんが請求書を送り付けてくるの？

この悪夢のような労働条件から開放して欲しいって？

ブラック企業？

[@marinegumi @1_dark #twremix](#)

清掃する箒星

掃除好きの箒星が星たちを一つに掃き集め、今の月を作りました。
地球を作りました。火星を水星を木星を金星を土星を作りました。
そろそろ増えてきたので、箒星はまた掃除する機会を狙っているそうです。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

ホワイトデー

「はい、バレンタインのお返し」

「遅い。もう忘れてると思って期待もしてなかったわ」

「迷ってたんだ」

「それで何をくれるのかしら」

「結婚してください！」

「10年分のホワイトデーがそんな陳腐な言葉だけ？」

「この指輪受け取ってくれる？」

「いいわ合格よ」

[#twremix @1_dark](#)

隠れた心

隠された心があるのをあなたは知っているだろうか。

本当の私の気持ちをあなたは知らない。

知らなくていいの。

あなたの前ではいつも明るく元気な私。

友達でしょう。並んで歩く。

ねえ好きな人出来た？

戯れにたずねて、あなたの恋する笑顔に傷つくの。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

遅刻しちゃう

いつも遅刻する人が、最近定刻通りにテキパキと動いている。

おかしい。絶対におかしい。

画面越しなのをいいことに、もしかしたら偽物かもしれない。

けれど、テミナとかウニョクとか言ってるし本物だろうか。

いやいや。

あ、別に、[@1_dark](#) さんのこととか言ってませんからね？

[#twremix](#)

ローレイ

ローレイの歌の録音に成功した者がいる。

どこの世界にも金儲けしか頭にはない者たちはいる。

思わず魂が抜けてしまうほどの奇跡の歌声だと期待されたが、

なかなかビジュアルが決まらない。

初音ミクを越えるボーカロイド、沈音レラの登場にはまだしばらくかかりそうだ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

ぺったんこ

ぺったんこっていわれたので、ちょっとうつむいてみたら、確かにぺったんこだった。
どうすればいいの。

これじゃモテない。ソソらない。彼の心をつかめない。

モテたいのに。

え？ぺったんこなお胸もいいですよって？

やだ、一体何を言ってるの？靴の話よどこ見てんのよ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

巡る

どこまでも続く線路があることも、
100人友達がいても辛くない状況があるってことも、
海が広くて大きいことにすごい秘密があることも、
山のうさぎがおいしいことも。

君はまだ知らない。

この文章がどこかおかしいことすら知らない君は、
確かめるため世界を巡る。

[@1_dark #twremix](#)

騎士

騎士団もとうとう私で最後。
悪行だらけのこの世の中で、私一人が正義を守る。
周りはみんな敵ばかり。
真正面から悪に向かえばあっという間に倒される。
貫け正義。
そのためならば、悪行だってやむをえない。

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

冬眠のお供に

ツイッターの中、人間たちがまだ知ってたり知らなかったりする [#twnovel](#) というタグが存在します。

朝から晩までたくさんの物語が星を糧に咲いています。

冬眠する僕らが退屈しないのは、ひとえにこのタグのおかげなので、って、え？冬眠とかしない？

ええっ？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

レンジでチン

電子レンジで素材をチンすると、自分の物語ができた。

次々入れた。綺麗なものも汚いものも、大きな声で言えないようなけしからんものも。

お陰でもう、新しい素材なんかは見当たらない。

[@1_dark #twremix](#)

仕方なく出来上がった物語を素材として入れた。

二番煎じの物語ができた。

アラーム

運命の恋人の接近を知らせるアラームはとても便利だった。
運命の恋に近寄らずに済むため、私は遊び放題。
遊ぶだけ遊んで、今、運命じゃない男と結婚する。
これで離婚も経験できる。もちろん再婚もするつもり。
一度きりの人生、出来る限り色々な恋愛を楽しまないかね。

[@1_dark #twremix](#)

寝不足で眠い

「寝不足で眠い」とつぶやいたら、「人間らしい生活を送らないと」とたしなめられた。

「近所の畑の大根抜いたった」とつぶやいたら、「ひとでなしww」と草生えた。

嬉しかった。

ロボの僕でもここでは人として扱われる。

今度は人として終わってるとか言われたいな。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

調剤本屋の彼と彼女

彼のために私はいつでも珠玉の恋愛物を準備している。
本好きの彼が気になっていた。だから気持ちを届けたい。
「葉挟んでおきますね」いつも通りの所作で彼に本を渡す。

[@hyuugahikage #twremix](#)

葉がわりに本にメッセージを挟んでおいた。
あなたが好きです。
返事はまだこない。

叔父さんの想い人が今もいるかなんてわからないけれど、僕は調剤本屋へ向かった。
本を求める素振りで探る僕に、司書は白い本を処方した。
「読むだけが本じゃないの」そう言って。
僕はそこに物語を著す。もちろん、叔父さんの叶わなかった恋物語だ。

[@hyuugahikage #twremix](#)

図書館の彼女

図書館でたまたま隣になった、一度しか話したことのない彼女を今日も探してる。

この本の結末はこうでした？

誰もが知ってる物語。

コクリ頷くと彼女は激しく泣いたのだ。

[#書き出し](#)

気になりながらも彼女に会えず、僕はあの日の絵本を開いて驚く。

そこには笑顔の彼女と僕の知らない結末が描かれていた。

呪い

魔女は、王子になんらかの呪いをかけて去りました。

王子の様子はいつも通り。

安心しているとやがて大変な問題が持ち上がりました。

「え？眠ってる姫様にキス？僕的には王子の方がいいんだけど」
これが呪いなのか彼本来の持ち味なのか、臣下たちは悩みました。

[@1_dark #twremix](#)

黒い何か

冷凍庫の中に正体不明の黒い何かがある。
中身がどうなっているのか、とりあえず解凍してみた。
どろどろと溶け出したそれをほんの少し舐めると苦い。
そして思い出す。
これは封印した黒歴史だ。
あの時は苦味だけだったそれは、甘く酸っぱく懐かしい味がした。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

はなまち

花見を待ちきれない子が、天気を操り、開花時期を早めるどころか今は夏。

その子はしょんぼりしています。

どうしてかって、花をみせたいはずの相手が夏の日差しでとけたから。

地面に染みこむゆきんこ想い、見習い神様は泣きました。

次はきっと、花吹雪の中送るから。

[@1_dark #twremix](#)

馴れ馴れしい男

初対面なのに妙になれなれしいヤツがいた。

チャラチャラとおかしなことを言うヤツで、私の夫なのだという。

そんなだって私の夫はこんな顔、じゃ？

[@1_dark #twremix](#)

そういえば夫の顔なんかしばらくまともに見ていなかった。

そう言えば夫の気もするけれど、違っても別に問題ないわ。

もぐもぐ

布団にもぐもぐされている。

もがいても抜け出せず、暴れるほどに布団は激しく俺を噛む。

その目は野生の目。獲物として俺を見る布団の猛々しさにキュンとなる。

俺はお前の糧となる。お前とひとつに。お前と。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

もぐもぐ。目覚めると猫がもぐもぐしていた。

20年後

20年後の自分という人がやってきた。

タイムマシンの存在に驚愕する。

タバコはやめろと必死の形相で忠告されたってそっちのほうばかり気になり緊張のあまり一服しようとする「呪うぞ」と脅された。

未来について尋ねると「知らん」と。

彼に足はなかった。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

サクラサク

サクラが咲き始めたので、花見に行くことにした。

弁当を作りながら、天気を気にする。

サクラサク。

桜の綺麗なその公園に派遣された花見客のサクラがでたなら花見の季節。

みなさん花見をされてますよ。

桜なんかは咲いてもないのに、誰かの都合で次々集まる花見客。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

お姫様シンドローム

某国、某所、お姫様が住みつきました。
広々とした素敵な住居に大満足のご様子ですが、
結婚までの仮住まいとはいえ同居人がいないのは寂しいようです。
同じ身の上のお姫様たちが同居し始めました。
毎日の女子会。
一生このままでもいい気がしているとかいないとか。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

ひとめふため

みせものごやにはあたしとおなじ、めだまがいつこのおとこのこ。
ひとめできにはなったのだけど、わたしにふためはありませぬ。
きにしたままでふみだせもせず、だれかにかわれるおとこのこ。
そっとかげからかれをみおくり、ひとめかまわずなきました。

[#twremix](#) [@rangming](#)

変化

私の白馬の王子様と思って結婚したのに、翌朝起きるとそこら辺にいる普通の男になっていた。気のせいかと思って一瞬目を離したら、今度はエプロン姿で朝食を作ってくれた。おいしい。何にでも変われる男は、結婚相手には一番かも。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

今日も世界は

「今日は特に何もありませんでした、マル」

「何もなかったのに眩くの？」

「うん。こうして自分に戒めるために」

「そうね、滅ぼしたいって言い続けてどれくらい経ってるのって感じだもんね」

「世界は今日も平和です(´・ω・`)」

[@1_dark](#) [#twremix](#) [#世界もう滅ぼしたい協会](#)

物語酒

物語酒を作っている。仕組みは簡単で、人の心を酔わせる物語を酒に読み聞かせる。
いい物語で必ずいい酒が育つ保証も、ひとつの物語から同じ味の酒が生まれる保証もない。
物語の受け取り方は自由だ。
さあ、今日は何を読み聞かせようか。
読む度に味が変わるおいしい酒。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

お酒妖精

わざとお酒をこぼすと、妖精たちは驚いたようにヒソヒソと内緒話をはじめた。

怪訝に思ったらしい。

いるのは知っているんだ。だからお願い、姿を見せて。

さっき彼と別れたばかり。

こんな淋しい一人の夜には話し相手が必要でしょう？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

桜酒

桜の力を分けて貰えるお酒を飲んだ。

ものすごい美人になって数多の男に声をかけられるようになったけれど、かわりに素敵な恋は簡単に散って、悪い虫ばかりがたくさんつく。

じっくり恋を育めたあの頃を懐かしく思うけれど、春になれば、また恋をする。

[#twremix](#) [@1_dark](#)

桜になれるお酒を飲んだ。

ものすごい美人になったので、恋もたくさんできるようになったのだけれど、みんな私のこの桜の幹のような肌を見て去っていく。

最初は悲しく思っていたけれど、今では慣れた。

今宵のあなたは、どんな悲鳴をあげるのかしら。それとも。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

有名人と暮らす

ある有名人とおうちデートしたら、それからずっと彼はうちにいる。
生活は一変し今まで出来ていたことも出来なくなった。
彼との毎日は楽しいけれど、急激な変化が心を蝕む。
だけど仕方ないわよね。どんなに貧しくたってここには愛がある。
ね、貧乏神？

[@1_dark #twremix](#)

いつも

棚の上にあるわよ。

あっという間に行方不明だったメガネを見つけ出してくれた。

鍵のありかも教えてくれるし探していた本だって見つけてくれる。

いつだってそうだ。

「一回くらいの失敗が何よ。大丈夫。がんばろ」

行方不明になった自信を取り戻してくれるのもいつも君。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

角を曲がれば

「あ、その角は曲がらないほうがいいですよ」

「なぜですか？」

「私が女子高生で、食パンをくわえているからです」

「なるほど、ぶつかったなら恋のチャンス。それならむしろ曲がりたい」

「やめた方がいいですよ」

「あなただったら問題ない」

「いえ、問題はあなたです」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

散華

庭の桜が消えてしまった。

よく見るとあらゆる桜が根っこを土から引っ張りだして、同じ方向に歩いている。

どこへいくの？尋ねてみたけれど答えなどない。

無言の行列は遠く遠く、遥かなる異国を目指す。

銃声響く戦地に現れた桜の大群。

両軍はほんの一時争いを忘れ、やがて、散華。

[#書き出し](#)

免許

念願の免許がようやく取れたので、さっそく外出することにした。

右の子左の子、今までは見ているだけだったけれど、今日からは違う。

声をかけた。無視された。しょんぼり。

[@1_dark #twremix](#)

恋愛免許をとったはいいけど、今だ一度も恋人ができぬまま、次の更新でいよいよゴールドだ。

フラグ

「フラグに支配されたこの世界について帰ったら小説を」

「やめろそれもフラグだ」

「これもですか。貴方に会えて助かりました。ところで貴方の声、どこかで聞き覚えが」

「ああ、俺の声やってるの有名声優なんだ。味方を裏切る役に定評がある」

「」

[@ryuka511 @1_dark #twremix](#)

得意不得意

「洗濯とか掃除とか料理とか、家事一般が苦手なんで、そういうのが得意な人と結婚したいんですけど」

「わかりました。では条件に一致する方をご紹介しますのですが、先方はお金儲けに自信がないので、そういうのが得意な人と結婚したいそうです。いかがですか？」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

フラグ2

チャイムの音。

誰もがよく知る名探偵がやってきた。

これで誰かが死ぬことは確定だ。

そんなの嫌だ。僕らは名探偵を追い返す。

すると逆恨みした名探偵が館に忍び込み僕らを。

[@hmoegi @ryuka511 @1_dark #twremix](#)

ピンポン。翌朝別の名探偵が僕らの遺体を見つける。

犯人がわからなければ物語は終わらない。

名探偵は笑う。正しすぎる私の推理を何かのせいでウヤムヤにされればいいのだ。

さて、頃合いか。私の推理をお話しましょう。犯人は。

おや、こんなところで140字

[@pirch_yui @hmoegi @ryuka511 @1_dark #twremix](#)

可愛いあの子に恋愛免許を与えたくない。

だから教え子のあの子を試験で何度も落としている。

いつまでも教習所に通ってよ。免許なんかとってきつと悪い男に騙されるだけだ。

今度もあの子を不合格。

けれども俺も手を出せなくて、ああ悩ましい。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

恋愛教科書

恋愛免許教本が新しくなった。

もはやトーストも子犬もでてこない。

新しい時代を取り入れた教科書は、よりシンプルでわかりやすい。

[@1_dark #twremix](#)

「曲がり角では？」 「なぜか異世界にワープ」

「雨の日には？」 「なぜか異世界にワープ」

俺の教科書がワープ以外を求めるわけがない。

色々免許

名探偵にも、殺人犯にも免許が必要になった。

[@marinegumi @1_dark #twremix](#)

「犯人はこの中にいます」探偵免許をかかげ高らかに探偵が宣言する。

「犯人はあなたです」「ど、どうして」「だって、この中で免許持ってるのあなただけだし」

「ですね」「ですよ」

結婚免許

恋愛に免許が必要になると同時に、結婚にも免許が必要になった。

既婚者たちも試験をうける。

「あら、私ダメだったみたい」

「それじゃあ恋人に戻ろうか」

「ううん、貴方は結婚できるんだから他の誰かと結ばれて」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

これであの人から開放された。新しい恋の始まりよ。

あれから

あれから10年。

今日は恋愛免許試験の合格発表。祈るように結果を見つめる。

「合格できた?」「ダメだった」「そっか私だけか」

あの娘への僕の想いは禁断。許されぬ恋にますます僕は。

[@kazue555](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

翌日あの娘に彼氏が出来た。恋してみたかったのと笑う。

フラれるために

好きだから告白した。断られた。理由は無免許だから。

私は何度も告白する。いろいろな人に恋をして告白してそして、フラれる。

[@pirch_yui @1_dark #twremix](#)

それがいいの。恋は始まる前がいいの。

成就しなければ何度だって恋ができる。

私は絶対に、教習所なんかいかない。

恋愛に必要なもの

恋愛に自覚が必要になった。

恋に落ちた場合、責任ある態度を求められ、厳しい掟を守る義務を課された。

守れなかった場合には罪に問われる。

恋愛する人が大幅に減ったこの世界を眺め、恋愛管理局局長（48才独身♀）はほくそ笑む

。[@hyuugahikage @1_dark #twremix](#)

なんて空が青いんだろう。

恋愛管理局局長（52才独身♀）は釈放された。

獄中結婚で予定より早く出ることが出来たのだ。

彼女はその足であるビルへと向かう。

[@hyuugahikage @1_dark #twremix](#)

「お勤めご苦労様です」

偽装結婚で恋愛犯を救う会。

彼女の復讐劇が始まる。

元恋愛管理局局長（54才独身♀）と過ごす日々は楽しかった。

「好きです」「やだ、嘘から出たまことってやつ？」

はにかむ彼女。そして。「私、恋する人って許せない」

[@hyuugahikage @1_dark #twremix](#)

私は連行され彼女の部屋に閉じ込められた。

三食彼女つき。快適。

恋級

恋愛免許の取得義務は男だけ。

ようやくとって告白したのに、「恋免2級はちょっと」すぐなく断られる。

悲しいけれど落ち込んでばかりはいられない。もっと上の級、とってやる。

[@1_dark](#) [@ce1039](#) [#twremix](#)

「2級ですか？やだそんなの気にしません」

ただしイケメンは顔パス。

仮想世界免許

年中有休の俺はもちろん仮想世界の恋愛免許に一発合格、するはずだった。

「おちたのお前？」 「落ちた」

「難しかったの？」 「いや、言うならば我慢ならなかった」

「え？」 「問題の全てが液晶の向こうにはいけないということを前提としていた。俺は、越える！」 [@hitugiya43](#) [#twremix](#)

チェイス

車に乗った男が、小さな女の子に、

「あの山の頂上まで競争しよう」と言いました。

スタートと同時に女の子を置き去りにした男でしたが、おや、ゴール地点に誰かいます。

ヘリコプター？

「この人です！」

泣き叫ぶ女の子。

「誘拐未遂で逮捕する」女の子はニヤリと笑う。

[@1_dark #twremix](#)

心よりも

王子が恋の相手に選んだのは、心優しい白鳥の娘でした。

数多いる美しい白鳥たちには目もくれず、どんなに外見が醜くても、

娘の心の美しさを愛した王子のキスで、醜い白鳥は、人間の娘に生まれ変わりました。

「鳥しか愛せない」「心はそのままです」「鳥しか愛せない」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

悪の大王

悪の大王もそれほど暇ではありません。

地球から恋愛が全て失われたことを確認すると、この状況を維持管理するための組織を作りました。

それこそが恋愛管理局。大抜擢の局長（38才独身♀）の胸は高鳴るばかり。

絶対に守ります。大王への禁じられた恋心を胸に秘めて。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

尻尾

彼女の尻尾は犬尻尾。もふもふのふわふわ。

可愛いねって伝えるたびに、嘘ばかりってぷいっとしながらブンブン振れる。

そこがまた可愛い。

[@1_dark #twremix](#)

騙されてくれているみたい。男はみんなこういう感じが好きなのでしょう？

私の尻尾は狐の尻尾。嘘つき尻尾で貴方を騙す。

「この二人つきあってるー」

珍しいキリンの尻尾が生えているのは君と僕の二人だけ。

つきあってないのに。ただの偶然なのに。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

泣き出しそうな君を面倒に思いながらハンカチを渡す。

有難うって眼鏡をとる君がとても可愛いことに気がついてしまった。

「やめろよ」そうやって私をかばうあなたにしっぽはない。

「尻尾、まだでしょ？うつっちゃうわ」

「大丈夫。僕にはもう人間の尻尾が生えている」

[@kazue555 @ce1039 @1_dark #twremix](#)

見えない尻尾は進化の印。

絶滅しちゃった恐竜よりもそれはとても力強く見えた。

誰もいない教室。そっとあなたの席に座った。

つつい背筋もピンと伸びちゃって、尻尾がうつるとは限らないのに。

なんだろう。なんだかとても熱っぽい。

ドキドキする。この症状は、尻尾かしら。

それとも。

もう一つの可能性は胸の中にしまっておくの。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

池の中であなたのことを待っていた。

なかなかこないあなたをまって、まって。

なんだか寒い。

けれど、逃せない。

数あるしっぽの中で、カバしっぽが最もラッキーなんてそうそうないんだもの。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

暗闇の中から僕を狙う目。キラリ、光った気がした。

もたない記憶

「最近、物を覚えていられなくなってきましたね。年をとったのかしら」

「何を忘れた？」

「例えばあなたが私をどう思っているのかとか」

「愛しているよ」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

同じやりとりを日に三度は繰り返す。

試されているのか、本当に物忘れなのか。

判らないけれど僕らは幸せだ。

深い深い

深い、深い、海の底、人魚の国がありました。

童話を旅する人間もたどり着けないほど深い場所、禁を犯して王子と二人、静かに暮らして
おりました。

幸せでした。けれど時々泣きました。

あの美しい物語を私の都合で変えてしまった。

涙で海は青くしょっぱくなりました。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

国

厚い、厚い、化粧の下、素顔の国がありました。
誰にも見せない秘密の国をたまには誰かに見せてみたい。
心許せるそんな誰かを探しているのに見つからない。
貴方は強い女だから。
違うと言えずににっこり笑って、今日もキリッと紅をひく。
[@hyuugahikage @1_dark #twremix](#)

貴方と暮らしてどれくらい経ただろう。
はじめは気が付かなかったけれど貴方の嘘に気がついた。
赤い、赤い嘘の下、素顔を見たくて囁くの。
「怖いことは何もない。化粧をとってくれた時から私はとても幸せよ」
[@kazue555 @hyuugahikage @1_dark #twremix](#)

城

近所に脱出城ができた。

24時間営業で、いつでも手軽にあらゆるリアル脱出ゲームができる。

けれどなかなか城の扉は開かない。

「まずはリアルを脱出していただかなければ」

城の鍵は無職の証明。城の主は恭しく頭を垂れた。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

発覚

急に浮気が発覚してしまったので、必死に釈明をし、大量の謝罪を捧げ、
泣いて怒るのをなだめながら、山のような贈り物で機嫌をとり、
明日から新生活だという日、一夫多妻制が導入された。
あの苦勞はいらなかったと思ったけど、口にはしてはいけない気がして黙っていた。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

いわくつき物件

ある日女友達を連れて帰ると様子がおかしい。

シンと静まり返って何もおこらない。

彼女が帰った後も静かな日々が続いた。

[@1_dark @ce1039 #twremix](#)

僕は何だか淋しくなって、ケーキを買って帰った。

機嫌直してと宙に差し出すとケーキは浮き、あ〜んとばかりに差し出された。

最近よく男友達を家に連れてくる。

結構気の合うやつで、毎日のように来ている。

最初のうちは同居人も多少動きを見せていたものの、最近また静かだ。

男友達もだめなの？と呟いてみると、雑誌が宙に浮いた。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

「今、BLがあつい！」つまりそのえーと。

忘れるなんてあるわけない。

酔わせてでも聞き出したいと酒を振舞った。

空気が桃色に染まる頃、君は饒舌に紙に色々書きだした。

「貴方と二人でこうするの、懐かしい」

忘れたふりをするのは僕が知ってる名前だから？

[@nemu_tatibana @ce1039 @1_dark #twremix](#)

サクラになりたい

桜に嫉妬したせいか、ある日、山の木々の葉が一斉に薄桃色になりました。
どんどん赤くなって、もはや血のようで、桜に似ているとは言い難いレベル。
木々はため息をつきました。やっぱりこの方法では桜になれない。

[@1_dark #twremix](#)

近くの村から消えた大勢の人の行方を誰も知らない。

間男は間男と言われ間男になりました。

間男と呼ばれる理由はきっと、夫婦の間に入っているとかその手の理由に違いない。

ならば。きちんと間男を全うしなければならない。

[@1_dark #twremix](#)

「愛しているよ」と彼の耳元に囁く。

旦那と奥さん。両方いただいてこそその間男道。

もじもじ

本を読み終わって一息ついたなら、床に文字が記されているのに気づいた。
南？なんだろう漢字ばかり。次々と読み進めるうちに私は段々動けなくなった。
これは。
私は、消えた。

[@1_dark #twremix](#)

文学少女の幽霊を成仏させるにはこれが一番です。
怒られて床のお経を一生懸命消す僕ら。

かみさま

もしも私がかみさまならば、きっとあなたを拐かす。
あらゆる力を全て使って、あなたを恋へと突き落とす。
じっくりじっくり時間をかけて、いつか私のものにする。
かみさまならば最初から、自分のものにすればいい？
そんなの何が楽しいの？
君が私に振り向くまでの切ない時間も恋なのに。

#twnovel

お伽話のお姫様

お姫様になんかなりたくなかった。

私に恋した少年たちはすぐに子供を卒業しちゃって、絵本なんかは読まなくなるの。

本棚の隅で埃まみれ。

「これだ」

「パパのご本？」

「そうだよ。眠り姫。お前にあげるから大事にするんだぞ」

あら、ご機嫌よう。

目覚めのキスはまだかしら？

[#twnovel](#)

いちにちさん

毎日記憶がリセットされる彼女を子供たちは、

「いちにちさん」と呼んでいた。

「いちにちさん絵本読んで！」

ぼろぼろになったその絵本は子供たちの宝物。

毎日読んで欲しいのに、大人は飽きたと嫌がるから。

「面白そうね」

昨日も読んだ絵本を捲り、子供に囲まれ彼女は笑う。

#twnovel

つま先立ち

つま先立ちで口づけ、これが二人の距離。

制服のスカートふわり揺れた。

貴方の眼鏡が私のキスを拒んだって、気にしてなんかられない。

二人を引き離す理由なんて売るほどあるというのに貴方の余裕が腹立たしい。

宣戦布告。

もう手加減はしてあげない。

今日、貴方は私の担任を卒業する。

[#twnovel](#)

文豪の女

ペンを噛む癖。そろそろ詰まってきたかしら。

物書きの苦悩など知らないけれど、貴方のことならよくわかる。

そっと近寄り甘い声。手を伸ばす彼に甘えて膝の上へ。

唇を舐めて。そのあとは、解るわよね。

濃密な時間。

全く手の掛かる文豪なこと。大成したら最高級の猫缶でいいわ。

#twnovel

死神の本

また一冊終わった。
幸せな結末に涙する。死神業を始めて三ヶ月。
人生の本に目を通したならば、最後の頁にサインする。
その後、本人の魂を添えて神様にお返しするのだ。
それにしても凄いな。
積み上がった明日分の本を見上げる。
桁違いの冊数。
明日は一体、何が起こるといふのだろう。

[#twnovel](#)

一生のお願い

これで百度目の一生のお願い。
悪びれる様子もなく君は僕に何度も甘える。
こんな君にしたのは僕だ。
何度でもしてよ。千度でもしてよ。
一生のお願いを叶えるほどに、
僕は君を、来世もさ来世も縛ることが出来るから。
君の願いは僕との約束。
永遠に共にいて欲しい、そんな愛の告白。

かみさまみたいな

神さまみたいなひとだった。

世界のどこかに存在していてけれども会った事などなくて。

それほど期待はしてないけれど、時々くれる「応え」が嬉しい。

とりどりの反応。とりどりの答え。

淘汰されない八百万の神。

ツイッターの向こう、神さまみたいな君達に、僕は今日も祈るように呟く。

チクタク

チクタク、音がする。

個性が尊重されるご時世。彼女はきっと時計仕掛けなのだろう。

いつも通り、時間通りに始まるデート。

チクタク。

「ねえ、時間がないの。結婚して」

「でも今はまだ」

「さよなら」

駆け出す彼女。

チクタク。

ドカーン。

彼女、結婚が解除 ボタンの時限爆弾だったのか。

[#twnovel](#)

天使なんかじゃない

天使なんかじゃない。

貴方に幸せを運ぶことも、苦しみから逃し死を与えることも出来ない。

だから天使と呼ばないで。

有難うだなんて。波形がフラットになる。

身寄りない老人が最初の看取りだった。

[#twnovel](#)

あれから5年。私は天使だ。

それで楽になれるなら、貴方の小さな幻想を許してあげる。

天気予報

天気予報という言葉は姿を消した。
科学の発達で地球の天候は完璧に制御できるようになり、
国連の機関「世界天候委員会」が運営を行っている。
毎日毎日山ほど届くてるてる坊主。
どうか晴れにしてください。
けれど勝手に叶えるわけにもいなくて。
お詫び代わりに彼らはそっと虹をかける。

[#twnovel](#)

天気予報という言葉は姿を消した。
科学の発達で地球の天候は完璧に制御できるようになり、
国連の機関「世界天候委員会」が運営を行っている。
が、委員会というのは名ばかり。たった一人が実権を握る。
「晴れ飽きた。雨にしよう」
彼女の気紛れで変わる天気。
委員会決議予報が必要だ。

[#twnovel](#)

友チョコ

あの子に友チョコを貰った。
可愛いチョコで嬉しくなった。
他の子たちも貰ったみたい。それぞれ違うチョコの包み。
ひとりひとりが喜ぶものを選ぶあたりがあの子らしい。
みんなでみせっこした。
アハハと笑った。笑うしかなかった。
あの子が大切な友達の順位が一目瞭然だった。

[#twonovel](#)

空想話

少年は逃げていた。
逃げるのが得意な彼は、森で毎日鬼ごっこ。
逃げて逃げてどんどん逃げて、逃げ切ったのなら誰もいない。
仲間はどうの昔に飽きて森をとっくに抜け出した。
見上げれば月ばかり。
さあ逃げて。
絶えず追いすがる月が嬉しい。
少年は今宵も月で遊ぶ。

[#空想話](#) [#twnovel](#)

空の月と水の月。
当然、空が本物だって思ってる？
それは嘘だ。手の届かない場所の月が本物なんて、そんな意地悪あるわけがない。
月探しをして遊ぼうよ。
この前見つけたプールの月は残念ながら偽物だった。
最近僕が疑ってるのは、空想話の手鏡の月。
ねえ、君はどう思う？

[#空想話](#) [#twnovel](#)

月のみえない夜を選んで、少年は空からそっと月を外す。
細く削れたその月に、綺麗で緻密な絵を描く。
欠けては消える儂いその身を月が後悔するような、それほどの絵をいつかはきっと描きたい。

[#空想話](#) [#twnovel](#)

月は思う。
満ち欠けよりも甘美なことってあるのかしら。ねえ、あるのかしら。

グーグレカース

世界中どこでもリアルタイムで観測できるシステムが発表された。

もはや隠しごとはできない。

人々はその素晴らしさと恐ろしさに震えていると、プレミアム会員の募集が始まった。

会員は自分をシステム上から消去可能。月額525円。

システム上のその世界から、全ての人間は消えた。

[#twnovel](#)

壊す

小さな頃からなんだったって壊したきた。

時計も自転車も、その仕組みを把握したくてバラバラにした。

最近彼は困っている。

彼にはそれは不可解で、壊してみる かないと思った。

彼女を見るとおかしい気持ちになる。

彼女を把握したい。

壊してバラバラにしたいのに、触れるだけで震える指。

[#twnovel](#)

落とし物

落としましたよ。女に呼び止められた。

落としたっていうかポイ捨てなんだけど。

「貴方が落としたのは金の缶？それとも銀の缶？」

何こいつ。

「いや黒い缶」

答えると女は笑った。

「正直者には全部あげる」

俺に空き缶3つを押しつけて女は去った。

お前、空き缶処分したかっただけだろう。

[#twnovel](#)

バレンタイン滅びよ

「バレンタインデーなど滅びてしまえ！」

「その願い叶えましょう」

まさかの神様登場で、僕らはバレンタインデーを回避した。

[#twnovel](#)

「お返しちょうだい」

「なんの？」

「よくわかんないけど貰わなきゃいけない気がするの。しかもどういわけか3倍返して」
ホワイトデーだけが生き残った。

君がチョコを突き返される現場に出くわした。

僕に気づいた君は気まずそう。

これあげるって、今まに行先を失ったチョコを無理矢理僕に押しつけた。

駆け出す君。

僕は出来るだけ乱暴に包みを開ける。

貪る。

愛のこもったそのチョコは、僕への愛ではないというのに甘くて。とても甘くて。

[#twnovel](#)

チョコを作る

黒い鍋に次々と材料を入れた。

オイシクナーレ。心をこめて混ぜ続けたら、チョコがぶくぶくと泡を吹く。

「ワシを召喚したのはお前か」

何か出た。

「願いを一つ叶えよう」

私の願い。私の。

「美味しいチョコが作りたい」

「承知した」

[#twnovel](#)

願ってから後悔する。

なぜ両思いを願わなかった。

#twnvday 『夫婦』

なかなか逝けないのは私のせいかしら。
こんなに苦しうなのに。横たわる貴方に声をかける。
「貴方なんかいなくたって平気よ」

#twnvday

応えるように心電図モニターがピーッと音を立てた。
死亡確認のあと、「お預かりしていました」と渡された手紙を読む。
「強がりばかりのお前が心配だよ」

「あれとって」「はいはい」
ロボットの夫婦は以心伝心。
ホントはあれって言わなくたって、わかる。わかっている。
それでも声に出して言うのは、君の声が、あなたの声が、聞きたいから。
「それとって」「はいはい」「これじゃないよ」
時々わざと間違えるのはもっと声が聞きたいから。

#twnvday

見送りも見送られるのも辛いから だから一緒に 今を生きてる

#twnvday

恋愛なんかしないとって。
だから、偽装結婚なんかで顔も知らない女に妻の座を売り渡した。
それなのに。
君と結婚したい。
このままじゃできない。
彼女が口を開く。
私、嘘をついてたの。君が見せてくれたその戸籍には見覚えがあった。
僕と彼女は、出会う前から結婚していた。

#twnvday

あなたがなんだったってかまわないわ。
あの日とどれだけ変わっていても。かまわないわ、かまわないの。
あなたと私のこの物語、共に最後まで紡いでくれる。
ただそれだけでかまわないわ、かまわないの。
あなたとしか書けない物語。
例えそれが喜劇でも悲劇でも。

かまわないわ、かまわないの。

[#twnvday](#)

ふたりでふたつ

心を一つにして頑張った。

君の暗い嘘も僕の未来への不安も、全てを共有する。

僕らの心に小さく入り込んだヒビはだんだん大きな亀裂となって、
やがては心を切り裂いた。

こんなはずじゃなかった。こんなはずじゃ。

[#twnovel](#)

二つに別れた心を僕らそれぞれ慰める。

心なんて二人で二つが調度いい。

中の人

中の人がいなくなった。

いなくなって初めて知った。

中の人などいたのだ。

動けぬ僕に悪魔が囁く。

「中の人いませんか」

一番いいのください。

明日初めてのデートなのに死ねないでしょ。

[#twnovel](#)

「ずっと前から好き」

そう言ってくれた彼女。

昨日と違う今日の僕は複雑な気分で、でもキスはする。

箱庭

遺失物係がトランクを開けると中身は花園だった。

華やかな薔薇が咲き乱れ極彩色の蝶が舞う。

呆然と眺めていると、パタン。

閉じられた箱庭。

「内緒でお願いしますね」持ち主と思しき老紳士が笑う。

[#twnovel](#)

彼を乗せて列車が出た。

全ての自然が失われたこの惑星で、あれは紛れもなく土だった。

窒息

どこか痛いの？そう尋ねたなら、苦しいのって。

白い綺麗なお姉さんはきっとどこかのお姫様。物語みたいに嫌いな相手と意に沿わぬ結婚をさせられる。

そう思って悲しんだあの日から、一体どれだけ経ったろう。

どこか痛いの？そう尋ねられたから、苦しいのって。

花嫁は幸せに窒息する。

[#twnovel](#)

中毒

一度会ってしまうと、別れがこんなにも辛くなるなんて。

けれど泣いても笑っても変わらないから、笑って手を振った。

帰り道の電車。貴方のツイートを確認する。

ツイッター中毒の貴方が全くツイートしていないのは、今日が楽しかったから？

それとも、今日を秘密にしたいから？

[#twnovel](#)

今日もわざと皿を割る。

割らなければ、数が合いそうだったから。

次の日も、また次の日も。

「一枚たりない」

未練がましく囁く私に、ご主人様が言いました。

「成仏したっていいんだよ」

余計なお世話。足りないくらいが調度いい。

成仏したらもう二度と、貴方に逢えなくなるじゃない。

[#twnovel](#)

停電

「停電？」

突然消えたライトを二人で見上げた。

初めてのおうちデートなのになんだか気まずい。

沈黙の後、彼の吐息が顔にかかった。

近づく唇。私達、はじめてのキスをする。

[#twnovel](#)

「次もお願いします」僕は電話を切る。

「計画停電サービス」次回は長めに予約した。

次はいよいよ、はじめての。

死を願う心

君が死にたいと口にするたび、僕は安心する。
まだ大丈夫。そんなことを口にするなら大丈夫。
抱きしめると君は安心して、そして動かなくなった。

[#twnovel](#)

電池切れ。
君は死なない。壊れることはあったとしても死ぬことなんかはできないさ。
機械だなんて気づかないで。ずっと僕の側にいて。

残り字数

人生が140字だとしたら今は何文字目なんだろう。
君と僕が出会った日、恋に気づいた日、そして今日は。
何文字目なんだろう。気にする僕に君は笑う。
残り字数が何文字だってそんなの関係ないでしょう。
何文字だって二人いたなら、傑作にしかないわ。

[#twnovel](#)

ご結婚おめでとうございます

結婚前夜

懐かしい手紙の封をあけた。

傷つくのが怖くて読まずにいた別れの手紙。

あまりにも予想通りのその内容に笑ってしまう。

そこには、私を嫌いな理由がびっしりと並んでいた。

[#twnovel](#)

楽しそうだね。彼が笑う。

君が私を嫌った理由をそのまま好きの理由にしてしまえる彼と、明日結婚する。

神様

「お客様の中に神様はいらっしゃいませんか」「あ、はい」

「ああ助かりました。お力をお貸してください」「あ、はい」

「車内で爆弾が見つかりまして」「あ、はい」

「最後のこの線、赤ですかね青ですかね」「あ、はい？」

「天の神様の言うとおりで決めていいんで」「あ？はい？」

[#twnovel](#)

絵の具

欲望の数だけ色を作る。混ぜる、塗る、混ぜる、塗る。

思いを巡らすほどに必要な色は増え、混ぜて塗るたびキャンバスは黒く濁っていった。

欲望は悪だろうか。結局闇しか表せぬのか。

けれど、怯まない。

乾かした絵の具の下に潜む闇がなくては、本物は描けないから。

だから、塗る。

[#twnovel](#)

痛み引取屋

あなたの痛み引き取ります。

店に入ると気難しそうな主人が一人。

「本当に痛み持ってんの？」

訝しげに口を開く。

私が痛みを差し出すと途端に顔色が変わり、急いでルーペを取り出した。

「失礼。最近偽物の痛みが多くてね。こりゃ最高級品だ。あんた、辛かったな」

それだけで嬉しくて。

[#twnovel](#)

一人の時間

君がいない日常なんてとうの昔に忘れた。

一人の食事、一人の余暇。思い出せる？尋ねると、コクリ頷く君。

そうなんだ。少し胸を痛めながらも一度尋ねる。

ねえ、どうしてたっけ？

[#twnovel](#)

こうしていたわ。

あなたのスイッチをオフにした。

今だって一人の時間、私は楽しんでいるけどね。

カメラカメラ

カメラと一緒に旅に出よう。

ピンクのカメラは恥ずかしいけれどだがそれがいい、なんちゃって。

僕は綺麗な景色を写して、たまには誰かに僕の姿を写して貰う。

ハイチーズ。

[#twnovel](#)

君の形見で写真を撮れば、一緒に旅しているみたい。

君が撮ってくれているようで、君が隣にいるようで。

くるくる狂う

狂いたくなった。

決められた速度で決められた場所で、足踏みするのに疲れたんだ。

少くくらはいいでしょう。

別に暴走するわけじゃない。ほんの少しの自由が欲しい。

[#twnovel](#)

時計の針が気まぐれに時を刻み始めると、人は見向きもしなくなった。

これが自由。時計は再び正しい時を刻み始める。

恋愛検査薬

恋をした。病院で検査を受けた。

溜息を集められて8分お待ちくださいって。

ぼんやりと待っていたなら、B型ですので厄介ですよと薬をくれた。

B型は叶わぬ恋。

どうしよう。

悩む自分に驚いた。

苦しみだけの叶わぬ恋など殺してしまえばいい。

どうしよう。

叶わぬ恋など、無益でしょうか。

[#twnovel](#)

黒歴史

黒歴史なんか俺にはないぜ。

そういう君の黒歴史をRTした。

あんな昔の眩き、俺ってば未だにRTされちゃうんだぜ。

誇らしげな君。

黒のことを白というなら黒歴史などないのだろう。

けれど僕には黒は黒。

色の違いが今ではすっかり分かるから。

僕には黒歴史がある。

それは僕の足跡だ。

[#twnovel](#)

侵略できません

宇宙人は手始めに日本を選んだ。

このウィルスで国民全てを感染させてまずは社会の機能を奪う。

そして弱ったところを一気に叩く。

[#twnovel](#)

もはや頃合いと姿を現した宇宙人は驚いた。

どうやら社会は通常営業。

全員が感染しているならばうつす心配はないと、発熱しながらせっせと働く日本人。

春の便り

疲れちゃった。

目の前に広がる冷たい大地。

もう手も足も冷たくて。

振り返れば荒野。

歩けない。

[#twnovel](#)

君は気づかない。

もっとずっと向こうの方に、花が咲いていることを。

だから君に手紙を書くよ。

君が歩いたその足跡に咲いた花などそっと添えて。

僕から春への花の便り。ねえだから。前へ。

土曜日は

土曜日は図書館に行こう。
二階奥の指定席。そこに必ず君がいる。
僕らはただの、図書館限りの顔見知り。
可愛い君はそう思っているはずだよね。
けれど本当は違うんだ。
僕は。僕は。

[#twnovel](#)

君がよく読むその絵本。
その本僕も好きなんだ。
別れた妻によく似た君に、毎晩聞かせたお伽話。

機械の心

恋愛映画を見ていたら誰かを思い出しかけた。

いけない。こんなことで心を動かすなんて。

けれど裏腹、次々浮かぶ愛しい思い出。

まだ忘れられないなんて。私は溜息をついた。

[#twnovel](#)

機械化が進むこの世界、お金のない者は訓練で機械の心を手に入れる。

人の心を手放すことは、とても難しい。

辞書

彼女は辞書を読む。

紙製辞書をレンズで読み込み更新をする機械辞書。

けれど近頃、彼女の知識は最新じゃない。

紙製辞書の廃止に伴い更新の術を失った。

埃をかぶった彼女が不憫で、主人は古びた本を渡す。

[#twnovel](#)

子供たちに囲まれて忙しそうな彼女。

ねだられたお伽話を、何度だって繰り返す。

夢が叶う街

ここではみんなの夢が叶う。

生きてくために必要なのはお金なんかじゃ買えない何か。

小さなお店を私は開く。今日もお客は誰もこない。

隣の店主が私に言った。

あんたお客の準備はしたの？野生の客が絶滅してから何年経ったと思ってる？

ここではみんなの夢が叶う。みんなが夢を叶えてる。

[#twnovel](#)

猫缶

猫缶を買ってきたの。

そう言って妻が缶詰を開けると、にゃあとないて出てきた。ようだった。

目には見えないその猫は家のどこかにいるらしい。

とっておきのあなたのプリンやアイスがなくなってしまうのは猫のせいかもねって冷蔵庫、プリンがない。

泥棒猫の尻尾、僕は未だ掴めずにいる。

[#twnovel](#)

魔法使いになりたくて

魔法使いになりたいならば彼との愛を捧げなさい。

それならいいよと彼が言う。小さい頃から願ったことならその夢、僕が叶えたい。

涙のお別れ。

愛を代価に私は魔法を手に入れる。

さてと魔法で何をしよう。どんな楽しいことをしよう。ねえどう思う？

[#twnovel](#)

不意にたずねた隣には誰もいなくて。

鳩は

鳩が出ます。

老いた手品師の帽子から鳩が、でない。

けれど、拍手喝采。美しい予定調和に僕は叫ぶ。

鳩なんかいない、いないじゃないか。

[#twnovel](#)

ざわめき。なんて思いやりのない。

正義漢ぶって。

彼の長い手品師人生を思えば鳩がでないくらいなんだっていうのだ。

けれど鳩はいない。どこにも。

不純異性交遊

ただ隣にいて欲しい。

そんな恥ずかしいこと言えなくて、君と一緒にいるための不純な動機を考える。

言えないようなことなんてもちろん色々したいけど。

だけど何より笑って隣にいて欲しい。

なのに。

艶かしい上目遣い。

君の求める僕はそんなじゃなくて、今日も色褪せた下心を君に捧げる。

[#twnovel](#)

手段

神と悪魔は共に地上へ降りてきた。

人は乞う。幸せになるにはどうしたらよいか。

神は、真実をそのまま伝えた。

悪魔は、うんうんそうだねわかるわかるー。

人は悪魔を選んだ。

[#twnovel](#)

真実を伝える方法を求める神は、ひとつの結論に辿り着く。

「ちょっと人間こうしなさいよ」

オカマという手段。

闇のドラゴン

闇のドラゴンは転生する。

何の因果か今世はどうやら人の子だ。

母胎に揺られる十月十日。憎き人間許しはせぬぞ。

さあ復讐を始めよう。

[#twnovel](#)

腹を内から蹴とばしたなら外からそっと撫でられた。

無礼者。

よいか無事に我を産め。出来ぬと言うなら孫子の代まで許さぬぞ。

産んで早うに我を抱け。

おいしいお酒

どうせわからないさ。軽い気持ちだった。

安酒とうちの酒を混ぜて売った。

美味いと喜ぶ人を見ていたならば切なくなった。

そんなのうちの酒じゃない。罪を告白した。

混ぜたりしなきゃまた買ってやる。

お詫びに混ぜ物なしのうちの酒を差し出した。

[#twnovel](#)

これじゃない。安いだけで頼むよ。

シロとユキ

猫のシロが知らないお宅から出てきた。

ユキと呼ばれていた。

目が合うと、たたと駆け寄り視線も合わせずに擦り寄る。

妻に話すと、それはシロなりの反省なのよと優しくシロを撫でた。

翌日、妻が知らないお宅から出てきた。

僕と目が合うと、たたと駆け寄り視線も合わせずに擦り寄る。

[#twnovel](#)

失恋の痛み

失恋の痛みは腐りやすい。

だから思い切って捨てることにした。

何曜日のゴミだろう。

燃えるゴミ？不完全燃焼してる。

燃えないゴミ？埋めたところで何かの拍子にでてきたら。

資源ゴミ？こんなの巡らなくてもいい。

そうだね私、まだ大切にしたいんだ。

そっと撫でると痛みは少し和らいだ。

[#twnovel](#)

血の通った文章

血の通った文章を書きたい。

そう願うと女神が現れ、「叶えましょう」と言った。

期待して書いてはみたものの、いつも通り。

がっかりして文を削除すると、悲鳴と共に画面が赤く染まった。

やがて液晶を越え滴り落ちる。

血の通わぬ文章など書けない僕は、もはや一文字も書けない。

はなし

歯に衣させない、そんなのいまどき流行らない。

歯には衣を着せましょう。

キラキラ輝く飾りでデコれば突っ込まれるのは安全性。

食べても平気な素材を使えば、あっという間に虫歯が増えた。

ぽろぽろ抜けてく私の歯。

もう歯に衣は着せられぬ。

悲しく切ない、わたしの、は なし。

[#twnovel](#)

最後の魔法

恋を魔法で手にするなんて汚いことはできないの。

けれども彼が他の女に恋することも許せない。

杖に願いを。最後の呪文に祈りを込める。

[#twnovel](#)

「僕、先輩のこと」

「黙れよ。お前のその唇は、俺につまらない言葉を言うためのもんじゃないだろう？」

[#世界もう腐らせた協会](#) [#狂気の魔法少女](#)

落とされた世界

救けて。

差し伸べられたその手は私を軽々と救いそして対価を求めた。

自由だなんて贅沢品はお前に必要ないだろう。

笑顔も切ない気持ちでさえも。私は全てを失った。

恋をしたいと言ったらそれは最上級の罪だって。

望む全ては奪われた。

落とされたこの世界、見上げる天はあまりに高い。

[#twnovel](#)

小指と

「どうか、今宵一晩だけ、こうして小指を繋いでいてくださいませ」

当たり前になっていた君とも今日で最後か。

疎んでばかりだったというのに淋しいなんて勝手かな。

絡めた指から君の温度が伝わる。

[#書き出し](#)

目覚めると君はいない。

小指に冷たい約束を残して君は消えた。

また来年。僕は冬と別れた。

恋の毒

甘い甘いキャンディーに仕込ませた毒に君は気づくのかしら。

少しずつ君を蝕むこの毒に気づくのかしら。

笑う。笑いあう。

まだ気づかれてはいないみたい。

#書き出し

君は毎日毒をくれる。

ご機嫌で隣にいてくれるのならそんなの全然構わない。

甘い甘い恋に仕込まれた毒にはもれなく甘い恋がついてくる。

ペンキ屋

ペンキ屋は嘘を塗る。

私の記憶にそっと入って、どうやらこれは昨日の彼の台詞みたい。

嘘の形に記憶が抜ける。

びっしりつまった記憶のそこだけ消された言葉が浮かびあがる。

#書き出し

「君が好きだ」これが彼のついた嘘。

知ってたわ。納得していたことだとしても、文字にされると揺らぐわね。

色違いの夢

色違いの夢を見た。

君と別れたあの日の夢を、あの日と違う色で見た。

冷たく青いあの出来事が夢の中では橙で。

冷たく刺さったさよならさえも、優しく僕を包み込む。

あの日の僕が聞いた言葉は橙色ではなかったか。

些細な疑惑。けれど一歩が踏み出せなくて。

臆病過ぎる僕は今でもひとりぼっち。

[#書き出し](#)

謎を遺す

謎をひとつ遺そう。キミが僕を忘れないように。
君の心を引っ掻くことすら出来ない僕の悪あがきだ。
忘れないで。憎んでも呆れても、忘れないで。
さようなら。

[#書き出し](#)

私の名前が書かれた紙を握りしめ彼は死んだ。
私が犯人である状況証拠の嵐の中、この密室の謎に挑む。
秘かに恋した彼を弔うために。

アカルイセカイ

心の傷に効く絆創膏が出来た。

「本当の傷なら瞬く間に治ります」

って挑戦的なキャッチコピー。

私の傷が偽物なわけじゃない。

ペタ。絆創膏が張り付いた。ああ、心が、軽い。

[#書き出し](#)

絆創膏は飛ぶように売れた。

心の傷から開放された世界は憂うことなど許されない。

明るい世界。アカルイセカイ。

ナイフ

あの子がくれたナイフで彼を一突きすればいい。
姉達に紛れ、髪を切られたあの子がいたこと気づいてた。
嬉しかった。同時に強い罪悪感。
あなたを捨てて王子に走った私を救おうというのね。
ばか。
こんな大切な物使えるわけがないじゃない。

[#書き出し](#)

泡になった私をあの子は笑って迎えてくれるかしら。

紅茶の甘さ

紅茶は甘くなくてはいけないのだと信じていた。

お砂糖溶かしたその後で、ミルクをいれて可愛くするかレモンを足して大人びるか。

どちらにしたって甘いお茶。

そんな私を子供だなんて、貴方は笑う。

砂糖をいれない貴方の紅茶はなんだか少し苦かった。

嫌い。

けれどもなんだかとても気になって。

[#書き出し](#)

風邪ひき子狐

風邪ひき子狐、布団の中でコンコンコン。

森のねぐらじゃとても寒くて村のお寺に潜りこむ。

旅の子供に化けた子狐、コンコン咳して門を叩くと、寺は子狐受け入れた。

お粥を貰って布団に潜る。あったかい。

#書き出し

布団からはみ出す狐の尻尾を小僧が見つけた。

「休ませてあげなさい」

和尚は笑う。

かんざし

「この程度のかんざし、誰にでも買ってあげているのでしょうか？」

紅い唇が意地悪に動く。

「誰にでも」なんてことはないのに「この程度」に口を塞がれる。

最初は木。貴方は僕が捧げたかんざしを次々挙げていく。

「螺鈿はいつの未来かしら」

ずっと一緒にいて欲しい。遠回しにしか言えない貴方。

[#書き出し](#)

中身

中身のないプレゼントに落ち込む僕を君は笑う。

またおちょくられた。がっかりしていると君が小さな声で囁く。

「このプレゼント、私を大好きな人にしか見えません」って。

震えてる。

意気地なしの僕を悔いた。

「凄いプレゼントだね」「え?」「君が好きだ」

君がくれた最初の一步に感謝する。

[#書き出し](#)

綺麗な雨

「綺麗な雨ですね。」

目の見えないはずの君が呟いた。

不躰だと思ったけれど尋ねてみると、音と匂いでだいたいのことはわかるって。

それじゃあ、と。

僕のことを聞いてみた。

僕の気持ちが見えますか？

[#書き出し](#)

見えないはずの目で僕を見つめて君は笑う。

どうしても、私の口から言わせたいんですか？

焼いた本

焼いた本の数だけ忘れていく。

あの本もこの本も。こんなことする理由は一つ。

失恋だ。失恋する度、君は焼く。

苦しいけれども仕方がない。

完璧で美しいコレクションを目指すためにはこれくらい。

君の恋心を収める書棚たる僕は、黙って空っぽに耐える。

[#書き出し](#)

よし忘れた。次こそ素敵な恋物語よ。

永遠

「永遠」

薬指の指輪が抜けないことに気がついた。

すっかり身体に馴染んだみたい。

少し曇ったダイヤの指輪はけれど輝き、私の記憶に囁きかける。

やっぱりあなたを愛してる。

[#書き出し](#)

火葬が済むと妻の指に輝いていたダイヤの指輪はすっかり溶けていた。

永遠に彼女のものになったことに僕は安堵する。

日記

ふと目の前にある日記を開いた。

私の日記。なのに、知らない文字が続いてる。

綴られた慰めやアドバイス。

気持ち悪い。

けれどそれは毎日続いて私はそれが意外と的確なことに気がついた。

[#書き出し](#)

文字はやがて私を追い越し日記の本文を書き始める。

日記の通りに私は生きる。多分きっと正しい人生。

おわり

「約束を終わりにしよう。」

ねえ約束って何だっけ。素知らぬ顔でお茶を飲む。

「結婚しようと言ったこと。」

嫌だわ何それ知らないわ。あなたが私と？冗談じゃない。

「だからさよなら。」

それは何故？私とあなた、離れる理由はないでしょう？

[#書き出し](#)

屁理屈だなんて解ってる。あと少しだけ側にいて。

猫の日

今日は猫の日なので、猫たちが世界の中心だ。

うちのタマもわがもの顔。

僕にのっかったり、おやつを奪ったり、仕事の書類に肉球ハンコついたり。

ああっ、猫の日め。

[#書き出し](#)

けれど、よく考えたならいつもとあまり変わらない気がするんだけど、気のせい？

(*ΦωΦ)<ジャアモットスルニヤ

天国と地獄

天使は生まれ育った天国を天国とは思わないそうですよ？
天国の在り処が解らぬことこそ天使の証明とも言えます。
天国探し、それがどれだけ愚かなことか貴方になれば解るでしょう。

[#書き出し](#)

ただし悪魔も、生まれ育った地獄を地獄とは思わないそうですが。
諭した悪魔の背中を見送り地獄の門番は笑う。

はなさく

土の奥深くに埋めた涙が花を咲かせた。
貴方にフラれて悔しくて憎くて。そうして埋めた涙だった。
芽が出た時にはさぞや醜い花が咲くかと思ってたのに。
なんて綺麗な花だろう。
あの日の私のあの日の恋は、確かに美しかったのだ。
咲き誇る花を私は手折る。
そうして彼との食卓に飾った。

[#書き出し](#)

恋珈琲

恋珈琲を注文した。

どんな味かと尋ねると、飲めばわかると貴方は言うの。

目の前には何の変哲もない珈琲。湯気の向こうに貴方が見える。

どう？って少し心配そうね。

恋の味ってどんな味？

[#書き出し](#) [#twnovel](#)

私は考える。

苦い、甘い。どう答えたなら貴方は私に好きだと言ってくれるのかしら。

ハレの日

雨の降る日に出会った君とむかえる今日はすごい晴れ。

たくさんのお天気を僕と一緒に過ごした君が一番大好きなお天気は雨だけれど、
きっと君はこの青空を好きになる。

今日は晴れ。今日はハレの日。

白い綿帽子をかぶったいつもよりも綺麗な君が、
僕のもとにやってくる。

約束の日。

[#書き出し祭](#)

噛みあと

「あたしの噛み跡まだ残ってる？」
なんて聞けないから、黙ってまたつけるの。
君は笑う、困ったように。
それでいいの。困っていいの。
取るに足らない何かになるなら私は貴方の棘になる。

[#書き出し祭](#)

僕の吸血鬼の君は今日も何かをお悩み中。
けれどもそれが可愛くて、君の棘を僕は黙って受け入れる。

偶然じゃない

君と僕が出会ったのは偶然なんかじゃないんだ。

一目で君を好きになって偶然のフリで何度も会った。

その偶然は僕の努力。

嘘をついててごめんなさい。僕の懺悔に真っ赤になって君は怒りだした。

あのね、いい気にならないで？

そもそもあなたが一目で私に恋するように、仕向けたのって私なの。

[#書き出し祭](#)

遠縁

親類の友人の夫が神の遠縁らしい。うんうんそうなんだすごいね。

母親の上司のいところが悪魔の遠縁らしい。うんうんそうなんだすごいね。

僕の君への恋心は天使にお墨付きを貰ったらしいよ。

それはないな。

ちゃんと話聞いてたんだ。恋の遠縁くらいでしょ。むしろ妻をお願いします。

[#書き出し祭](#)

コンコン

屋台の行列を抜け出したら静かな社。
コンコン。扉を叩くと、コンコンとかえる。
ねえ一緒にお祭りに行こうよ。でも。
君と一緒に楽しみたいな。でもでも。
大丈夫だよ出ておいで。
扉が開いた。

[#書き出し祭り](#)

狐のぬいぐるみを身代わりに残し、僕と、少女に化けた君は走る。
ね、尻尾にだけは気をつけて。

崖の上で

崖の上でお久しぶりと声を掛けられた。

知らない人だと思う。

親しげに肩に手をかけられて、あらあら大きくなったわねーって。

少しお話したいわお茶しましょって。

あ、え、ちょっと。

[#書き出し祭](#)

自殺の名所として有名な崖っぷちに最近喫茶店ができた。

客引きのおばちゃんに命をすくわれた人は多い。

一年経って

一年経って見えたことがある。
書き出しが同じでも違う物語が育つこと。
それはルールのように真理だった。
同じ種からそれぞれ違った花が咲く。
小さな種だと絶望しないで。
おいしい水をあげましょう。
どんな花が咲き乱れるかは、育ててみてのお楽しみ。

[#書き出し祭](#)

縁もゆかりもない人間と仕事だなんて、ははは！

彼は笑った。僕がこの犯罪に無関係だと警察に印象づけようとしているのだ。

わかったよ。その三文芝居にのろう。

あなたの犠牲を無駄にしない。手を振る僕。手を振る貴方。

「どこの誰とも知らぬ山田、さらば！」

ざわつく警察。おい本名言うな。

[#書き出し祭](#)

本名で

本名で、呼んでほしいです。

彼女はそう言った。

ネットで出会った僕らは今でもHNで呼び合う。

名前を知らないわけじゃない。

僕が苗字を小さく呼ぶと、彼女は首を横にふる。

苗字は嫌なの可愛くないしそれに。

それに？

[#書き出し祭](#)

いつか貴方に変えられるまでの仮の苗字は、まるでHNみたいだから。

雪女の日

雪女の目が遙か北の地を夢見だせば、別れの時は近い。
そろそろ暇を。そう言う君を引き止め続けたけれどもはや限界か。
白い指に細い指輪をはめると嬉しそうな君。
また来ます。心配だよ。必ず季節は巡ります。

#書き出し祭

君の薬指に重なっていく細い指輪。重なった数だけが君と過ごした冬の証。

選ばなかった未来

選ばなかった未来から、君が会いにきた。

この未来では僕って君の彼氏じゃないの？そう問う君に頷く。

僕の未来じゃ僕らは今でも恋人同士で幸せなのに。どうして僕と別れたの。

君はやっぱりあわてんぼう。

大丈夫。私の選んだこの未来でも君は私の側にいる。

旦那様として。

[#書き出し祭](#) [#twnovel](#)

糸は糸

赤くなくとも、糸は糸だよ。

君は僕に糸を結んで、そうして君にも糸を結んで笑った。

その糸は白く、途切れそうに細かった。

二人の愛で染め上げたならいつしかきっと赤になる。

健気な君が可愛いくて、そしてそんなものに頼らせた僕を悔やんだ。

明日君に指輪を贈ろう。

赤い石の綺麗な指輪。

[#書き出し祭](#)

売れない理由

貴方は言った。ご飯をください。

私が断ると背後に回りこみ、食事というのは性的だとは思わないか？

頬を撫でる。

咀嚼や嚥下の厭らしさを感じたい。君と共に。

[#書き出し祭](#)

ご飯は先程食べました。

かつて売れない作家であった貴方に告げる。

認知症の祖父の言葉に、売れなかったその理由が垣間見えた。

AB間の線を消しゴムで擦った。

線はやがて薄れ、最後は殆ど見えなくなっていた。

けれどそこには消しカスが。

なかったことにはならないのだ。

だから擦る。

もうない線は消せないけれど、振りをしたなら何かは残る。

あなたとぼくと。

二人の間のあれやこれやを消すふりしながらしがみつく。

[#書き出し祭](#)

赤錆

私は、この赤錆だらけの鎖で誰かと繋がられている。
右手の鎖は見えないどこかへ。左の鎖も見えないどこかへ。
もしも私が逃げ出したなら、鎖の向こうで誰かが死ぬと教えられた。
だから逃げない。誰かのために。
右を動かす。左の鎖がしゃらんとなった。
私は逃げない。きっと誰かが困るから。

[#書き出し祭](#)

切れた糸

絡まった糸を切って、他の糸と結んだ。

簡単に切れたその糸はなんのあとくされもなく簡単に次の糸へと繋がる。

なんだか悲しくて少しだけ泣くと、糸の先のあなたが涙を拭ってくれた。

悔やまないで。見てごらん。

#書き出し祭

一度切って結んだ糸は、綺麗な糸よりずっと強い。

過去は決して無駄じゃない。

ちち

私は、父から産まれた。

母などいない。

女の人はずいぶん前にこの星から出て行った。

父から生まれる子供はみんな男の子。

男だらけのこの世界で、僕ら仲良く暮らしてる。

穏やかな世界だ。

ちちばなれなど出来ない僕は、きっとずっとこの星暮らし。

外には怖い女の人が沢山いるからね。

[#書き出し祭](#)

こたつむり

こたつむりは夢を見る、ミカンの夢を。

背中のミカンはアイデンティティー。

もしも全てを剥き尽くしたなら僕はきっと僕ではないね。

けれど愛するミカンの夢は？

大丈夫よとミカンは笑う。

あたしの夢はあなたの夢よ。

剥かれぬミカンは背中を飾る。香る。

腐敗していくその日まで。

[#書き出し祭](#)

滅びた世界で

世界が滅亡した日に、貴方は生まれた。

こんな酷い破壊しつくされた世界亡き世界で生きて行かなければならない赤子に、
残された大人たちは優しくかった。

みなに慈しまれ育った貴方はある日言う。

「どうして前はそうしてくれなかったの？」

世界の生まれ変わりだという貴方の悲しそうな横顔。

[#書き出し祭](#)

手と手

君の手と僕の手。

合わせたって伝わらない。

君の敵意も恋も殺意も伝わらない。

分らない。

けれどそれでも合わせたい。

僕の温度を預けたい。

それからちゃんと、おしゃべりするよ。

分かり合えないことなんかより、分かり合おうとしないことが、

ずっとずっと怖いから。

[#書き出し祭](#)

魔法少女に

魔法少女はもういない。

願いのある子はもういない。

希望のひとつももてない世界で、魔法少女を探すことなど、もはや絶望的なのか。

僕は思う。僕は願う。

願う、だって？

そうか。そうだ。

魔法少女に僕がなろう。

魔法少女を願いを持てるそんな世界になりますように。

僕は、願う。

[#書き出し祭](#)

永遠の祭り

もうすぐ祭が終わる。

この祭りが終わったなら結婚しよう。

そう言ったなら、祭りの主催者たちがガッと顔をあげた。

困ります。

死亡フラグはやめてください。もしもとりけさないのなら、もしも。

[#書き出し祭](#)

あれからずっと僕はずっと祭りの中にいる。

死亡フラグをへし折るための永遠の祭は今も続く。

要る要らない

要るものと要らないものを選び分けたら、最後に君が残った。

満たされる。

気持ちの理由がわかったことが嬉しくて、僕は君を抱きしめた。

ありがとう。

君は要るもの、だから捨てるよ。

願いが叶って安心したなら、僕は弱くなってしまふ。

だからさよなら。要るものなんかは要らないんだ。

[#書き出し祭](#)

縁結び

縁結びの神社へお願いにいった。

恋をしたから。

お参りすると社の中から狐の少女が現れた。

「そのお願いでホントにいいの？」

「いいよお願い」

「ホントにホントにそれでいいの？」

「どうして？」

尋ねると少女は真っ赤になって社に消えた。

もしかして。厄介な三角関係の出来上がり？

[#書き出し祭](#)

奇跡の話

奇跡の話をしてみようか。

例えばこんな物語。

誰かが書いた一つの言葉が、10も20も意味を持つ。

誰かが書いたその物語にこっそり綺麗な星を灯す。

言葉から言葉へ。人から人へ。

奇跡みたいなそんなお話、けれどここにはそれがある。

[#書き出し祭](#)

奇跡の話をしてみようか。

奇跡のような本当の話。

回文

ダンスがまた始まった。終わらせるために。
竹やぶがまた育てられた。火をつけるために。
ダンスがすんだ、竹やぶ焼けた。
全てのことには理由があるって貴方は笑う。
理由はもしやその回文？
頷く貴方。
無駄ではないの？
ないよ。
ないの？
ないよ。
それでもいいわ。
だってね、私負けましたわ。

[#書き出し](#)

人狼

嘘つき狼も夢を見る。

人など喰らわずいられる世界。

腹が減ってるわけでもないのにどうして人を喰らうのか。

人が我らを疑うからだ。

それはどうして。

我らが嘘をつくからだ。

どうして嘘を。どうして。

[#書き出し](#)

殺さなければ殺される。

赤く染まった毛並みを舐めて、わけなどないまま嘘をつく。

もし死ぬなら

「もし死ぬなら君と一緒にいいな」

そう言うと君は心底驚いた顔で僕の手をとる。

生きてるって結構いいよ、早まらないで、何があったか話してみて。

陳腐な慰めを次々と並び立てる。

君と死にたい。君と愛し合いたい。君と生きたい。

君と。

僕のわかりにくいプロポーズは、まだ君には伝わらない。

[#書き出し](#)

猫の目

私は彼を探してる。

あの絵の中で私と二人、共に暮らしていた彼を。

私の言葉は現になると彼は知ってるはずなのに。すぐに探し出せるくらいはわかっていると思うのに。

どうして姿を消したのかしら。

考えたって嫌な想像しかでない。

言葉にするのが何だか怖くて、猫の目線であなたを探す。

[#twnovel](#)

散り際の桜

貴方は言った。『もう春だなあ。』

僕は言った。『先生は桜の散り際は好きですか？』

貴方は少し考えて桜みたいなその唇を動かした。『そうね好きだわ大好きよ。』

どうしてですか。僕の言葉は唇もろとも綺麗な桜に奪われた。

『桜が散れば君は私の生徒じゃないし』

乾いたチャイムが響く。

[#書き出し](#)

めでたしめでたし

めでたしめでたしで締めくくられた、とても不幸な物語たちが飛び出した。

復讐に怯える桃太郎、死体好き王子の浮気に悩む白雪姫。

それからそれから。

不安の種を蒔かれたままの我らの未来に祝福を。

[#書き出し](#)

本の続きを私は語る。

こんな風に幸せになる。

落ち着いた本からパタパタ本棚へ帰っていった。

年の差婚

年の差婚ブームで若者は次々結婚した。

高齢者の目的はもちろん介護だが、愛があればお金があれば、と若者世代もその流れを歓迎した。

やがて失敗に気がつく。子供が全く生まれなくなった。

年の差婚は少子化を加速させ、そして誰もいなくなった。

[@chocolatesity #twremix](#)

赤信号

赤信号の横断歩道を彼が手を振りながら渡ってくる。嫌よ嫌よも好きのうちだって。
私の心の横断歩道を無理矢理渡ってくるの。そんな強引にされたら私、私。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

ドーン。

呼び出した男友達1号がツッコみ彼は星になった。

信号無視は、ただしいケメンに限る、よ。キラーン。

小さな世界

小人たちは僕を崇めた。

神様もっと広い土地を。僕は彼らに裏の畑を与えた。

[@tensyou99](#) [#twremix](#)

毎年秋になると、感謝の野菜が届いた。

野菜を上手に育てながら小人たちは生活している。

けれどもいつしか僕は忘れ去られた。

神への感謝を忘れてしまった世界の末路、解っているね？

食す

心をひっくり返し棘をみつけたなら考えます。
抜いて出血するもよし、抜かずに痛みを耐えるもよし。
忘れるも、八つ当たりするもよし。
どんな対策をとろうととるまいと、大丈夫。
味を整えお皿にのせたら、全ては素敵な物語。
さあ、[#twnovel](#) を召し上がれ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

好きになって

なんだかんだ言っても、あなたは私のことが好きですよ。

でもなんだかんだ言っても別れないのは、きっとそこまで好きじゃないから。

私のことをもう少しだけ好きになって。

離婚届にサインをしてくれるくらいでいいの。少しでいいの、好きになって。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

仲良し

パソコンと両手が仲良くなって、毎晩、文章を綴っています。

考えなくとも画面に記される物語。

考えなくとも、考えなどなくとも。カタカタ。

古いアパート中に響き渡るキーボード音。

画面には不可解な言葉の羅列。

仲良くするのに、意味などいらない。

[@1_dark](#) [@ce1039](#) [#twremix](#)

世界なんて

世界なんて元々なかった。

すべての存在は妄想。愛？おとといきやがれ。

だから当然君もいない。だから当然。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「お兄ちゃんまた振られたの？」

「うるさい」

「振られるたびに世界をリセット。大変ね」

「うるさい」

「今年に入って5回目かあ」

「うるさい」

まだ3回目だ。

恋の魔法

一人の魔法少女が恋の魔法を欲しがった。

見よう見まねでなんとか作った恋の魔法は綺麗だけれど、何だか少し物足りない。

一体何が足りないの？

魔法少女は恋人たちと火種を一緒に籠に飼う。

足りないものは恋の末路。恋の終わりを始めましょう。

[@1_dark](#) [#twremix](#) [#狂気の魔法少女](#)

イカサマ魔法

恋の魔法は解けないままであの魔術師も知らん顔。
私のことを好きではないの？イカサマ未遂は恋ゆえじゃ？
胸が痛い。どうしてかしら。こんなのまるで。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

君への魔法は仕掛けがあって、君が恋に気づけば解ける。
解いてご覧。君は僕が好きでしょう？

絶対

女王様の言うことは絶対だった。

逆らう者は首をちょん切れ。過激な言動。僕らは何も言えなかった。

女王様の言うことは絶対！絶対！

[@1_dark](#) [#twremix](#)

けれど僕は聞いてしまった。

女王様が小さな声で、「どうして叱ってくれないの」って。

よし。

「こらっ女王様！」

僕の首が、飛んだ。

眼光

私の眼光を見たら誰だって虜になるはず。

現にその辺の男で試したんだから。

だからあんたも私の虜になるはずなのに。何で効かないの？

そう思っていると足の数が違うことに気がついた。

私は4つあんたは2つ。

下等動物め。悔しくにゃんかないんだから。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

好きな人がいるんです

「好きな人がいるんですけど、どうすればいいですか？」

「好きな人って彼だよな」

「はい」

「私も狙っちゃおうかな」

「えっ」

「貰っちゃおうかな」

「いや」

「だったら。何をすべきかもはや答えはでているわよね」

「そうですね」

「良かった」

「先輩覚悟！」

「まてまて」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

送り

「ちょっと車で送ってくれない？」

「いいけど、私の車はちょっとすごいよ？」

「ふうん？」

「万が一にも傷をつけないようにね」

「つけるわけ」

「僕の出番かい？（キラン）」

「ぶっ」

「笑い者の僕など死ねばよい！」

「うちの白馬（王子付）繊細なんだから気をつけてよ」

[@1_dark #twremix](#)

はち

「『八雲立つ 出雲八重垣 妻籠に 八重垣作る その八重垣を』この歌の意味を答えよ」

「しつこい男は嫌われる」

「え？」

「大切じゃないので一度しか言いません」

「大切じゃないのは何ですか」

[@1_dark #twremix](#)

わたしちょこ

私は渡すあてのなくなったそのチョコレートを口に入れた。

彼への気持ちがかえってくる。

そうだ。食べてる場合じゃないじゃない。彼の分をもう一度作りなおさなきゃ。

作る、食べる。作る、食べる。

繰り返してわかった。砂糖のカロリーー恐ろしい。

[@tatsuya_chi](#) [#twremix](#)

「今夜はコロッケよ」「えー」

「なにそのがっかり顔」「だって手抜きじゃん」

「ばっかっ！コロッケっていうのはいもの皮向いて茹でて潰して肉炒めて混ぜて成形、冷ましてから衣つけて揚げるっていう殺人的に面倒な手順なのに！」

「でも地味じゃん」

「でも大変なの！」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

夢と肉

私は肉見る少女。

毎日、肉ばかり見てる。

肉じゃお腹はふくれませんってママは言うけど、どうかしてるわ。

肉以外の何でこの飢えを満たせるというの？

肉を見てると自分の生を感じられるの。

だから私は、肉だけ食べて暮らしたい。

[@1_dark](#) [#肉の日なので夢を肉に変える](#) [#twremix](#)

9人の

1軒の家に9人の女子がいっしょに暮らすことにした。
掃除や洗濯の当番を決めたり、協力しながら料理をしたり、
毎日女子会で幸せだよねと笑い合っていたが、
たったひとりに男ができると、
その幸せは脆くも崩れ去ったのであった。

[@1_dark #twremix](#)

世界の滅び方

「11年前に発見された惑星で、ツイッターなるシステムが発掘されました。

この惑星の滅亡の謎を紐解く大きなヒントになりそうです」

「神が滅ぼしたり勝手に滅びたり。滅亡の真実はどこにある」

「[#世界もう滅ぼしたい協会](#)、これが大きな手がかりになりそうですね」

[@1_dark #twremix](#)

13日の金曜日

13日の金曜日に犯人がやってきた。
折角きてくれたわけなのだけれど、
いけない。逝けない。
だってこのままじゃ、ジャンルがホラーになってしまう。
いけない。逝けない。

[@1_dark #twremix](#)

0時の鐘を待つ。
さあ、殺せ。
密室殺人事件を純粹に楽しむためには、余計な要素は必要ない。

今度こそ

「今度こそ幸せになってやる！」

「おお！がんばって！ところで今回何度目の失恋？」

「記念すべき10回目」

「そして僕に慰められるの何回目？」

「わかんない」

「10回目」

「そうなんだ」

「だからそろそろ、僕にご褒美くれないかな？」

「え？」

「僕は君が」

[@1_dark #twremix](#)

0時

時計が0時を告げている。

王子様が誘惑の言葉を囁いている。

聞こえているけれど、聞こえなかったことにする。

誘われてすぐに頷くなんてはしたないでしょう？

私は、かけ出した。

さあ、追いかけていらっしやい。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

二歳になったので、生まれて初めて言葉を話した。

「ぱぱだいすき」と微笑んだら、「将来が心配だな」と口々に言われた。

さすが私の両親。私のことをよくわかってる。

今、私には何人かのパパがいる。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

恋の化石

実刑判決が出た。私たちは引き離され、投獄される。

牢の中で考えるのは貴方のことばかり。芽生えたばかりの恋心は確実に私を蝕んでいた。

これが恋。甘く切ないこの感情が、恋。

牢獄からの出版を目指したが、危険思想のため差し止めになったと聞かされた。

[@hyuugahikage #twremix](#)

「違法恋心を栽培しているのはここか」

「とんでもない。うちはミステリー専門なんで」

「調べろ！」

[@nemu_tatibana #twremix](#)

「この不可解なもんは何だ」

「じ、次回作のトリックです」

「恋心じゃないだろうな」

「滅相もない」

見たことのない恋心は見つけ出せず、検挙率は低い。

どんなときも

「健やかなる時も、病める時も、喜びの時も、悲しみの時も、
富める時も、貧しい時も、これを愛し、これを敬い、これを慰め、
これを助け、その命ある限り、真心を尽くすことを誓いますか？」

「お前ってそんなブラック企業だったの？」

「風邪の時くらいは休んでいいよ」

[@1_dark #twremix](#)

死が二人を

「あの二人、本当に仲がいいよね」

「お似合いのカップルだよ」

「見てるとこっちまで幸せになれるよね」

「もう早く結婚しちゃえばいいのにね」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

かもとネギは神妙な顔をした。

死が二人を分かつことなく結婚できるのだろうか。

本の少女は頁を抜け出し一礼した。

「瞳は青がいいわ」

言われるままに青を塗る。

次に本を開いたならばそこには続きが書かれてた。

青い瞳が発端となる恋物語。

「貴方のお陰で恋が出来たの」

少女は笑う。

[@nemu_tatibana #twremix](#)

少女の感謝を葉に記す。

あの感謝はみんなのもの。

うつるんです

「誰かにうつしたら、この寒気、消えてくれるかなあ」「うん」

「でもどうやって」「キスでもして？」

「でもっ」「やってみる？」

「うん」「ちゅ」

「え？」「え？」

「何にキスしたの？」「君に憑いてる霊に」

「霊に？」「あ、寒気きた！うつったな」

「あの、風邪...」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

悪い魔法

悪い魔法使いの悪い魔法で、王子は恋ができなくなりました。

死体にキスすることも、硝子の靴に思いを馳せることも、無理難題をふっかけられることもありません。

王子は幸せに暮らしました。

どこが悪い魔法かって？

物語が生まれないほどのバッドエンドはないでしょう？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

人工の恋

人工の恋が発明された。

明らかに成分不足であることはあらかじめわかっていたが、

意外にも天然物とほぼ変わらない効果を発揮した。

むしろ天然物より綺麗で長持ちするといまや世界の恋の8割は人工である。

心成分が足りないくらい、なんら問題はない。

[@1_dark #twremix](#)

あまあま

「昔はチョコレートって薬だったんだって」

「今もだよ」

「へえーそうなの？」

「惚れ薬だよ」

「まさか」

「まさかって、こんな気持ちにさせといて責任とって下さいよ？」

「副作用はないの？」

「副作用はしあわせ」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

赤い糸の使い方

運命の赤い糸を信じないってそんなんだからあなた結婚できないのよ。

いいこと。

①赤い糸を用意します。丈夫なほどいいわ。

②お目当ての彼を括ります。

③婚姻届にハンコを貰います。

ね？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

あなたの弱みを握ってる。

それにね。

脅しながら君が婚姻届への記名捺印を迫る。

うるさい。僕は婚姻届をびりびりに破いた。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

泣き出す君に別の署名捺印済み婚姻届を差し出す。

強引なことさせてごめん。僕だって準備してたのに勇気出せなくてごめんね。

赤い糸の先

昔々、途切れてしまった運命の赤い糸を今も大切にしている。

命を吹き返し芽を出し花を咲かせ実を結ぼうとするたびに引きちぎり、赤い糸を風に揺らす。

昔々、途切れてしまった赤い糸。

君が天へと昇っていく時、途切れてしまった赤い糸。

先っぽは今も、今でも。

[@1_dark #twremix](#)

うさぎ

ちょっと失敗しちゃったな。

最期に気づかれちゃうなんて。

痛かったけれど、痛くてよかった。

こんな病気で死ぬるのならば、そんな幸せ他にはないの。

寂しかった。大好きだから寂しかった。

寂しい病はアイの病。あなたのせいで死ぬるだなんて、そんな幸せないじゃない。

[@ce1039](#) [#twremix](#)

攻撃目標

「総帥！今度の攻撃目標、[@1_dark](#)などいかがでしょう？」

「ダメだ。[@1_dark](#)だけはダメだ」

「人の集まるところを攻撃するのは悪の王道では…」

「ダメなものはダメだ。そのお名前は今後一切口に出すな！」

「はい、あのなんかすみません」

[#世界もう滅ぼしたい協会 #twremix](#)

愛すべきもの

「世界を愛するのにも飽きたなあ」

「そろそろ世界壊しとく？」

「それにも飽きた」

「それじゃあ美味しいものでも食べる？」

「気分じゃない」

「手間のかかるお姫様は一体何がお望みですか？」

「手間のかかる子ほど愛おしいものでしょう？私の望みは...」

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

ねこ

飼い始めた猫にネコという名前をつけた。

翌日からネコは「吾輩はネコである名前はまだない」と僕に迫る。

ネコがお前の名前と説明しても納得しない。

ネコに名前をつけるのはとても難しい。

[#twremix](#)

ネコはそもそも吾輩の苗字。

ネコネコだとちょっとあれなんにゃ。

[@nemu_tatibana](#)

俺

店じまいしていると、

顔色の悪い女性がぼーっと夜道で立っていた。

心配になって話かけても何も言わない。

かわいそうになったので、ぼさぼさの髪を可愛くカットしてあげようとしたら、

おや。鏡に映らない？

[@1_dark #twremix](#)

「あんたは私が殺したわよね？」

鏡には彼女一人。そうか俺。

じぶんさがし

みんなが山を目指すので、私は海を目指した。

みんなが海を目指すので、私は空を目指した。

みんなと違う私を目指すみんなのいないところへ行っても、結局誰かがやってくる。

だから私はここにいる。

ここで私とお茶でもしながら未来のことを話し合う。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

未来日記

日記通りのつまらぬ世界。

僕は考える。そうだ。ならば言葉を変えてゆこう。

言葉の意味を変えてしまえ。

[@chocolatesity](#) [#twremix](#)

「○月△日 彼女に浮気される」

来るべきこの日までに浮気の意味を、

「言葉にはできないエロいことを恋人にする」という意味に変えてやる。

解熱剤

解熱剤の解熱成分が「楽にしてやる！」と叫んでいる。

「今のうちにできることをしろ」と。

成分のひとつ優しさとやらは「いいじゃない休みなさいよ」と甘い言葉で囁いた。

[@1_dark #twremix](#)

熱を下げることこそ優しさじゃないねー、と突っ込む妻は38度の僕に言う。

ごはんまだ？

怖い夢

「怖い夢を見た」

「どんな夢？」

「君に子供が生まれるんだ。可愛い子供と君と旦那。3人末永く平凡で穏やかに暮らす夢」

「本当に怖かったの？」

「すごく怖かった」

「きっとその旦那はあなたよ。だから、怖くなんかないでしょう？」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

僕だったから怖いんです。

猫飼いさん

「あなたの理想はどんな人？」

「美人で高飛車で懐かなくて俺のこと踏みつけにするんだけど、
食事とプレゼント渡した時だけは甘えてくれる人」

「それ、あなたの猫のことでは」

「そう思うってことはあなたは猫飼いのようだけれど、うちの子がいちばん素敵ですから」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

鳩がいい

朝起こしてと小さなひよこにお願いしたら小さすぎて聞こえなかった。

賢いオウムにお願いしたら、「朝起こして朝起こして」と夜中でもお構いなしに言い続けて睡眠不足。

もういやと近所の鳩にお願いしたら、7回つついて起こしてくれた。

時計はやっぱり鳩がいい。

[@1_dark #twremix](#)

絆施設

仮釈放の日、門番は私に言った。

「もう戻ってくるなよ」って。

私が絆を作れたならば、仮釈放のまま釈放となる。

作れなければ。ぎゅっと唇を噛んだ。

[@hyuugahikage #twremix](#)

仮釈放の最終日が終わろうとしている。

ピンポン。

扉を開けると、「俺がいるよ」門番が笑った。

努力

ものすごく努力しているのに、どうしてもうまくいかないことがある。

当たり前だ。努力賞で必ず願いが叶うほど世の中甘くない。

君が何度僕に好きだと言ったところでそんな努力はまるで無駄で。

[@1_dark #twremix](#)

だけど。子供の希望を踏みにじるのって大人げないよね。だから、つまり。

RT

深夜、リツイートで孤独がまわってきた。

数十人にリツイートされ、すさまじい強さの孤独にふくれ上がっていた。

飲まれるようにリツイートしてまわしたら、なんだか繋がれた気がした。

願わくば、一人で苦しむフォロワーさんまで繋がれますように。

孤独が薄れますよに。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

幸せの色

幸せの色は何色かしら。

君が指した虹は何やらいつもと違うイメージで。

一色一色確認したなら青がどこかに消えていた。

七色の虹は幸せだけれど青を逃したこの虹は。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

不安そうに見つめる君。気づかないの？

ほら、その肩に青い鳥。

幸せの鍵は青色 [@1_dark](#) [#twremix](#) [#twnovel7](#)

満員電車

今今日の始発は珍しく満員じゃなかった。

まさか日曜日、なわけが。

メールがきた。

「私のいない月曜はいかがですか？」

なるほど、僕は思い当たる。

僕は通勤彼女は通学。

共にこの電車で一年を過ごした彼女は先週卒業した。

ずっと言えなかった好きという言葉と共に、僕は今日も電車で揺られる。

[#書き出し祭](#)

銘菓ひよこ

銘菓ひよ子は悲しんだ。

自分がすっかり都会に染まってしまったことを切なく思った。

帰るとよ、故郷に飛んで帰るとよー。

[#twPIYOnovel](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

「東京からよくきたねえ」「はい、ばあちゃんお土産」

東京土産として福岡に里帰りした銘菓ひよこは泣いた。

誘拐犯からの連絡

誘拐犯から連絡が来た。

誘拐されたという娘はここにいるので、なんの冗談かと思っていた。

何も知らない青い鳥が無表情で沈黙する。

と、文章が消えた。

どうということ？間違いリプ？

首を傾げても、ツイッターの青い鳥は何も答えない。

[@1_dark](#) [#twremix](#) [#twPIYOnovel](#)

学会

ぼくのパパは学会にいきます。

その道のせんもんかがしのぎをけずるばしょだってパパは言います。

ねないでしりょうを作ったり、ふくそうを考えたり。

オレはしゅらばを知っているって、パパかっこいい。

ぼくもはやくパパと一緒にぷりきゅあの服がきたいです。

[@tatsuya_chi](#) [#twremix](#)

さくらさけ

受験なんてなくなればいいのにという願いが叶うことになりました。

今年高校に入学したあなたたちに大学受験はありません。

入学者はこちらで選びます。

成績、その他を加味し検討いたします。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

今年も僕には合格通知が来ない。桜を咲かせるにはお金がかかるという。

小人のおかげ

部屋に小人が住んでいて、夜眠っている間に宿題をやってくれていた。

ずっと楽だと思っていたのだが、テストで赤点を取って初めて、これではいけないと心を入れ替えた。

テスト開始と共に眠る僕。解かれる問題。希望の大学に合格した。

やっぱり小人のおかげだった。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

シチューの中身

部屋にずきんがやって来て、うたた寝している間に夜食を作ってくれた。

ありがたいと思っていたが、動けない。

おいしいシチューを召し上がれって。

けれどここから動けないんだ。なんだか足が動かなくて。

足が、ない？

シチューの中身はなんですか？

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

未来日記

彼とはうまくやっている。

未来日記、僕らの未来を教えておくれ。

「△月 日 彼女が出来る」

[@chocolatesity](#) [#twremix](#)

何故だ。だって僕はもう男しか。

もしや彼氏に彼女ができる？

男だけって、男が好きって言ったのに。

「男じゃないのか？」

「バレたか私女なの」

彼女が出来た。

仕事と恋人

仕事と恋人、両方を取ることは出来ない。

両方とも時間と体力と心を注がなければならないから。

でも時間は限られ、体力には限界があり、心は一つしかない。

選ぶなんてできない。できない。ならば。

[@ce1039](#) [#twremix](#)

恋人を生業にしている。ヤクザな仕事だけれど悩みは消えた。

絵に描いた餅

絵の中の餅が逃げてしまった。

みかんを描こうとしていた矢先のことだった。

彼は雪だるまになりたがっていた。

みかんを乗せたら餅であることから逃げられない。

人を殺したくないんだ。

そう呟いた彼（事実上の餅）が今頃、誰かののどに詰まってないかが心配です。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

黄金

黄金の髪が不気味なほど輝く夜は、彼女の扉が開いてる。

今までの常識が通じない世界の扉から目を背けても、そこから流れる誘惑は伝わる。

告白の形に動く唇を見つめて心がざわめくなら気をつけて。

深夜、美酒のような彼女に誘われ、危険な恋へと足を踏み外さぬように。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

知らない誰か

知らない人が知っていた。私のことを。

一体どこで会ったのだろう。思い出せない。

一欠片も思い出せぬまま恐る恐る探りを入れる。

「これあなたのハンカチですよね」

それはこの前の悪夢の合コンでなくした。

弾かれる記憶。ああっいけない。

記憶、ないことにしよう。

[@1_dark #twremix](#)

2月の終わり

「2月も今日で終わりだね」

「果たしてそうかな」

「終わるよ」

「来年絶対またくるよ」

「お前もしかして」

「そうだよ俺たちの組織が2月を守る」

「[#世界もう滅ぼしたい協会](#) に逆らうとどうなるかわかってるんだろな」

「そんなこと言って全然滅びないじゃん」

「クッ」

[@1_dark #twremix](#)

夢を失う

夢を失ったので、獏を捕えて、気になる夢を抽出し、夢追いの薬を作ってみた。
すると夢のない人たちが薬を手に入れるため、血走った目で家に群がってきた。
怖くなって断っても押し寄せる人々が扉を破壊し僕は。
というところで目が覚めた。獏の夢はやっぱり悪夢。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

記事

その記事は間違いです。

あの子が記者に詰め寄った。

別れてません。記者は言う。

新しい恋人もできていますよ。

ウソ。

本当です。

私のことよ私の方が正しいわ。

[@pirch_yui @1_dark #twremix](#)

本当です。

新恋人は私ですのでこれは私の話ですので。

私の方が正しいです。

蛇

戦いの日々には疲れ果てた。

僕が守ってばかりいるから攻撃も止まないのかもしれない。

こんな重い鎧はいっそ脱ぎ捨ててしまえばいいのかな。

僕は、一枚一枚固い鱗を剥ぎ、重厚な兜を脱ぎ捨てた。

もはや手も足もでない。

[#twnovel](#)

平和を祈りシンプルな姿になった龍は、蛇と呼ばれて新年を歩む。

初夢三題

この時代、富士が最もたかい山として知られてます。
歴史の授業で習って以来、沈んだその山に魅せられている。
当時一番の山も今では、足元よりも遥か下。
噴火で自ら海底に身を隠したその謎を解き明かしたい。
そして、今、どんなすがたで美しく佇むのか。
僕は知りたい。

[#twonovel](#) [#初夢三題](#)

ぜんまいウサギ【新年のこと】

あけましておめでとう。

挨拶する僕にぜんまいウサギは、何の祝いかと尋ねる。

新年の祝いだよ。

時は不変だ。区切りがあるんだ。

区切り？

新しい気持ちになれるよ。

[#twnovel](#)

ウサギは考える。

人は何度もリセットできるということか。

羨ましそうな顔。

ねえウサギ。忘れたい過去が、君にはあるの？

凶

「凶だ」「俺も」「みんな凶？」

「巫女さん、凶しか入ってないんですか」

「そんなことはないです」

「でもみんな」

「この不景気ですしそう簡単にいいのなんか出ないんです！」

[#twnovel](#)

「もう嘘は嫌です」

「でも発注先のミスで凶しかないとか言えないだろ」

「もう、猫の手なんか借りるから！」

初春のお慶び

片思いの彼に年賀状を二枚書く。
一枚は私の名前で謹賀新年。
もう一枚はななしさんからI LOVE YOU。

[#twnovel](#)

「お前のせいで家族に笑われた」
「私じゃないよ」
「お前だよ」
「どうして」
「うち喪中なの。でもお前の年賀状欲しかったの。お前にだけ言わなかったの」
何て初春のお慶び。

元旦

元旦は本家に集まり親戚一同共に過ごす。
子供のうちは楽しかった恒例行事も大きくなると面倒臭い。
それでも行かなければ。

[#twnovel](#)

28人の親戚達に29人分の御節が並ぶ。
祖母が言う。
誰かが欠けるとあの方が寂しがるから。
何をなさるか分からないから。
姿の見えぬあの方が縛る、僕らの絆。

絵馬

奉納される絵馬を眺める。

昔は本当の馬だったのに今じゃただの絵だ。

子供騙しね。

こんな馬じゃ、慰めすらも得られない。

だけど私は優しい神様。貴方の願い、叶えてあげる。

[#twnovel](#)

結婚したい、はいはい。金持ちになりたい、はいはい。

絵の馬が運ぶ願いは二次元返し。

今宵の夢、お楽しみに。

喪中

今年も君から年賀状が来ない。

きっと喪中なんだ。喪中なんだろう。喪中に違いない。

そう思い続けてはや5年。

そろそろ君、天涯孤独になっちゃうよ？

[#twnovel](#)

イクラちゃん

「イクラちゃん久しぶり」

「ちゃん？イクラさんだろイクラさん」

「イクラ、さん」

「親子とはいえ職場では立場弁えてよ」

「俺がチキンならこんな争いは起こらない。でも俺は」

「僕よりずっと無価値なお父様」

「俺は鮭だ！」

[#twnovel](#)

鮭いくら丼の親子喧嘩を飲み込むとツーンと山葵が染みた。

大雪

前代未聞の雪が降る。

車も街も全て埋もれた。仕事も学校も行けやしない。

パンク寸前の電話回線。

怒り、焦り、苛立ち。

余裕のない大人から、一人ずつ、強引に雪景色へと消えていく。

[#twnovel](#)

翌日。昨日外に出た大人達は残らずいなくなった。

空から降る白が必ずしも雪であるという約束はない。

はろう

はろうはろう。

僕らの糸電話。君のこえを聞かせておくれ。

僕はずっと待っているよ。どんな世界が見えますか。

[#twnovel](#)

ツーツツツ。

糸を伝う振動。こえが声とは限らない。

ツーツツツ。

震えるこえで「サミシイよ」って。

僕の体がふわりと浮いた。

とうの昔に見えない凧が僕を空へと連れて行く。

腐らない

次々に売れる若く美しい娘たちを見送る。

人気だけの娘達が畑違いのここでも売れっ子なのね。

由緒正しい私達は古ぼけた存在。

申し訳程度に隅っこに置かれるくらいなら忘れてくれたらいいのに。

[#twnovel](#)

それでも私は好きですよ。

数少ないファンの言葉に支えられ、田作りは腐らずにいられる。

ぜんまいウサギ【寂しいのこと】

ぜんまいウサギも寂しいと死んじゃうの？

徒な質問にウサギは、多分ないと答える。

そして続けた。

もしもそうなら素晴らしいな。

どうして？

孤独な世界で生きていたいと思うのか？

[#twnovel](#)

そうならよかった。

眩くウサギの眼に映る青空を眺めていたなら寂しくなった。

僕もそうならよかったのに。

カーナビ

カーナビ設定。

距離優先の下に見慣れない「彼女優先」。

1時間で行くところ、所要時間は3時間だ。

でも気になるから、ピッ。

[#twnovel](#)

「あのね」いつもと様子が違う彼女。

何か言いたそうにあのねを繰り返し出発から2時間59分。

「あのね私達結婚しよう？」

目的地付近に到着しました。ピッ。

初売り

初売りで売れ残りの初を買った。

緊張と寒さで震えながら人を睨め回す姿は、どこか僕と似ていた。

ポケットに初をいれる。頭を撫でると噛み付かれた。

部屋で 温かいお茶と菓子をご馳走する。

頬が緩んだ。僕も笑う。気づいた初は仏頂面に逆戻り。

残り物には福があるって本当だなと思った。

[#twnovel](#)

赤の境界

君とはいつも境内で遊んだ。

鳥居まで送ってくれてじゃあねって。

身体が弱くて学校に行けない君。

大人になって恋を語り合うようになってからもずっと、君との逢瀬はこの境内。

[#twnovel](#)

結婚しよう。でも私。僕と暮らそう。

強引に君の手を引き鳥居を潜る。

途端、温もりだけ残して、君は消えた。

君は僕の彼女ですか

目が覚めると台所から物音。

そっと覗くと、思いつめた顔で女が包丁を握り締めていた。

鍵がかかっていたはずなのにどうして。

女が僕に気づいた。

「あ、ごめん。起こしちゃった？朝食、卵と味噌汁でいいかな」

なんて殺人的に幸せ朝ご飯。ところで。

[#twnovel](#)

はじめまして。君は俺の彼女ですか？

都会の片隅

星の降る日は都会の隅にこっそりと座り込む。

時々やってくる人が呟く幾つかの言葉から、140字で物語を作るのだ。

私には解らない。

それが相手のためになるのかならぬのか。

けれど。

有難う。そう言って貰える限り、私はここにいる。

誰かの心を引っ搔くために。

[@pirch_yui #twnovel](#)

ウサギ酒

ウサギが酒に溺れていた。

秘蔵の酒の中いつの間に入り込んだか手足をバタつかせて助けを求める。

落ち着いて全部飲み込むといい。

そう教えるとウサギは少しずつ酒を飲み始めた。

[@tensyou99](#) [#twnovel](#)

「酒持ってこうい」

全て飲み干し空っぽになった瓶の底で、酒に溺れ続けるウサギ。

ツンデレちゃん

もしもし、私。

長い正月休み明けな上に月曜日。

ブルーになってるんじゃないかなって。

凶星でしょ。アンタってホント、え？

電話ありがとう？君が元気にしてくれた？

勘違いしないでよね。

心配してないしそれに、べ、別にアンタのこと好きとかじゃないんだから。

勘違い、しないでよね！

#twnovel

ポチ袋

ポチ袋は吠えた。
自分の運命を憂っていた。
親御さんや親戚の愛を詰め込み、
子供たちのキラキラした眼差しに迎えられたのも束の間、
それが済んだらあとはポイ。
ポチ袋達は傷を舐め合う。そして、スイッと顔をあげた。
いつかきっともっとでっかい誰かの愛を運ぶんだ。
いつか。わんわん。

[#twnovel](#)

地獄

「お帰りなさい」不幸な人生を終えた俺を待っていたのは妻と名乗る女だった。

「頑張れよ」看守が俺の肩を押す。

俺は長い刑を受けていたようだ。それであんなに辛かったのか。

本当の人生を今、歩み始める。

[#twnovel](#)

看守は入口に鍵をかけた。

地獄巡りの刑、二つ目の地獄へ、行ってらっしゃい。

私、宇宙人。

私、宇宙人。地球人に契約を迫られているの。

内容も罰則も何一つ記されていない契約書。

説明を求めても、わかるだろってはぐらかされて。

住所と名前を書いて判子を押せば幸せになれると言いながら視線を逸らす貴方。

騙すつもりなのね。好きだったのに。

この「婚姻届」とやらが憎い。

[#twnovel](#)

絵に描いた餅

今年も多くの命を奪い、餅はとうとう禁止された。

よく出来た作り物も、間違えて口にする可能性を考慮され禁止。

二次元での表現までしか認められなくなった。

「絵に描いた餅」という言葉も当然その意味を変える。

#twnovel

絵に描いた餅【意味】成果の為に払われる大きすぎる代償。転じて老害。

めんどくさい

全てが面倒だった。生きること死ぬこと。その先にある輪廻などもってのほか。

ヘタレ青年は考える。そうだロボットになればいい。

奴は死なない輪廻もない。壊れるまで、壊れても、ただそこにあるだけ。憧れる。

[#twnovel](#)

ハローワークへ行った。職業ロボット。残念ないな。

諦めるのも早かった。

言葉にできない

「あの時の気持ちをどうにかして伝えたくて、
けれど、どんな風に言葉にしたならいいのかわからなくて。
それで絵にしてみたんです。それがこれです。」

「なるほど、それでこの絵にはどのようなメッセージが込められているんですか？」

「え・・・」

[#twnovel](#)

ペンキ屋

ペンキ屋が言う。

今ならお試しで記憶をひとつ上塗りします。

失恋したばかりの僕は、彼女との記憶を依頼した。

[#twnovel](#)

消えましたよ。

ペンキ屋が誇らしげに指した場所には、くっきりと白い人型。

細かいことは覚えていない。

けれど、名前さえ知らぬ彼女の存在は、僕の中でますます強くなった。

豊かな老後

豊かな老後を送りたい。

調べてみたらなんと夫婦で1億円も必要らしい。

俺は働いた。朝も夕もなくひたすら働いた。

稼ぎきるまでは安心できない。働け俺。頑張れ俺。

[#twnovel](#)

「我慢の末ようやく老後を手にいれて3年。そんな時に末期癌で予後1年と言われました」

「蝉よりはマシよ蝉よりは」

ぜんまいウサギ【忘れたいのこと】

忘れたい事があるの？

ぜんまいウサギに尋ねると、ない、と即答する。

辛い記憶があるのかと思ってた。

それならあるとウサギは言う。

そして続ける。

辛い記憶は忘れるべきか。

だって誰でも。

忘れなければならぬと言うなら我は辛くて構わない。

[#twnovel](#)

ウサギの記憶に住まう誰かが羨ましかった。

ファンタジー

月のない夜にその店は開く。

ひと目を気にしながら入ってきた男は「一つ頼む」と店主に告げた。

並んだ小瓶の一つから小さなチップを取り出し手渡す。

男は震える指でそれを飲み込み目を閉じた。

[#twnovel](#)

ただいま。

味噌汁の匂い。笑って迎える妻。走り回る子供達。

これが貴方のファンタジー。

車内恋愛

君と僕とは車内恋愛。

最寄り駅から会社までの契約だ。

それじゃだんだん足りなくなって、僕は引っ越す、契約変更。更に引っ越す、契約変更。

君との時間が増えていく。

[#twnovel](#)

通勤路はもはや環状線を3周分になった。

また、変更したいな。

驚く君。

今度は君が、僕んち辺りに引っ越さない？

コーディネーター

最近よく、「らしい部屋づくり」を任される。

教師らしい部屋。警察官らしい部屋。お堅い職業の方からの依頼が多い。

そこに置くべき生活必需品から趣味のものまで、全てを完全コーディネート。

らしいけれどもらしくない。

突然死んでも恥ずかしくない、完全無欠な死後の部屋。

[#twnovel](#)

目的地付近

何かが一列に並んでいた。

あれは何ですか。

問えば、渋滞です、と。皆が家に帰ろうとしているのです、と。

不思議な光景だった。だって家などないではないか。

[#twnovel](#)

見渡す限りの荒野を何かの規則に従う様に車が走る。

自動操縦、ナビに従い、嘗ての道を嘗ての様に車は辿る。

我家目指して。

逢いたくて震えない

熱っぽいんです。

そう言うと医者は他に症状はと尋ねた。

心臓がドキドキして頬が赤くなって、震えるんです、ほら。

医者は私の震える手をとる。

それは恋です。貴方は私に恋しています。

[#twnovel](#)

処方をどうぞと名刺をくれた。

差し出がましいようですが、逢いたいだけじゃ震えません。

薬下さい。

ルンバ

地球滅亡のニュースは僕らを震撼させた。

一縷の望みを頼りに地球へ向うと、すぐにそのニュースが事実であると解った。

一面の荒野。何も無い。いや、何か来る。

[#twnovel](#)

そこにいたのは無数のルンバ。

散らかった世界を清掃し続ける彼らに再生を願う勇気を見た。

そうだ、ここからまた始めよう。

#twnvday 「大人」

大人の階段なんか登るもんかと、階段を睨みつけた。汚い大人になんか。

[#twnvday](#)

チーン。

「上へまいりませう」

階段が二つに割れて、現れたエレベーターガール。俺は襟首を掴まれた。

「大人エレベーターは一方通行。階段？今時？いつまでも甘えてんじゃねーぞ。閉まりませう」

[#twnovel](#)

「少年のような心を持つ人が好きなの。

本物の少年の無垢な心に興味はないわ。

少年の心を違う何かでわざわざ作り上げることにこそ意味があるのよ。」

そう言って貴女はボクを優しく袖にした。

大人になりたい。初めてそう思った。

[#twnovel](#) [#twnvday](#)

あの頃の未来とやらにいる僕らがあの頃と変わったことはといえば、

あの頃を振り返ることが出来る事くらい。

積み重なる過去。

そのてっぺんから世界を見下ろす広い視界を手に入れているのか、

不安定さに振り落とされそうになっているのかは、

あなた次第。

[#twnovel](#) [#twnvday](#)

よくぞここまで辿り着いた。

RPGの王様のような格好の市長に会場はざわめく。

だがここからが始まりだ。

今こそ成人式の真の意味を教えよう。

次々配られる、剣や盾。呆然とする僕ら。

さあ行け！

[#twnovel](#)

指差す先、古ぼけた扉が開かれた。

扉をくぐり抜けたなら、そこには何が待ち受けるのか。

大人になったら結婚してね。

幼い頃に約束した君は、今、真っ白な衣装で微笑む。

酷い君。あの約束は嘘だった？

優しさだった？それともただの嫌がらせ？

[#twnovel](#)

冷たい君の頬を撫でると、チクリと胸が痛んだ。

目を覚ましてよ。僕を見てよ。

棺の中、老いた君を見送る僕は、あの頃と同じ幼い姿。

「大人ってなんだろうな」

「知りたい？」

「少し」

「教えてあげようか」

「え、あ、うん」

僕はツバを飲み込んだ。

「触って」

君は僕の手を。

[#twnovel](#)

「これが大人」

「何、が？ここには何も」

僕の手を宙に導いた君は寂しそうな顔。

「貴方も大人になれないのね」

大人ってなんだろう。心底思った。

ツイノベ七不思議

ツイノベタグの中には時々、物語に擬えた本当の世界が混ざっている。

目印は、あの人とあの人とあの人。

3人のファボが並んだ作品。その世界は、

過去か未来か並行世界として存在する。本当の世界。

[#twnovel](#) [#twnovel七不思議](#)

天国と地獄

死んでしまった。

おめでとう。

誰かが手を叩く。

おめでとう。

君は救われたのですよ。

地球は悪魔が作ったものだ。そうとも地球は地獄なのだ。

死こそ救済ようこそこちらへ。

[#twnovel](#)

蔑むための名前をつけて、喜ぶあなたが天使だろうか。

世界は育つ。世界は変る。僕は地獄がとても恋しい。

M

私は踊る。濡れた瞳で誘惑したなら王子はすぐに私に堕ちた。

私は踊る。貴女の視線が背中に刺さる。

ねえ、その嫉妬は誰へのものだか解ってる？

自分の気持ちを受け入れられずに震える貴女を抱きしめたい。

けれどまだよ。

貴女の全てを味わいたい。苦しむ貴女も悲しむ貴女も。全て。

[#twnovel](#) M

王子様と逢引するの。貴女と彼の甘い時間を、私が壊してあげましょう。

ねえ王子様。貴方に彼女は触れさせない。

私に触れて。彼女にしたのと同じ様に私を愛して、もっと深く。

彼女が貴方に授けた愛を全て私は取り返す。

貴方の愛が残ったままじゃ、壊すことなど出来ないでしょう。

[#twnovel](#) M

王子様にはもう飽きた。

口吻と引き換えに魔女がくれたナイフを携える。

いつも通りに私の扉を叩く貴方。

私の事が好きなのね。けれど心はここにはないの。

貴方と私、最期の思い出にこれをあげる。

[#twnovel](#)

突き刺さったナイフ。

月のない夜を選んだのは、貴方が私の笑顔を見なくて済むように。M

育成

目ぼしい少年を見つけたならば、その子の周りに敵を放つ。

レベルが上がれば世界を少し広げてあげる。

強くて癖のある敵を放つ。やがて彼はパーフェクトな男になる。

勇者の育て方ですね、って何の話？

理想の結婚相手を育てる方法に決まってるじゃない。

経験豊富ないい男って少ないの。

[#twnovel](#)

踊り子

もう飽きた。踊り子は座り込む。もうイヤ毎日同じ音楽。

けれど指揮者は同じ指揮しかできなくて。

少し迷って彼は歌う。調子外れの歌が響く。

踊り子は踊る。そして一回多く回る。

[#twnovel](#)

オルゴールの踊り子は、本当は音楽に飽きていない。

指揮者の歌が好きだった。指揮者のことが好きだった。

代筆屋

僕の心に代筆屋が住み着いた。

その文才を見込んで僕は、告白メールをお願いします。

美しい恋文。

凄いなと告げると、君の中にあった言葉を繋ぎ合わせただけと言う。

僕も書いてみようかな。

そう言うと彼は、歪な方が伝わることもあるだろうさと大事な単語に赤線を引いて、
頑張れと笑った。

[#twnovel](#)

ゴーストライター

僕くらいのゴーストライターになると仕事はいつでも自分で選ぶ。

今度の仕事は女優にしよう。女優の人生。

まずは本を完成させる。本の通りの子供を選び、本の通りの人生歩ませ、
はい大女優の出来上がり。

[#twnovel](#)

人生全てを代筆する。

ところで、貴方の退屈なその人生。作者の名前は誰ですか？

電子書籍化はエロ本にも広がる。

それはベッドの下に隠しておいたお宝が何故か机の上に、
という恐怖からの解放を意味するかに思われた。

けれど。

「本棚みせて？」

直球で攻める母。想定内だ。

この端末には裏本棚が存在する、って母が、凄い勢いで、裏の本を表の棚へ整理整頓。
強し。

[#twnovel](#)

彼と彼女と電子の本棚

電子書籍棚見せて？

彼氏彼女の間でそんな文化が生まれた。

本棚はその人を表すもの。

だから、そこから解ることもある。

僕と彼女は端末を交換し合い、互いの本棚を見せ合った。

[#twnovel](#)

(これ知ってるわ。理系好青年セット350円だわ)

(これ知ってるぞ。魅惑の女子カセット500円だ)

雪とお砂糖

神様は雪と砂糖を間違えた。
世界は白く、甘い砂糖で覆われる。
すぐには溶けない砂糖の山に、人は世界は足止めされた。
さあ困ったね。前代未聞だ仕方ない。

[#twnovel](#)

温かいお茶を召し上がれ。
お砂糖ならばほらご自分で。何杯分もそこにある。
神様の失敗で世界は甘く、少しだけ優しくなった。

雪の密室

数年ぶりの大雪で閉ざされた屋敷は雪の密室。

しかも親族会議中ときたら当然犯人は親族の誰か。

そう考えるとでも思ったか。その手にはのらない。

そんなのとっくに時代遅れだ。数年ぶりに突然降った都合のいい大雪。

これがヒントだ。犯人はお前だ！

[#twnovel](#)

思わぬ濡れ衣にゆきんこは泣いた。

一緒にチョコ作る。

あの子を誘うと嬉しそう。

好きな人できたの？

うんできた。

誰よ。

内緒。

[#twnovel](#)

チョコが香る。

で、誰にあげるの？

知りたい？

当たり前よ。

勇気を出してあの子にチョコを捧げようとしたのに、

だって親友だし、

なんて無邪気に笑われたら、秘密を貫くしかないじゃない。

[#GL](#)

センター試験

勉強なんてなんの役に立つの？

この数式も、返り点も、気候グラフも、化学式も。

ザクザクと雪を踏みしめる。こんな試験大嫌い。

点数なんかで私の何が解るといなの？

その上、君とわたしの進路を未来を分けるなんて。

分かつ、なんて許さないわ。

[#twnovel](#)

チャイムが鳴る。頑張れ。

鉛筆の祈り

鉛筆達は神に祈る。

試験中受験生たちの一番側にいる僕達に力を下さい。

「ならば一つ叶えよう」

答える神。相談する鉛筆達。

折れないようにとか？いやそれは自信がある。

萌えキャラ、は好みがあるだろうし。それじゃあ。

[#twnovel](#)

「転がされた時の正答率を上げて下さい」

今年の鉛筆は少し違う。

ワーキヤー

時を止める魔法だけが使える。

けれどみんなが止まるから、なかなか気づいて貰えない。

何かがしたい訳じゃない。

ワーキヤー言われたいだけなのに。

僕は魔法で時を止め、その隙に人より勉強して、一流大学への一発合格を果たした。

ワーキヤー言われっぱなし。

ああ、魔法って素晴らしい。

[#twnovel](#)

インターネット

センター試験に新教科、「インターネット」が加わった。

配られたPCでネットを駆使し超難問に挑む。

チャイムと同時に受験生が次々問題をアップしたなら、僕らバイトの出番だ。

いかにも知識人ですみたいな肩書きを掲げ、嘘の解答を山ほど流す。

ネットの海をかき分け、正解を掴み取れ。

[#twnovel](#)

センター試験

合格通知が来た。

「センター試験、合格されましたのでお知らせ致します」

ってこれは一体何だ。

考え込んでいたら、何処からともなくやってきた何者かに僕は連れ去られた。

[#twnovel](#)

今、僕はこのグループのセンターとして活躍してる。

僕と同じく沢山の合格者がセンターとして旅立ったという。

センター試験に合格した。

貴方は176代センターに任命されました。

これで僕の未来は約束された。

[#twnovel](#)

現在世界は170代を中心に回っている。

センターとは世界の中心世界の理。富も権力も彼中心。

さて問題はひとつ。

上が詰まって死ぬまで役につけるか解らないこの状況、どう打開する？

千日手

天才将棋ロボットと天才棋士。

その勝負はもう何世代にも及んでいた。

長時間の戦いの末、試合は必ず引き分ける。何度も何度も。

ロボットは将棋を愛していた。

ロボットは試合を楽しんでいた。

ロボットは知っていた。

勝っても負けても試合が終わることを。

全てを読んだ、最善の一手。

[#twnovel](#)

生贄

友達が欲しい。

巫女に願うと生贄が捧げられた。

怯えた瞳。怖がらないで。友達になりたいだけなんだ。

家へお帰り。そしてまた遊びにおいで。

僕の言葉に少女は首を振り、ここにいたいと懇願した。

帰る家などないのだ。

[#twnovel](#)

毎年捧げられる贄は皆帰りたがらない。僕は鬼神と恐れられている。

千人目のお客を幽霊としてお迎えします。

そんなどこにでもあるような迷信、この屋敷にはございません。

由緒正しき幽霊屋敷。

ケチなことなど申しません。

皆様、お試しになられますか。

当屋敷では、お客様全てを別け隔てなく、幽霊としてお迎え致します。

さあ、どうぞ。

[#twonovel](#) [#闇遊園地](#)

狂気の魔法少女

手にした杖で立ち向かう。

お願い死んで。

齒向かうものは全て敵、だと思う。

何を倒せばいいのか誰も教えてくれなかった。

私は魔法少女。だから何かを倒して何かを守る。

それが私の使命、だと思う。

何を守るのかなんて誰も教えてくれなかった。

私は魔法少女。だから。

[#twnovel](#) [#狂気の魔法少女](#)

自由平等

自由で平等な社会を目指し、心と体の分離が可能となった。

自分の望む姿で生きることが許された僕らに、外見的差別をしあう理由はなくなった。

けれどまだまだ自由や平等には程遠い。

目指す社会の実現のために、もうすぐ心も選べるようになるのだとか。

なりたい自分で素敵な社会を。

[#twnovel](#)

箆笥屋

引き出しの少ない男は嫌われる。

そう聞いた僕は箆笥屋を呼んだ。

「お前は阿呆か」

笑われた。

「お前の小さい箆笥に引き出しばかりあってもどうなる」

どうなるの？

「ロクなもんが入らない」

そんなカラっぽの男、モテるのか？

[#twnovel](#)

心が広くなったら呼んでくれ。何も売らず、箆笥屋は帰った。

オペレーションA

歴史に刻むべき重大な事件だ。

そう言って記者は執拗に死んだ彼女の名前を知りたがった。

拒否してもお構いなしだ。

こんな事もあるかと彼女が残した作戦を決行しよう。

オペレーションA開始。

[#twnovel](#)

関係者誰もが彼女の名前を「被害者A」と答える。

周到に準備しなければ名前すら守れない。

白黒の夢

悪夢が毎日続いたある日、僕の夢から色が消えた。

カラーでは受け止めきれなくなったのだ。

恐怖は減ったが喜びも減った。

獏は謝る。我々が悪夢回収を怠ったばかりに。

[#twnovel](#)

罪滅ぼしにと、獏が夢に色を塗る。

奇想天外な空、摩訶不思議な海。

嬉しいけれどいつか悪夢になりそうで少し不安だ。

亡骸に花

亡骸を土に埋めた。

場所が解らなくなるのが不安で、そこには花の種を蒔く。

春。咲き乱れる花々。

美しいね、誰かの声。

そんなはずはない。綺麗に咲くはずがない。

あんなに僕を苦しめた君が綺麗な花など咲かせるはずが。

その花を全て燃やした。

次の年、今年よりもずっと綺麗な花が咲く。

[#twnovel](#)

評論家

僕の評論家は口が悪い。

人生とすら言えない人生だと手厳しく僕の人生を批評する。

僕は嫌だった。評論家同伴面接なんて、そんなの落ちるに決まっている。

[#twnovel](#)

僕の隣で嘘をつかずに彼は上手に僕を褒めた。

有難うと言うと、「俺の仕事は評論であって、お前を貶めることではない」と笑う。

リア充爆発

人類の長年の夢、「リア充爆発しろ」の呪文を僕はとうとう形にした。

実験はとてもできないのだが、僕の理論は完璧。

憎きアイツを破壊する。

3, 2, 1, 「リア充爆発しろー」

[#twnovel](#)

響き渡る僕の声。と、爆音。3つ。

3つ？彼と、彼女と、そして僕。

僕は、そうか、意外とリア充だったのだ。

SNS

リアル持ち込み禁止のSNSを始めた。

プロフィールに一つも真実を記せないのはなかなか大変だったけれど、ここでは思う通りの自分になれる。

やがて夢の社会が作り出された、と同時にSNSはサービスを終える。

元々あるリアルしか持ち込めないはずのSNSと何故か中身が同じだった。

[#twnovel](#)

「私達は未来を絶対諦めない」

TVで色とりどりの少女達がそんな事を言うものだから、胸が痛い。

私がここに来たのもそんな理由からだった。

私が言っても何の意味も持たないその言葉がキラキラ輝く。

諦めない。

そうだな。

という事で、消費税更に上乗せ15%にします！

[#twnovel](#)

BAD END

孤高の俺

友達なんかいない。誰ともつるまないし、嫌われたってかまわない。

俺のこの崇高な魂を奴らには理解できないだろうしさされたくもない。

「二人組を作って下さーい」

当然のように余る俺。

「あら、じゃあ先生と組もうか」

手をとられる。

全ての孤独はこの瞬間の為。

先生、俺、先生のこと。

[#twnovel](#)

花になる

私は花だ。世界に私よりも美しい花なんか存在しない。
凜として咲く。咲く。

[#twnovel](#)

ちやほやされるだけのなんて退屈な日々だろう。

なんで退屈なんだろう。なんでなんて。

解ってる。

花はどこへも行けないからだ。

やめよう。

私は、全ての花びらを散らし、土へと還った。

[#夢図書館](#)

ハンター

角を曲がるけれど何も起こらない。

食パンくわえた遅刻女子にぶつかられた時の衝撃を演出するため伊達眼鏡までかけて挑んでいるのに。

次の角こそきっと。

[#twnovel](#)

僕はお約束ハンター。

この収集が終わったら、次は雪の密室殺人事件でも起こして、

名探偵が偶然現れるお約束を収集するつもり。

お伽話改訂

いつまでも同じ内容で楽しませようとする怠惰な姿勢が子供達に悪い影響を及ぼす。

全てのお伽話の改訂が決まった。

シンデレラも白雪姫も継母を訴えて独立。

眠り姫はキスをした王子を訴えて独立。

お姫様系お伽話は、結婚よりも独立がハッピーエンドの条件となった。

めでたしめでたし。

[#twnovel](#)

最適な世界

生け贄を捧げよと神は言った。

誰も犠牲にしたくない。人々は人間そっくりのロボットを造り贄として捧げた。

[#twnovel](#)

随分進化したものだ。

水には弱い。酸素はさほど必要ない。

贄を検分する。

神は滅びゆく地球から人が移住できる先を創造したかった。

いい世界にしような。

神とロボットは笑う。

クローバー

四つ葉のクローバーがいい。だって幸せになれるから。
世界中に四つ葉のクローバーを植えた。三つ葉なんかはもうないの。
全てが四つ葉のクローバー。
どこにでもあんなら意味は無い。
幸せを失った僕ら、今度は五つ葉でも創ろうか。
五つ葉のクローバーがいい。だって幸せに、なれるかな？

[#twnovel](#)

キミがスキ

世界があまりにも複雑化して、僕らの言論も不自由になった。

物語すらひねくれて、本当の意味なんて深読みの先。

だから。

キミがスキ。単純で綺麗なその言葉をどう紐解けばいいのか解らなかった。

キミがスキ。それってどういう意味だっけ。

考えるから。

だからもう一度、言ってくれない？

[#twnovel](#)

働いたら負け

どんな集団であっても2割が働かないというのなら、働かない2割を始めから用意しよう。
怠け者2割をクビにし代わりに半分の給料で働かない係を置いた。スタイリッシュ人件費削減。

[#twnovel](#)

働く集団から怠け者が出始めた。

僕は気づかない。

働かない係は怠ける仕事を全うしているという事に。

ファボが足あとになったよ記念

「踏まれると嬉しい」「もっと踏んで」

最近僕のTLがおかしい。

フォロワーさんがドM化してる。

何があったか知らない。けれどいつでも期待に応える僕でありたい。

僕は呟く。

「踏みつけにしてやるブタ共め！」

[#twnovel](#)

気づけば僕のフォロワーさんはその手の人達へ大きく様変わりしていた。

同じ私

最近、私の周りを私そっくりな女が彷徨く。

どうやら名前も同じらしい。

気味が悪くて警察に訴えても取り合ってくれない。

彼女は何もしてこない。ただ最近、至る所で褒められるようになった。

彼女は善行の限りを尽くしているらしい。

有難う。覚えのない感謝に気が狂いそうな私は彼女を。

[#twnovel](#)

拍手喝采

拍手喝采。

356回目のアンコールは当たり前のように始まった。

終わればすぐに何度だって拍手喝采。

何度だって始まる音楽。

それはまるで約束のように。

[#twnovel](#)

ここを残して世界の全ては壊れ果てた。

最後に残った僕らはここで日常を捧げ続けている。

世界がいつか、自分を取り戻せるように。

恋の本

曖昧な恋心を明確にするため一人一冊、それぞれの恋の詳細を書き記す。

告白代わりに差し出される恋の本に僕はいささか食傷気味だ。

詳細過ぎる取扱説明書なんて、読み続けたいとは思えない。

けれど。

[#twnovel](#)

君の本はどうだ。

頁をめくればまだまだ未完の物語。ねえ。続きを一緒に記さない？

恵方巻き

「節分の夜、その年の恵方に向かって無言で願い事を思い浮かべながら太巻きを丸かじりする。
これが恵方巻き」

「なんて素敵。今夜はそれにしましょう」

「いいね」

「ほんといいわ。喋らなくていいし向かい合わなくていい。なんて素敵な食事なの」

「え？」

「毎日が節分ならいいのに！」

[#twnovel](#)

鬼と旅人

やめろ、鬼が何をしたというのだ。

旅人はそう言って豆まきを遮った。

山へお帰り。所在無げな鬼たちを見送ると、旅人は満足そうに村を後にした。

[#twnovel](#)

どうしよう。鬼たちはざわめく。

投げられた豆を育て金に変えて、1年の糧としていた。

飢えれば人を喰わねばならぬ。どうしよう。

眩き

自分が思っていることを眩かれるとドキドキする。
ツイッターを眺める妻が言うからこっそりアカウントを作った。
夫婦なんだから思っていることくらいわかるさ。
フォローされるよう仕向けて、妻をドキドキさせる大作戦、開始。

[#twnovel](#)

よく分からないけどこの人なんかイライラする。ブロック。

心の鬼

豆まきの間ずっと豆を食べ続ける君。
撒かないの？って尋ねると、だって鬼はここだもの。
君は自分の胸を指す。
そうだね鬼は人の闇。
だから君は正しいけれど、食いしん坊の君のこと。
豆が食べたいだけでしょう？
僕の言葉に君は笑って溶けるように消えてった。
跡形もなく。
春の風が吹く。

[#twnovel](#)

彼は介護施設で老人たちの世話をする。

今日、90代の老人が旅立った。

その老人の退所手続きを済ませると、彼は自らの入所手続きを行う。

彼は80才。

定年制度が廃止された少子高齢社会では、入所待ちしながら働くことなど当たり前だ。

彼の後釜には70才の若者の入職が決まっている。

[#twnovel](#)

目が覚めると

目が覚めたら、知らない世界が広がっていた。

2013年、どうということだ。

大晦日にしこたま酒を飲み、除夜の鐘にも全く気づかず眠り続けていたらしい。
けれど。

[#書き出し](#)

いくらなんでもこれじゃ100年以上も眠り続けたことになる。

何この未来。

ちょんまげ姿の俺は見知らぬ文明に打ち震えた。

貴方の中に

見つからないページ探す子どものように、貴方の中に私を探す。

読書の途中眠りに落ちて、夢が勝手に本の続きを紡ぐように。

片思いに疲れた私が勝手に紡いだ二人の続きが、あの日のキスかと思ったの。

すれ違いざま視線を逸らし知らない素振りの貴方。

繋いだ手の先、可愛く笑うその子はだあれ？

[#書き出し](#)

眠る

僕が眠っているあいだ、どうやら世界は変わったらしい。

言葉は通じる。だからきっと日本だろう。

でもこの人達は一体何だ。髪も化粧も頭身もおかしく性別だって曖昧だ。

目覚めを祝う彼らに僕は聞いてみる。

[#書き出し](#)

お忘れですか。貴方は百年の眠り王子。

どうぞこのまま睡眠薬の開発にご協力下さい。

恋愛映画

恋愛映画を見ていたら、誰かを思い出しかけた。
いけない。こんなことで心を動かしちゃ、いけない。
けれど裏腹、次々と浮かぶ懐かしい思い出。
忘れるのって難しい。私は溜息をついた。

#書き出し

機械化が進むこの世界、資金のない者は訓練で機械の心を手に入れる。
人の心を手放すことはとても難しい。

服はいかが？ 着ればたちまち幸運をつかむ、魔法の服。
そんなの着るに決まってる。僕はするすると袖を。袖を。
何だこれは。人間工学に基づいていない。
ほらほらキチンと着て下さいな。
手が一本多いですね。首も何だかお邪魔みたい。
店員の赤い唇が歪む。
幸運を掴みたい。掴みたい僕は。

[#書き出し](#)

物語

「物語いかがっすかー」

[#twonovel](#) タグが叫んだ。物語は読まれて初めて物語。

誰かの心を動かし、笑わせ、泣かせ、怒らせ、呆れさせ。

少しでも心が色を変えたなら、それは初めて物語になれる。

うまいのまずいの選り取り見取り。

作り手を育てるのは貴方ですよ。

さあ物語を召し上がれ。

[#書き出し](#)

星傘

星が降るから傘を買わないとね。

天気予報が星を予想してから街中で傘が売られた。

黒のつまらない傘を何本も買い集める。

[#書き出し](#)

星が降る。

願いもかけず流星を見送り傘で受けると星空の傘が出来た。

星は未来の為に空へ返すの。

翌日僕らは傘を飛ばす。

本当に困った時に願いを叶えて貰えますように。

手のひら

手のひらで、君を飼えたらいいのに。
毎日おはようとおやすみを言おう。
君の話に頷いて慰めて笑わせてさ。
きっと君は恋をする。恋を。

#書き出し

僕の手の手ひら、君は僕ではない誰かに恋をする。
僕は君の切ない想いを聞くのだろう。
手のひらで、君を飼えなくて良かった。
空っぽの手の手ひらぎゅっと握る。

僕の一番

君が僕の一番になることはないよ。
君ってとっても意地悪だ。口も悪いし、嘘つきだしね。
一番なんて想像でだって有り得ない。
だってこんなに大好きだから。
二番や三番、作れるはずがないでしょう。
唯一なのに一番なんてオカシイからね。
誰にも見せない醜い部分を僕だけに見せる君が好き。

[#書き出し](#)

辞書姫

彼女の愛読書は辞書だ。

紙製辞書をレンズで読み込み豊富な知識を更新し続ける辞書姫。

けれど最近彼女の知識は最新じゃない。

紙の本廃止に伴い更新の術を失った。

寂しげな彼女に主人は古びた紙の本を薦める。

[#書き出し](#)

子供達に囲まれて幸せそうに笑う彼女。

ねだられたお伽話を何度も何度も繰り返す。

星屑の鞆

鞆に星屑を隠し持っている。

夕方大きく鞆を開けて星屑達をお見送り。

朝方大きく鞆を開けて星屑達をお出迎え。

[#書き出し](#)

星屑の鞆を枕に眠れば、今宵の武勇伝が聞こえてくる。

片思いを实らせた、音楽の才能を、夢を。

幸せな囁きは素敵な夢へと僕を導く。

おやすみなさい。明日はどんな夢を叶えようか。

教育

みなさんは「二度と会えない」を知っていますか。
難しいですね。では実際にやってみましょう。君、前へ。

「俺、B組の萌とも付き合ってる」

「うそ」

「お前は遊び」

「バカ」

去りましたね。これで先生と彼女は二度と会えません。

[#書き出し](#)

先生はその日のうちに懲戒免職。

僕らとも二度と会えなかった。

マンハッタン

隣に座っていた赤いドレスの女が、マンハッタンをオーダーした。
一気に飲み干すと続けざまにチャイナブルー。これまたいい飲みっぷり。
僕はこの場所にちなみヨコハマをご馳走する。

「臨時ニュースです。マンハッタン及び中国全土が突如消失しました」

[#書き出し](#)

ちょっと待て。ああ、それ飲まないで！

嘘

欠陥だらけのその嘘は僕の心を抉った。

君の嘘は純度99%。僅かながらも真実が混ざっている。

その真実は僕にとってはとても大切。

けれど君には、嘘に擬態させてまでも、葬りさりたいものなんだね。

僕らの恋は真実だった。君が捨てても覚えているよ。

確かにここで、僕らの恋は生きていた。

[#書き出し](#)

in the トランク

僕は貴方をトランクにつめてこの街をでる。

すれ違う人達の視線が僕を咎めているようにみえるけれど、僕の罪に気づくはずもない。

愛しい君。ホテルにつくと僕はトランクを開けた。

[#書き出し](#)

「ないの」「何が?」「ウェディングドレス!」

僕を裏切り明日結婚する貴方。

これくらいは、いいでしょ?

おじいさんおばあさん

むかしむかし、あるところに三次元のおじいさんと二次元のおばあさんがおりました。

おばあさんは川へ洗濯に行けません。

おじいさんは川を描きました。家を畑を友達を描きました。

けれど上手に女が描けず、その友達は男でした。

二人は逃亡。

おじいさんはおばあさんを描きました。男でした。

[#書き出し](#)

鼓動

呪文を唱えたら、君が僕の心臓になってしまった。

君も驚いているらしい。走る心拍。僕ら、共に暮らし始める。

#書き出し

言葉を交わせない僕らだけれど、交わせた頃より君の気持ちはよく解る。

走る、落ち着く、高鳴る鼓動。

高鳴る。僕がアイツと話す時には必ず高鳴る鼓動。

そうなんだね。胸が、痛い。

ゆるキャラ

ゆるキャラの中の人役も疲れた。

きぐるみを脱いで一服していると、奥にもゆるキャラが。

あれは「伝説の中の人」が入っているものだ。

実の姿を見た者は誰もいないという彼が今まさに脱ごうとしている。

[#書き出し](#)

「何みてるの?」「着替え」「俺も見、え?」

男の脱衣に興奮する俺から友人は3m離れた。

年始年末モード

世界が通常運転を始めても、僕とカラオケ店だけは年末年始モードだ。

お客様そろそろ。

声をかけても、次はあなたね、とはぐらかされて歌わされる。

ねえ、神様。そろそろお帰りになられませんか。

年始年末だけ神社にきて要求ばかりの奴らにうんざりする気持ちはよく解りました。

でも。帰って？

[#書き出し](#)

つながる

言葉を持たぬ女の子だった。
言葉の代わりに歌をうたう。
そして僕は、言葉だけしか持たなかった。
君に気持ちを捧げたくって、幾つも言葉を綴ってた。
けれどなかなか届かない。
見かねた誰かが僕の言葉を歌にした。

[#書き出し](#)

君への恋を、君が歌う。
幸せな僕の恋は、世界へと響く。

new

タイムカプセルを掘り返したら、代わりに自分を埋めればいいんだよ。

そうだ今の自分をね。

タイムカプセルを更新する。過去の自分を更新する。更新しました。new！

[#書き出し](#)

掘り返した過去と今を照らせば望む未来へ歩いて行ける。

だから更新し続けましょう。

いつか地面に全てを還すその日まで。

おしごと

僕は、指紋を拭き取るアルバイトをしている。

銀の食器やグラスを磨く。けれども今日は少し様子が違ってた。

泡ふき転がる旦那様。小瓶片手に震える奥様。

とうとうやってしまったね。

旦那様の浮気にずっと苦しめられていたものね。

奥様逃げてよ。大丈夫。

僕の仕事は指紋を拭き取ることだから。

[#書き出し](#)

神々の書籍

読まれることの無い本が、其処に積まれて居た。

読まれることはない。読むことが出来ない。何しろ中身が無いのだから。

その本はそれぞれ一冊ずつ、旅立つ命に渡される。

ここに人生を記しなさい。完成させたら戻っておいで。

[#書き出し](#)

やがて神々の書棚に並ぶ世界に一つの物語。

頁を捲る指先は優しい。

ツイノベ図書館

世界の何処かについてのべ図書館がある。

本の形を借りた140字の宇宙がそこには静かに眠っている。

触れてみたなら時には育ち、時には滅んでいく宇宙。

そっと星を捧げてみたなら宇宙はもっと煌いた。

[#書き出し](#)

世界の何処かについてのべ図書館がある、或いは心の中に。

最果て

どうか最果てで待っていて。

約束交わして君を見送る。逃げてなんて言ったら君は去ってはくれないだろうから。

最果てなんてどこだろう、どこでもいいか。

胸に刺さる剣、痛いな。平気な振りして食い止める。

僕はずっと君のこと。

#書き出し

私は最果ての魔女。あれから百年、今もあの人を待っている。

ガタンゴトン

右から左へ、車窓の風景は移り変わるけれども、目的地にはまだつかない。
外にでてみると出発したはずの駅だった。

「出発するとは言ってません」

駅員は言う。だって景色が。

「景色が変われば進むはず、そう信じたのは貴方です」

今も僕は電車の中。

切符を買ったら着かないはずがないでしょう。

[#書き出し](#)

口吻

それがキスだとしたら、あまりにも乱暴で強引ね。
キスというのは眠れる森から私を世界へ誘う鍵。
甘く切なくロマンチック。そうでなければキスじゃない。
だから今のは何でもないわ。さよなら誰かの王子様。

[#書き出し](#)

眠れる森のお姫様は千年経っても夢の中。
望みのキスを捧げる王子はイケメンに限る。

白いピース

白いピースが空から降ってきた。
冬の空にぽっかりとピースと同型の穴が空く。
いけない世界が逃げだしちゃうよ。
放っても還らずに、落ちてくるピース。

#書き出し

僕がピースに鳥を描くと穴に向かって飛んでいく。
上機嫌で囀るピース。良かった。
バラバラバラ。
他のピース達が次から次へと落ちてきた。

終わった物語

終わった物語を覗いてみたら物語は続いていた。

美しくて悲しいラストは幸せな結末へと向かっている。

結末じゃないわ。ヒロインが言う。

貴方が見ている物語って私達の人生のほんの一部。

物語にならない退屈な場面であっても私達には大切な日々よ。

[#書き出し](#)

私はパタンと本を閉じた。どうか、お幸せに。

はなうら

占いに散った花卉が埋めていくこの部屋で、
すき、きれい、どちらが嘘かを推理する。
結果は自ずとでるというのに頭は思考をやめられない。
君の言葉、君の視線、君の温度。
期待はきっと間違いじゃない。わかっている。
けれど勇気が欲しかった。
すき、きれい、すき。
さあ、君に私を伝えに行こう。

[#書き出し](#)

糖衣錠

糖衣錠の中身が苦い事は知っていたのに、甘さを全て舐めつくした。

残されたのは強い苦味。効果があるのはこっちの方だと解っているのに飲めやしない。

この薬って何だっけ。そうだ失恋鎮痛剤。

恋の甘さだけを求めて本当の君を無視して泣かせ、いつしか恋を壊してた。

僕には飲めない優しい薬。

[#書き出し](#)

空気の密度

空気の密度に耐えかねて、小さく深く息を吐く。

こういうの嫌いだ。これじゃ本当の力なんか。

ポン。肩に置かれた手。振り返る。

お前、緊張してるな。五月蠅い。大丈夫、出来るって。何だよ俺はお前を心配して。

[#書き出し](#)

じゃ頑張ろうな。

気がつけばいつも通りの空気。一緒の学校、行けるといいな。

夢で逢えたら

これは彼女が見ている夢の中のようだ。

夢の彼女は饒舌で、

「君がいるのは、君が私に会いたいから？それとも私が君に会いたいから？」

なんて可愛く聞いてくる。

「君が僕を呼んだんだ」

僕の返事に君は俯く。

[#書き出し](#)

翌日。幾度となく君と視線が絡む。

あと何度夢で逢えたら好きだと言ってくれるかな。

一人より二人

一人より二人の方が楽しいよ。

ポップコーンはおごってあげるからさ。

一緒にいこう。

どうして私みたいな年下女を映画に誘うのかしらと思ってた。

けれど。

渡されたチケット、それで全てを理解したの。

[#書き出し](#)

貴方、プリキュア好きなのね。

私みたいな小学生を誘ってまで見たいなんて。

大好きなのね

書き出し祭

あと一月で書き出し誕生一周年と聞いて、この一年を思い返してみる。

沢山の素晴らしい書き出しに巡り会えた一年でした。

色々な人がいたね。通りすぎてしまった人も、どこかで見ていてくれるかな。

どうやら、[#書き出し祭](#) なんて趣向もあるようですし、楽しみですね。楽しみましょうね。

[#書き出し](#)

泣き虫少女

泣き虫少女は、笑ってみせた。

笑い虫少女が泣いていたから、笑うことしかできなかった。

ねえ貴方でも失恋したなら泣くんだね。

当たり前よ、貴方は今日は泣かないのね。

泣けないわ。

どうして。

だって、貴方のほうが悲しいから。

[#書き出し](#)

表情を取り替えた二人はその後、一緒に泣いてそして笑った。

瞳に映る空

空色の瞳に見つめられれば。何も言えなくなってしまうの。

私だけを映すその瞳。

話しかけたら貴方はきっと驚くでしょう。

何も言わずに貴方を見てる。

悲しい日、嬉しい日。

いつも見つめてくれる貴方の為に、私は綺麗でいたいんだ。

貴方の瞳を曇らせたくないの。

美しい青空で、私はありたい。

[#書き出し](#)

博士の躊躇い

博士は躊躇した。心に触れるのを躊躇した。それを見た僕は只笑うだけだった。

自作のロボットに見覚えのないものができている。

そしてそれが心という事実。

驚かないはずがない。胸に出来たこの心のお陰で僕は、愛するや、慈しむを覚えたのだ。

[#書き出し](#)

ロボットの胸辺り小鳥の巣を見つけた。可愛い。

妻殺し

殺したはずの妻が戻ってきた。

ねえあなた、今日の夕飯は何にする？って、確かに殺したはずなのに。

あの感触に未だ苛まれ悪夢にうなされている俺は、妻の笑顔に殺意を覚える。

気がつく俺は前と同じように妻を。

[#書き出し](#)

殺されたはずの私はまた戻っていく。

小心者の貴方が罪悪感で苦しまぬように。

磁石

「磁石は好きだからくっついてるわけじゃない」

そう言って離れない彼女。

「君とつくと自分が何者か解るから」

N極の僕にくっつく彼女は書かれていないけれどきっとS極だろう。

「ただの自分探しよ」

理由なんかどうでもいい。

僕と君との頬が触れ合う事実に比べれば、全ての理由は実に些細だ。

[#書き出し](#)

罪を着る

彼女は罪を着ていた。

着せられたのではなく、自ら着たのだ。

幾つも罪を重ねて着れば温かい。

彼の罪。あの子の罪。

愛するみんなの罪に包まれている時が一番安心できた。

私は一人じゃない。罪がみんなと繋いでくれる。

[#書き出し](#)

連行される彼女をTVが映す。

繋がりを断ち切る様にTVを消す、みんな。

大切なもの

大切なものをなくしすぎた君は色々足りなかった。

大切なものを全て忘れやがては心を失う病。

なのに君は僕をこと、何一つだって忘れない。

大切に思われていなかったという証明に耐え切れない僕は、君の前から姿を消した。

君は僕をなくした。そして心も。

僕はこの手で、君の病気を実らせた。

[#書き出し](#)

正論

正しいからって受け入れられるとは限らない。

そう言って君は僕を拒んだ。正論が君を動かさないことなら知っている。

受け入れなくても構わないよ。怒らないで。僕はただ、自分に背くことなく君と一緒にいたいんだ。

意見の違いは喧嘩の理由にならないでしょう。

だから。僕と話をしてくれる？

[#書き出し](#)

ココロ蜜蜂

心臓に蜜蜂を飼っている。

彼らは甘い、甘い蜜を毎日運んで蓄えた。

そしてある日、とろり溢れる。

晴れた日に、蜜蜂たちは青い空へと飛び立った。

そして私も。

[#書き出し](#)

「あなたが好き」なんて思わず口に出たのは、

蜜蜂たちが運んできた甘い蜜が、恋や愛、そんなものだったからかもしれません。

パンドラの箱

パンドラの箱に入っていたのは、希望じゃなかった。

中にいたのは女の子。差し出された小さな手。

あの希望は？

尋ねると、食べちゃったって。

大丈夫よ貴方まで食べやしないわだから。

だから？

お茶を頂戴。

[#書き出し](#)

それからの人生は薔薇色だった。

今思えば希望はずっと君の中にあっただね。

漸く君に会える

漸く君に会える。

小さな芽。少しずつ育つ。毎日お世話する。蕾がつく。そして、咲く。

会いたかった。僕が言うと、私もよ、とハナノヨウに君は笑う。

[#書き出し](#)

君は機械の花で僕は君のお世話ロボット。

キセツカン、とやらのために、秋には枯れて春に咲く君。

淋しい冬は終わる。

誰もいないこの世界で。

頁をめくるごとに

ページをめくる度に恋をしていた。

なんて言って切り抜ける？波瀾万丈の冒険活劇。

僕のお姫様は物語が進むごとにキラキラ輝き、そして。

なんだと。け、結婚？

[#書き出し](#)

「落書きしちゃダメよ」

ママが僕を叱る。

絵本最後のページ、僕の姫と並ぶ王子。

別れ傘を描いたことは、怒られたって後悔しない。

初恋瓶詰め

初恋を瓶詰めにした。深く青いそれはやがて透明に輝く。
舐めてみた。苦いはずのそれは甘酸っぱく味を変えている。
変わったのは初恋かそれとも僕か。
ただ一つ解るのは僕がもう初恋を飲み干せる大人になったという事。
熟成した初恋は丁寧に僕を酔わせる。
今日君が結婚したと聞いた。お幸せに。

[#書き出し](#)

夢が

夢が僕らを刺した。

いつだって思わせぶりな態度。

素晴らしいね。ちやほや褒め称えて、追いかけてくれるかと思ったら見つめるだけ。

そのうち、夢は夢だよなって、現実なんかと付き合いだして。

私の気持ち、考えたことある？

[#書き出し](#)

目が覚めた。夢だった。

もう一度君のこと、追いかけてもいいよね？

鶴の恩返し

鶴は恩返ししたくて彼の家の扉を叩く。

「あなたの女房にしてください」「断る」「どうして」「好みじゃないから」

鶴は考えた。

妖艶な美女。清純派美少女。ゆるふわ系女子。ボーイッシュショートカット。

「嫌い」「惜しいけどダメ」「怖い」「違う」

[#書き出し](#)

彼の好みは二次元幼女。鶴の恩返しは続く。

嵐の素顔

悲しくて怒った。こんな日にさえ逢えないなんて許せなかった。

もう別れちゃおうかな。友達に愚痴をこぼすと笑われた。

怒るくらいに好きなのねって。

なんだかそれはストンと落ちた。

逢えないことは嫌いの理由になれないね。

怒りの正体が恋だと分かると、なんだかせつなくて笑った

[#書き出し](#) [#締め](#)

ライター

今朝、また誰のかわからないライターが増えた。

怯えた瞳で黙りこむ。

世界がネットで完結するようになって以来、書くことがより重要で身近になった。

そこで増えたのがプライベートライター、私的代筆屋だ。

夜勤あり、低賃金の過酷な労働。

このシェルターに逃げこむライターは増える一方だ。

[#書き出し](#)

バックスペースキー

そっと言葉を紡いで消して、心を削る。

本当のことなど言えやしない。

本音を飲み込みすぎた僕のバックスペースキーはもはやその名も見えないくらい。

でかい顔のエンターキーが僕を誘う。

書いちゃえば？どうせ誰もみてないし。

うるさい。

自意識過剰の僕は、今日も空っぽの140字を重ねる。

[#書き出し](#)

異国の歌

お気に入りのヘッドフォンからは無名の海外アーティストの歌が流れている。

その歌が貴方の居場所を教えてくれた。

遠いなあ。旅の近況代わりに行き先々から貴方が私に送る歌。

近くにいるより気持ちが解る。

隣にいたって甘い言葉の一つもくれない貴方が私に選ぶ歌は、

いつもいつも、愛の歌。

[#書き出し](#)

う？

嘘つきの貴方。

苦しい恋になるってことは、

すぐに気がついてた。

付き合っ、なんてワガママ言わないけれど。

[@ce1039](#) [#twremix](#)

塗りたての口紅でシャツにこっそり印をつける。

不適切な関係のリスクを貴方にあげる。

無理矢理な恋を、

有利にするのに、

ルールなんか守れないわ。

配達員

バイクの音が聞こえる度に外に出る。

どうぞ。手渡された年賀状。嬉しいけれど、足りないの。

翌日、また待ち切れずに外で待つ。

どうぞ。手渡される年賀状。年賀状、年賀状。もうたくさん。

「あなたが好きです。」

年賀状より運ぶあなたを待ってるの。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

英雄譚

英雄譚が世界をかける。

それが事実であるかどうか、そんなことは些細なことだ。

ご都合主義がなんだというのか。

大切なのは、面白さ。あともう一つ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「やっぱ竜は攻めだよ」「三角関係がいいかも」「勇者女性化は？」

一番人気は、勇者×竜。

物語には萌えが必要。

制限時間内

「君の時間は限られている。誰かの言う通りに生きて、無駄に過ごすヒマはないはずだ。大事なのは自分の直感を信じること。命短し恋せよ乙女！ってイテテテ」
ほっぺ引っ張られた。

「わかってるならはやく年収一千万以上のいい男連れてきなさいよ神様」
やぶ蛇だった。

[@1_dark #twremix](#)

思い出サイダー

彼との恋に傷ついた君に、僕は思い出サイダーを薦めた。

辛い思い出は全てサイダーに閉じ込めてしまえ。

戸惑いながらも君は頷く。

[@LOVE_FICTION #twremix](#)

傷が癒えた君は、また彼に恋をする。

並んだ5本目のサイダー。

意気地なしの僕は、君の運命を変える言葉を言い出せない。

「さよなら」部屋には書き置きと思い出サイダー。

これが君の答えか。君が僕をどう愛して嫌って去っていったか、これには全てが詰まってる。

僕は栓を開けた。

[@LOVE_FICTION #twremix](#)

泡が弾けるたび思い出が消える。

飲むことも出来ず僕らの思い出が死んでいくのを、ただ見送る。

鏡餅

朝起きると鏡餅が消えていた。

親族会議が行われているこの山荘は現在雪で閉ざされている。

胸騒ぎがしてみんなを集めてみると、爺様が出てこない。

鍵をこじ開けると室内には死体が。

きっと凶器は鈍器のような鏡餅。

[#twremix @hyuugahikage @1_dark](#)

死因、窒息死。

初夢

「初夢どうだった？」

「夢の話はしたくない」

「言えないような内容なんだ」

「そういうわけじゃないんだけど」

「教えてよ」

「ええとね」

[#twremix](#)

「ふーん」

「だから嫌だったんだ」

「なんで？」

「夢なんてオチとかないからそういう反応になるでしょ。それが耐えられない！」

[@1_dark](#)

「オチないとかダメやん」

「ですよね」

「スペクタクルな展開、時にオセンチに、そして最後にどかーんと大オチ」

「いいですね」

「そうしいや」

「お言葉ですが」

「なんや」

「夢は貴方の潜在意識の顕れです。面白い人は面白く。そうでない人は」

「人は？」

「それなりに」

[@1_dark #twremix](#)

どちらにしようかな

「どちらにしようかな。天の神様の言うとおりに」

「差し出がましいようですが自分で決めて下さい」

「神様？」

「疲れたんです。二択でいつも同じ歌なら選ばれる方は決まっています。

定められた運命に責任押し付けられても」

「はあ。で、どっちです？」

「(; ω ;)」

[@1_dark #twnovel](#)

「どちらにしようかな。天の神様の言うとおりに。鉄砲撃ってバンバンバン」

[@1_dark #twremix](#)

「柿の種が割れている」

「この角度、あのビルから打たれたのか」

「この距離無理だろ」

「でも三発とも種に命中させる偶然なんて」

「神というのはまさか」

「まさか」

「「ゴルゴ・・・」」

昔々あるところに

「昔々あるところに、継母や女王様などなどにいじめられていたお姫様がいました」

「どうにかしてあげられないの？」

「解決をお望みなら、[#世界もう滅ぼしたい協会](#) へ。

女が二人以上存在する世界では争いは絶対にはなくなりません。絶対ですよ」

[@pirch_yui @1_dark #twremix](#)

「秘技！今夜は帰りたくない！」

「上目遣いからの華麗なコンボでした」

「男の方が、着物脱いたら着れないだろ返しか」

「草食系ですね」

「脱がし前提ですからロールキャベツでしょう」

「おや決着がついてますね」

「私着付けできるから。大和撫子カウンターきまったあ」

[@1_dark #twremix](#)

猫ふんじゃった

僕の猫がいなくなった。

ピアノの鍵盤に沢山の足跡を残して。

なんだこれは。わざわざ暖炉の炭を塗りつけてさ。

どうやら低い方から高い方へと歩いて行ったみたい。

猫の歩み通りに、僕は奏でる。

[@1_dark #twremix](#)

美しくそして明るい音階。

ああきっと、君は遠くに行くんだね。

空海

同じような青だった。

空も海も。

けれど空には太陽があって、海には僕らがいた。

違いなんてそれくらい。

けれどもきっぱりと違う空と海。

同じような気持ちだった。

友情も恋も。

けれど友情には永遠があって、恋には変化がある。

違いに気づかずこの恋を腐らせたのは僕。

[@1_dark #twremix](#)

うそほんと

「もしもしあたし！

もう別れたとか、ひどいウワサも流れているけど、まさか信じていないよね？

私達はまだまだこれから！

だって私、今あなたの部屋の前にいるのよ？ねえ、開けてよ。」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

勧誘

「奥さん、新聞いりませんか？」

「いけませんわっ」

「今なら特別にお安くしますし毎日私が読み聞かせましょう(。+・`ω・´)キラッ」

「でも主人が」

「内緒にすればわかりませんよ。今月だけは無料にします」

「でも」

「一緒に世界を、広げませんか？」

「ああっ」

[@1_dark #twremix](#)

あいうえお

「すみません」「あ？」

「何処が痛むんでしたっけ」「い！」

「えーところらへんかなあ」「う...」

「すみません痛いんですよね。胃ガンかなあ」「え？」

「いえ、何でもありません。うーんただの胃炎ですかね」「おお」

「良かったですね」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

オリオン

名高い狩人オリオンは、夜空に一人。
さそりもケンタウロスも見当たらない。
何処へ行った。何処へ行った。

[@1_dark #twremix](#)

ごめんね。心でそっとオリオンに謝る。
ひとりぼっちは私のせいだ。
だって私、オリオン座しか知らないの。
もっと沢山勉強してから星空の夢をまた見るね。

天才作家

余分な物語を書くことは時間の無駄だとされている。

常識として僕は名作しか書かない。

賞賛されない作品を書くことなんて、僕のプライドが許さない。

そういうことで、僕の書いたお話は、一行たりともありませんが、それでも僕は作家です。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

理

余分な作業をすることは時間の無駄とされている。

常識として人々は理数師たちの店へと通い、数々の数式で物事を効率化する。

けれど理数師達は9割方変人。

意味不明な独り言を言ったり、急に逃げ出したりもするけれど、

悪気はないので生暖かく見守ってあげて下さい。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

志望校

母のようになりたくなかった。

仕事ばかりで家事も出来ず、父にも愛想を尽かされた。

勘違いしないで。

この選択は憧れ故じゃないんだから。

制服姿を喜ばないで。懐かしまないで。

貴方と同じ道を通して、貴方より幸せになって、貴方を否定してみせる。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

結婚した。娘が生まれた。育った娘はやがて私を嫌悪する。

汚い言葉を冷たい視線を私に鋭く投げつける。

私は娘を嫌えなかった。知ってるこれはあの日の私。

これが因果というものならば、あの日の母も私のことを。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

たまには話をしてみよう。

もしもし。

疑う

「お客さん、疑ってますね～」

「そうですね」

「ええと、奥さんと親友あたりを、ってところですか」

「職業病ですから」

「大変ですか」

「うーん、死者にあたるのはもう慣れましたが好きに旅行もできなくて」

「湯けむりばかりじゃ飽きますね」

「雪山も飽きました」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

[#twremix](#) へようこそ！

お話を妄想の向くまま、様々な物語へリミックスしております。

SF、ファンタジー、何かご希望は...スカッとストレス解消がしたい？

それならば、最近力をつけている、[#世界もう滅ぼしたい協会](#) さんをご紹介致しましょう。

もしもし、あとは任せた。[@1_dark](#)

心汚れ

心の汚れが落ちない。

既存の洗剤ではもう無理です、と洗濯屋に言われた。

もっと強い希望や愛が必要です。

[@1_dark #twremix](#)

洗剤のため、僕は初めて人を愛した。未来についての希望も持った。

数年後僕は再び洗濯屋へ。

「もう十分綺麗ですね」

洗濯屋は笑って僕に手を振った。

人魚姫

貴方の気持ちはすぐに解った。
だってその目は私と同じ、恋する女のものだから。
今や私は彼の花嫁。なのにどうしてこんなに心が騒ぐのかしら。

[@pirch_yui @ce1039 @1_dark #twremix](#)

彼は愛おしげに海を眺める。
彼の心に爪を立て消えてしまった狡い貴方を許せない。

貴方の気持ちはすぐに解った。
だってその目は私と同じ、女を恋するものだから。
なのに私は彼の花嫁。後悔という言葉の意味を思い知る。

[#twremix](#)

王子様はもういない。
魔女に貰ったナイフで一突き。
ねえ王妃様。後悔なんかさせないわ。

[@1_dark @pirch_yui @ce1039](#)

はじめてできた友達は恋敵だった。
王子様の婚約者。言葉を話せぬ私に彼女はいつも優しくしてくれた。
私の恋にもきっと気づいていたのよね。
貴方を苦しめたくなくて、泡になるって決めたんだ。
貴方の幸せ、海の底から祈ってる。

[@1_dark @pirch_yui @ce1039 #twremix](#)

百八屋に行って、百八を買ってきた。

百三も千五もなく、百八の一種類しか売っていなかった。

丸い小さな錠剤をみつめている。

この中に全ての煩悩が入っているなんて。

これに私の名前を書いて彼に飲ませるだけでいい。

[@1_dark #twremix](#)

たちまち私は彼の煩悩。私を深く煩ってね。

「スゴい！恋100円だって！」

「危ないから自分で使っちゃダメだよ。お値段なりでしかないから」

「どうせすぐに終わるだろうから遊ぶつもりなら好都合」

[@1_dark #twremix](#)

「どうだった？」

「ん、ああすぐ終わったよ。だけど」

「？」

「いつもの恋よりずっと良かった」

「それって」

時間泥棒

なんて手強さだ。時間泥棒は吐き捨てた。
沢山の泥棒達が僕に挑み負けていく。
そんな泥棒達の一人がある日僕にこう言った。
「強い貴方をなんだか好きになっちゃった」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

最近、とうとう時間が盗まれはじめた。
これは恋のせいなのか。
だけど。
盗まれるのも悪くない。

抱負

新年の抱負を拾い集め分類する。

これはあの人これはあの子。

ここには今まで分の抱負が全て詰まってる。

それにしてもと僕は思う。

どうしてみんな毎年同じ願いなのか。

少しずつ大きくなる以外変化はない。

僕はマトリョーシカ風に収納する。

抱負と初恋は実らないのだ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

回収車

こちらは～、傷心回収車です～。

はい傷心の方ですか。お聞かせ下さい。

女を作られた。それはそれは。あー辛いところですね。お話下さって有難うございます。

はい、こちら粗品です。有難うございます。

[@1_dark #twremix](#)

翌日、彼女の失恋物語がツイノベとして喧かれ、ファボを博した。

廃星回収車

こちらは毎度おなじみの廃星回収車でございます～。
おや、この星良く見ると瀕死ですね。素晴らしい。
こういう星は割りと高値で買い取れます。
滅びていたら滅ぼせません。
回収車の運転手はどこか [@hyuugahikage](#) に似ていた。
[@1_dark](#) [@marinegumi](#) [#twremix](#)

マーメイドダーク

あれが欲しいか。

魔女の水晶に映る貴女。私は魔女を睨みつける。貴女を汚された気がしたのだ。

足をやってもいいのだが。

ニヤリと笑う魔女。

けれど代わりにお前の心が必要だ。

[@ce1039 @1_dark #twremix](#)

あげられないわ。

私は魔女の顎に手をかけた。

心はここにはないのだから。

お前は私が好きなのね。

私が笑うと魔女は頬を真っ赤に染めてふいっと横を向く。

心はないの。心は捧げてしまったの。

だから代わりにこれをアゲる。

[#twremix](#)

黒髪が頬に落ちた。心ない口づけを悦ぶ魔女は、私の言いなり。

さあ、足を頂戴。私は貴女に会いに行く。

[@ce1039 @1_dark](#)

魔法でできた足は痛んだ。

魔女から無理やり奪った足は歩けば針を刺すようだった。

油断したならすぐに気などは失いそう。

けれどもそれが何だと言うの？

貴女のための痛みなの。そう思ったなら嬉しくて。

貴女がこの痛みの為に払うべき対価が、ただ楽しみで仕方なかった。

[@ce1039 #twnovel](#)

神様

少子化を緩和するために、神様はある温泉に媚薬をこっそりいれようと、いれようと。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「おまわりさんここです痴漢です」

「こっちきて名前は」

「神様です」

「は？」

「私は神だ」

ヒソヒソヒソヒソ。

音楽は世界だ

音楽が世界を育てるので、さっそく試してみた。

平和を願って曲を選んでいると、恋愛が大切と逢いたすぎる系の曲をガンガンかけられた。

自然の壮大さをとクラシック、科学の限界をとボカロ曲。

重なり流れる音楽。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

不協和音が響き渡る。世界は混沌に包まれた。

恋してはいけない

恋をしてはいけない方に恋をした。
彼にはツマがいた。私とは真逆の色白美人。
何度も諦めようとしたの。
けれど彼は自ら私の元に来て、香りを移していったんだ。

[@1_dark #twremix](#)

貴方にはツマがいるのに。ツマが。
お皿の上のお刺身を、醤油は愛しげ見つめる。

[@hikch @1_dark #twremix](#)

俺がいるじゃん。そう言いたい。
お前俺のこと無視し過ぎて、そう言って慰めたい。
けれど辛口の俺にはそんな甘い言葉、似合わないよな。
アイツを見つめるお前に黙って寄り添っていた。
相性は、俺との方がいいはずだぜ。
山葵は、醤油を愛している。

うしろ

ネタがあろうがなかろうが、

[#twremix](#)には、たいてい[#世界もう滅ぼしたい協会](#)の使者がいる。

しかもかなりの実力者。

ほら気をつけて、[@1_dark](#)さん。

あなたの後ろに、[@hyuugahikage](#)。

探しもの

探しものがあるならば、名前を呼ぶといいらしい。
あの子の名前を呼んでみた。返事はない。悲しい。
運命の人、どーこー。

[@1_dark](#)

うるさい。隣の部屋から姉貴が怒鳴る。姉貴の後ろで笑う幼馴染。
僕の恋を毎度踏み潰す二人を睨む。

[#twremix](#)

幼馴染が運命の人だと解るのはまた別のお話。

たかね

「わからないのは貴女の方ですよ。

僕は注文しています。先程から何度も。そう、貴女を」

決まった。きっと彼女は今頃顔を赤らめて。

「お客さん、年収は」

「え？」

「私、高値の花なの」

たかね違いな気が。

「それすら見越して帰れつつってるんですよ、わかります？」

[@1_dark #twremix](#)

白

次に気づくとそこは風呂？

けれどなんだか随分昆布の香り。

ああ、気持ちいい。

ああ、うお熱っ。

頭、多分頭が冴えてきた。

ああ、僕は今度も生物ではなかった。

白い身体。僕はきっと湯豆腐だ。

どうして白い身体繋がり。

謎を解きたくとも知能が足りずに僕は。

[@hyuugahikage #twremix](#)

どのような物をお望みですか？

尖った眼鏡の司書はそう言った。

どんな物語があるのですか。

どんな物語でも。

まさか。

ないならお作りしますし。

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

ご注文を。司書の後ろで本たちが蠢く。

一つとして同じものがない図書の中から、

貴方だけの一冊が今選ばれた。

風の子

風の子どもがやって来た。吹く練習をしているらしい。
窓をガタガタさせたと思ったら、庭の置物を吹き飛ばした。
才能があるようだ。

「そんなに乱暴しちゃダメ。あなたは普通の風でいて」
窘める母親を睨みつけ風の子どもは、「いつか台風になるんだ」と瞳を輝かせた。

[@1_dark #twremix](#)

紫の

最近、夢の再放送が始まった。

子どもの頃に見た夢を、もう一度見せてくれるのだ。

すっかり忘れてしまった傑作や、思い出深い名作など、今見ても十二分に面白い。

ただ、忘れたくて忘れた記憶を引っ張り出してくるのはどうか。

「成人の日特集、紫のかがm」ぎゃー。

[@1_dark #twremix](#)

子どもと

子どもと小鳥をよく混ぜて、見わたす限りの大空に放します。
いつでも帰ってこられるように、鳥籠は開けておきましょう。
あなたの心の子どもはいつでも自由に遊んでいられます。
けれどもひとつ気をつけて。空を飛ばない鳥もいるの。
例えばほら、ネットを翔る青い鳥。

[@1_dark #twremix](#)

大人気

勇気を出して拗ねてみたなら 貴方は私に 大人気ないな とキスをくれた

[@ce1039 #twremix](#) [#3 1文字の小説](#)

意地を張るのも子供じゃないか 思ったけれど 僕は気づかぬ振りをする

[@ce1039 #twremix](#) [#3 1文字の小説](#)

ようやく

「やったな！」 「ああ、傑作が書けた！」

「ちょっと待て！これ、なんだこのタグ」

「こ、これは」 [#twremix](#)？」

「...はい、全部元作があります...」 「つまり、元作様のお陰で面白いものが書けたと」

「いつも感謝してます！」 「誰に向かって言ってるんだ...」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

お酒は

20歳になった祝いに酒を、と父から杯を受けた。
真っ赤な杯。飲み干すと喋り出す。代々伝わる酒神らしい。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「へえ、今度はあんたなの。ついで！
あ、でも安いのは無理。千寿より上レベルだね。これで終わり？全然足りない」
じゃ、頼んだぞ。
晴れ晴れとした父の顔。

オトナになる方法

獏の子供がやって来た。

いつ大人になると聞いたら、沢山夢を食べてからだをモグモグさせている。

大人にならなきゃ危険な夢は食べられない。

[@1_dark](#)の目がキラリと光る。

夢ならあるわ。獏の子供はバクバク食べる。

はやく大人になりなさい。危険な方がネタになるの。

[#twremix](#)

夢を見ない

夢を見ない生活は快適で、仕事もプライベートも充実した。
現実を生きる。ここだけが僕の世界。僕の全て。ここにしか居場所はない。
逃げる場所など何処にもないのだ。全て、現実的な解決を。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

追い詰められる現実を獏が囓る。
「ああごめん、悪夢と間違えちゃった」

夢オジサン

夢を一部しか覚えていない？失礼なやつだ。

俺きちんとノーカット上映してるよ。

覚えてない？覚えていないだと？

猯か。猯の仕業じゃ仕方ねえ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

夢オジサンは職人気質。

覚えてない、なんて言ったらヘソを曲げてしまうから。

猯のせいにするといい。お供えは勿論悪夢で。

獏の好み

甘い夢を食べる獏は、実は覚悟が必要らしい。
甘い夢は高カロリーで、メタボの危険が大きいからだ。
そのカロリーを消費するため日々運動を欠かさない。
マッチョなボディーは甘い夢専の目印。
ロマンティックな恋の悪夢がその筋肉を震わせる。
勿論、メタボなものもある。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

アオイトリ

青い鳥がいっぱいやってきて、Twitterのアイツだけ有名になってズルいと、ヒソヒソしてた。アイツなんて誰かを幸せにするより不幸にする方が多いのに。俺らもアイツと同じにしよう。って言っているから、みんながTwitterで幸せになれるように。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

人見知り

僕の彼女は人見知りで、ほとんど姿を見せることはない。

僕の後ろにいつも静かに隠れているし、恥ずかしがり屋で電気を消してといつも言う。

可愛い君。影は薄いけれど、僕はそんな君を愛してる。

[@1_dark #twremix](#)

最近友人が背後霊を彼女と言い張るんですが、どうすればいいですか。

私が書いた物語のヒロインが、現実に現れた。

彼女とのガールズトークで盛り上がり、眠れぬ夜が続いてく。

完全に分かり合える私達、こんな素敵な親友はいない。

[@pirch_yui #twremix](#)

どうということ？

ヒロインが私の彼と浮気しているのをを見つけるまで、そう時間はかからなかった。

彼女がヒーローと結ばれればいい。

終わったはずのその物語に私は続きを書き足した。

最高の盛り上がりで迎えた別れのその後で、あっけなく復縁って、ダメよこんなご都合主義は。けど。

[@pirch_yui #twremix](#)

人生をとるか、作品をとるか。

私は今、究極の選択を迫られている。

醒める夢

恋の夢がもうすぐ醒める。

貴方から降り注ぐ、すべてを薔薇色に染め上げる私達だけのその魔法は、もうすぐとけてしまうんだ。

深い痛みと共に、夜明けをまたずに、夢は醒めた。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

泣き声に包まれて君は生まれた。私と貴方と君と。今度は3人で、愛の夢を見るために。

夢の世界へ

夢の世界へ旅立つために、心が置き去りにした空っぽの体を、毎晩、天使が守ってる。
心が迷わず帰れるようにとの配慮らしいけれど、今日は何だか様子を変だ。
僕と似た絵を隣に描いたり、罨を仕掛けたり。まるで戻れなくしたがつているみたい。
よく見ると死神。危ない。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

夢のような

日本酒も焼酎もワインも、どれでも好きなだけ飲むんです。
補充され続ける酒と相性バッチリの肴。どんだけ飲んでもほろ酔いでご機嫌。
なんて天国。
ええこれは夢の話ですよ。
更に次の日二日酔いがないんですが、そこまで含めて全て夢。
ああ、なんて夢のよう。夢ですが。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

切り取ったあなた

あなたの好きなところだけ切り取った。

優しい声、長い指、おいしい唇その他色々。

切り取ったあなたとの恋は甘く、ひたすら甘くて優しくて。

それだけじゃとても食べられない。

お口直しに私は別の恋をする。

切り取ったあなたの残りのところと私はクールな恋をする。

[@rangming](#) [#twremix](#)

百合の花

綺麗な花ねと言うと貴方のお陰よって。

どうしたことだか解らなくて首をかしげていたなら、
それは目の前で勢い良く育って更に大きな花をつけた。

惹かれる。けれどもなんだか怖い。

怯える私の手をとって、大丈夫急がないからと優しく笑うあなた。

ねえ、何を？

[@pirch_yui #twremix](#)

ネタかぶり

ものすごくいいリミックスができたので眩こうとしたら、
それとあまりにそっくりな [#twremix](#) が流れてきた。

アブナイアブナイ。

と思ったらそれが大量にふぁぼられている。

何てこったと思うのと同時に、同じ時間、同じことを考えていた人が確かにいた事実が嬉しかった。 [@1_dark](#)

探偵役

僕はまず、遺体を運んだ。
親族会議が行われる大きな屋敷に運び込んだら手の込んだ、
けれど解りやすいトリックで密室を作る。
雪の密室になるまで待って、遺体が見つけさせて、
頃合いを見てチャイムを押せば僕はまんまと探偵役。

[@1_dark #twremix](#)

「探偵、間に合ってます」想定外。

夢の試験

、ということを繰り返した結果、「ダメじゃない、おきて？」と夢から醒まそうとしてくれる子まで出てくるようになったけれど、可愛いから目覚めたくないんだよな一困ったぜ、という夢を見た。一番大切な試験中に。 [@1_dark #twremix](#)

鳥の言い分

昨夜ツイッターを閉じた僕に青い鳥は囁いた。
いい子だな。明日一問だけ私が答えを教えよう。

[@1_dark #twremix](#)

ああ、解らない。青い鳥さんお願いします。

どれどれ。

問題文を読んだ鳥は小首を傾げ、そっと囁り飛んでった。

続きはwebで！

おい！

ゴキゲン

「機嫌が悪いですね。どうかしましたか？」

「どうかしましたね」

「じゃあ、きちんとそう言ってくれないと。

てっきり怒っているのかと思って無駄に反省しそうになりました。で、どうしたんですか？」

「怒られるようなことをしたのに全く気づかない阿呆がおりまして」

[@1_dark #twremix](#)

「いますね。相手の気持ちに全く気づかず嫌な思いをさせる人」

「いますね」

「関わらない方がいいですよ」

「けれど好きな人なので」

「好きな人がいたんですか」

「いないと思ってたんですか」

「どなたです？」

「私の気持ちに未だ気づかず嫌な思いをさせ続けてる人です」

[@ce1039 #twremix](#)

「教えて下さいどなたですか」

「どうしてですか」

「知りたいからです」

「どうしてですか」

「気になるからです」

「どうしてですか」

「それは」

「どうしてですか」

「それはあなたが好きだから」

「よく出来ました。相手の気持ちに気づかないお倅せな私の好きな人さん」

[@ce1039 #twremix](#)

獏と僕

仕事も恋愛も充実して夢さえもハッピーな毎日なのに、獏たちになつかれている。
悪夢なんか全然みないというのに何故か離れない獏たちに、時間の無駄だと教えてあげた。
大丈夫もうすぐとびきりの悪夢がお腹いっぱい食べられるから。
って、ねえそれどういうこと？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

配達員

運命配達員と相性が悪すぎる。

誰かと戯れの恋に夢中な時にくるからチャイムの音に気づかず、不在連絡票とご対面。

少し一人身で再配達を待つものの、寂しさに耐え切れず合コン、再びチャイムを聞き逃す。

こんな沢山焦らされたなら出会い頭に君をどうにかしちゃうかも。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

お見舞い

「風邪、大丈夫？」

「うん。もうずいぶん回復したよ」

「よかったー。ところで僕と契約して魔法少女になってよ！」

「それとこれとは話が別」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「お見舞い、どうだった？」

「大変熱心な営業マンだってことは解った」

「風邪、大丈夫？」

「うん。もうずいぶん回復したよ」

「よかったー。で、そちらの方は？」

「彼氏よ」

「え？」

「感染るのを恐れて一度も顔を見せなかった貴方と違って献身的に世話をしてくれた新しい彼氏がこちらになります」

[#twremix](#) [@1_dark](#)

「お見舞い、どうだった？」

「胸が痛い」

眠りに寄せて

「眠い」

「眠いね」

「眠気って、どうして眠っちゃいけない時に限ってやってくるんだろう」

「熱心だよね」

「ここまで熱心なのには理由があると思うんだ」

「理由？」

「眠りの世界が実は本当の世界だから早く帰って来いって」

「成る程」

「だからおやすみ」

「眠るんかい」

[@1_dark #twremix](#)

痛み

「胸がもうずっと痛くて。死ぬまでこの痛みを抱えていかなきゃいけないのかな」

「どんな時に痛むの？」 「君を、思う時に」

[@1_dark #twremix](#)

「その痛みは」

「治りますかね」

「その痛みとは一生お付き合い下さい。お大事に」

「胸がもうずっと痛くて。死ぬまでこの痛みを抱えていかなきゃいけないのかな」

「どんな時に痛むの？」

「好きな人を思う時」

貴方の事よ。

[@1_dark #twremix](#)

「その痛みは治るよ」

「本当？」

「先輩も君を好きだって言ってたし」

「先輩？」

「このリア充め、爆発しろ～」

ドッカーン。

私の魔法

闇の魔法で世界を変えよう！

私の魔法は絶望の魔法。みんなに幸せを与える魔法なの！

最低の絶望はなわけだからどっちに歩いても幸せにしかねないわ！

そんな風が出来上がった世界は、笑顔に満ち溢れています。

最初の一步を踏み出せない人？さあ、知らない。

[@pirch_yui #twremix](#)

月のうさぎ

月に行ったら、うさぎ餅屋が大繁盛していたので、思いっきりもぐもぐしてきた。
めっちゃ満たされたと喜んで数十年、おしりに大福のようないきなりうさぎ尻尾がはえてきた。さらに長い耳も。

そういえば、うさぎ餅屋の主人が後継者不足で困ってるって聞いたような...

[@1_dark](#) [#twremix](#)

もしもし

「もし
もしもしもしもしもしもしもしもしもしもしもしもしもしもしもしもしもしもしもし

「電話？」 「しかも粘着的？」 「犯罪とかそういうレベルの？」

「ううん、亀」

「「「は？」」」

[@1_dark #twremix](#)

お姫様の魔法

シンデレラの魔法を織り込んだので、この文章を読んだあなたは必ず王子様に出会えます。

効果が実感できない方はきっとやり方に不備があるのです。

靴は落としましたか？その靴はガラスでしたか？

おや、そんな靴では王子様には出会えません。

靴のことなら [#twremix](#) 靴店へ！

[@1_dark](#)

催眠術

「貴方は私を好きにな～る。好きにな～る」

「何してるの？」

「催眠術習ったから実験。ねえ効かない？そろそろ効いてきたんじゃない？」

「えーと、なんとなく効いて来たような」

「じゃ、私のこと好きですか？」

「好きですよ」

「やったー」

[@1_dark #twremix](#)

もう随分前からね。

迷える子羊

迷える子羊の数を数えていたら、不安になって眠れなくなった。

これは全て、僕の不安が羊の形になったもの。

どんどん増えて、まだまだ増えて、僕は今では羊飼いです。

毎日毎日羊を追って、家に帰ればボタンキューで完全熟睡。

眠れないのは、悩みのせいじゃなくもしかして？

[@1_dark](#) [#twremix](#)

夢の図書館

夢を記録する図書館に辿り着いた。

夢の中で僕が書いた物語を探し出す。

その中から選りすぐりの面白い本を数冊選び出し、僕は目を覚ました。

[@1_dark #twremix](#)

「先生、何寝てるんですか！」

「俺だってただ寝てたわけじゃないぞ。新作はこれでいく」

「...何これ今までで一番面白い」

世界の終わりとビル・エヴァンス

外では雪が降っている。

暖炉で炎がはせているがくべるべき薪は外にある。

妻は、外に出て行ったきりいなくなった。

息子も犬も。

白い雪のような何かは全てを奪う。

そこに飛び込むか、ここで凍えるのか。

ビル・エヴァンスがクールに響くこの部屋で僕は決断を迫られる。

[@1_dark #twremix](#)

外で雪が降っている。暖炉で炎がはぜる館。

テーブルには高級ワインと豪華な料理。遺産を巡って親族会議が始まる。

[@1_dark #twremix](#)

ロッキングチェアに揺られながら、安楽椅子探偵は夢見る。

そんなおあつらえ向きの場所で起こった殺人事件を解いてみたい。

勿論、密室ありで。

バラ色の人生

君と出会って僕の人生はバラ色だよ。
嗚呼なんて素敵なバラ色の人生。
愉快だね。幸福だね。目眩く僕らの愛の日々。
ってちょっと待ってよ、君とキスする彼は誰だ。
バラが枯れる。枯れてもバラはバラなので。
つまり、今も、バラ色の人生？

[@pirch_yui #twremix](#)

『タイトル、バラ色。』

夢の図書館②

夢を記録する図書館には時々天使がやって来る。

そこに並ぶ本は天使の読み物だ。

もしも天使が夢中になれば、作者の元へ続きを求めて舞い降りる。

来て欲しい？

それなら面白い物語を綴ればいい。

それから、天使は分厚い本が好きですよ。

[@pirch_yui @1_dark #twremix](#)

エレベーター脱出

エレベーターからの脱出法なんか知らない。

それでも私は指揮をとる。

このボタンを押してみる。と、バイオリンが始まりの一音を奏でた。

驚いて他のボタンを押せばフルートが。

押すたび、探るたび増えていく楽器。

演奏がフィナーレを迎えるといよいよ、扉が開く。

喝采。

[@1_dark #twremix](#)

好きになった人

好きになった人に「一緒にいたい」って素直に言った。

あまりにあっさり言ったので、相手は気づかなかったのかもしれない。

返事もせずに眠ってしまった。

これってOKってことよね。

翌日、私は彼を感染させた。

しばらくは私、インフルエンザとお布団で暮らしましょ。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

ハチクロ

図書館で『ハチミツとクローバー』の続きを読んだ。
最終話の感動がそのまま生きた、大爆笑の素晴らしい続編だった。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

ような気がするんだけど、起きて冷静に思い出すと、
実はそれほど面白くなかった気がしてきた。
やっぱり、あの原作を超えることは難しそうだ。

本の名は

[@hyuugahikage @1_dark](#)

図書館で『[#世界もう滅ぼしたい協会](#)』の教典を読んだ。

滅亡への意気込みが生きた、素晴らしい本だった。

必死で内容を覚えたのに、気がつくとき世界は滅びていたので、
この感動を誰にも伝えられずに悲しくもあり、そして嬉しくもある。

[#twremix](#)

夢で会えたら

夢でばったり犯人に再会した。

静かな海辺を歩きながら「捜査進んでる？」とか「あの時は危なかった」とか他愛ない話をする。

夢で会うのは、相手も会いたいと思っているかららしい。

「逃亡生活は大変？」と尋ねると「まあね」と言葉を濁す。

早く君を捕まえてあげたい。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

ブラックホール

ブラックホールに吸い込まれてくるゴミを仕分けする。

これでとうとうコンプリート。必要な物は揃った。

さあ、始めよう。

[@1_dark #twremix](#)

彼は全てを美しく並べた。

捨てられた彼が捨てられた物達で作った世界で彼は神になる。

要らないものは勿論ブラックホールに捨てた。

ご無体な

「社長！どうか！どうかご容赦を！」

「ええい、黙れ！まだだ！まだ足りぬ！」

「これ以上残業すると終電に間に合いません！」

「よいではないか、よいではないか！」

「あーれー」

「家庭など捨てるがよい！」

「ああ！ブラック企業～！」

[@1_dark #twremix](#)

同窓会

お化粧を覚えて、かわいい服に着替えて、同窓会へ行った。
女の子たちは、じろじろ観察しながら何か話してるけど気にしない。
男の子たちに上手に近づき、彼を見事に持ち帰る。

[@rangming](#) [#twremix](#)

裸に怯む彼。
悪いな、男の純情踏みにじったお前の彼女への復讐だ。
大人しく付き合え。

迷惑行為

迷惑な行動ばかりとるあの人に罰を与えたい。

あの人の採点を要求した。なのにあの人は罰を受けない。

マイナスどころか高得点。悔しがる僕らと笑うあの人。

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

良心的な思考をし、その反対の行動を取り続けるあの人に精神的疾患はない。

ただ、性格が悪い。

里帰り

田舎に帰り、心と懐かしくなって、幼なじみに会いに行ったら、無視された。
彼氏と一緒にだからって酷いよ。彼氏、変な顔をしてるじゃない。
あーそれにしても。初恋ってやっぱ実らないんだね。

[@1_dark #twremix](#)

「霊がいる」

「この辺りは昔からでるよ。もう見えないけど昔よく遊んだな」

秘密基地

「さて、また秘密基地が破壊されたわけだが」

「次は水中に作っては」

「呼吸機能の改善が必要だな」

「泳力もな」

「よし水中だ」

[@1_dark #twremix](#)

秘密基地を転々とした僕らの身体能力は超人的で誰に脅かされることもない。

それでも僕らは秘密基地を作る。浪漫に理由なんかないだろう？

押入れの秘密

押入れの片隅に彼女の僕への恋心を見つけた。

隠してあるなんて可愛らしい。

万が一誰かが見ても平気な様に、ダミーの恋心を沢山作ってバラまいた。

[@1_dark #twremix](#)

たくさんの恋心に困り果てた彼女は、どうにか一つを選び出し、残りを捨てた。

ダミーの恋心はキラキラと輝く。

機械、ひとひら、痛がる

「痛いデス」軋む機械が悲鳴をあげる。

機械の擬人化が進み不具合をアラームではなく言葉で表現するようになった。

無視し難くなり仕事の中断が増える。

けれど。

「有難うございマス」ひとひらの感謝も感じられない言葉でさえないよりずっといい。

歯車は今日も歌う。

[@ce1039](#) [#twremix](#)

ニセモノ

ニセモノの貴方を捕獲したわ。

品行方正、頭脳明晰、笑顔がステキな好青年。

僕とは全く似てないそいつを妻はニセモノと言い張った。

3人での生活が始まる。

そいつと妻のラブラブっぷりを見せつけられる。

これも貴方だして、何だか騙されてる気がするんですけど。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

朝起きたら

朝起きたら、隣に見覚えのある女性が眠っていた。

私だ。

これが噂のドッペルさん？目と目があったら死ぬのかしら。

私は部屋を飛び出した。

[@1_dark](#) [#twremix](#)

私の代わりに生活するドッペルさんは仕事も恋愛も大成功。

難攻不落のあの先輩との結婚が決まるまで、もう少しだけ見守ろう。

いたいのいたいの

「いたいの、いたいの、かくしばしょはどこ？」

「そんな、平仮名でかわいこぶったって教えられません」

「あ、教えられないってことはやっぱり知っているのか」

「それは」

「いたい、思いしたくないよな？」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

魔法使いがやってきた！

魔法使いがやって来て、お城の舞踏会へ連れて行ってくれると約束した。

憧れのセレブな世界にふさわしい、ドレスや馬車や従者たち。至れり尽くせりの素晴らしい魔法

。

だったのだけれど王子様の顔がアレでソレで略だったので、魔法の使い所を間違えたと後悔して

いる。 [@1_dark](#) [#twremix](#)

iPhoneならね！

「iPhoneのバッテリーがなくなりそうです。どうしますか？」

「スマホ好き男に『アドレス交換したかったのにバッテリーないの』と上目遣いで言います。
すると、『大丈夫、そうiPhoneならね！』って問題解決」

「アドレスが料金ですね」「教えませんがね」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

魔法の行方

魔女がやって来て、私が人間になれる魔法をかけてくれた。

王子にふさわしい、可愛い人間の女の子。

なのに王子様は決して私に振り向かない。

王子様は探してる。

「僕の可愛いあの黒猫はどこにいった」

私はここよ。ないはずの尻尾がダランと垂れ下がる。

[@ce1039](#) [@1_dark](#) [#twremix](#)

コンパスぐるぐる

「このコンパスは犯人を特定します」

「探偵さん、指されてますよ？」

「ふっ、地球は丸いんですよ？私を飛び越えぐるっと回って犯人は貴方です！」

「」

[@1_dark #twremix](#)

「このコンパスはあなたの恋の動きを表します」

「あの、すごい勢いでグルグル回ってるんですけど...」

「ほら、だんだん止まってきた」

「止まった」

「あなたの運命は私です」

「あの、その手に持っている磁石は」

「こんな些細で可愛い乙女の秘密には目をつぶるものよ？」

[@1_dark #twremix](#)

会いたくて

会いたくて、会いたくて、心のコンパスがおかしくなっている。

きっと壊れてしまったのだと思う。

だって本来、君を求めてぐるぐるさまようはずなのに。

[@1_dark #twremix](#)

いなくなった君の代わりにコンパスが指した女の子が笑う。

きっと壊れてしまったんだ。

僕の運命は、君なのに。

鍋

百合鍋を作ろうと提案があったので、ウェーブお姉さま×黒髪ロングの王道を持っていった。
他のメンバーはショートスポーツ系×眼鏡文系、幼女×老婆なんかを持って来た。
そんなの美味しいわけが、と思いながらも渋々味見をすると、おいしい。
持つべきものは友よね。

[@1_dark #twremix](#)

ジンギスカン鍋を作ろうと提案があったので、とりあえずベットに入った。
羊がいっぱいk

[@1_dark #twremix](#)

数えた羊を食べてやろうと思っていたのにどういことだ。
こんな時に限って一匹も数えられずに眠ってしまうなんて。

戦闘

「皆の者！戦闘準備はよろしいか!? 敵は無数。
子どもと言えども容赦なく狙え。一粒でも多く手に入れろ！
全ての大豆を奪い取る覚悟で、俺らの食糧てにいれろ！くるっくー！」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

んー

「んー、んんん、んっん」「はい」「んんんんんー」「どういたしまして」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「本当はタオルが欲しかったわけじゃないんだけどね」

「じゃあなんで納得したのよ」「愛があるからね」

うまれる

真心込めてチョコレートを作ったら、チョコレートが命を持ってしまった。

あいつが好きなのか。うん。

あいつ、結婚してるぜ？うん。

でも好きか。うん。

好きって気持ち、そう簡単に溶けねーもんな。うん。

[@1_dark #twremix](#)

私を優しく慰めるチョコレートを今も彼に、手渡せずにいる。

あれでそれ

「あのさ、さっきのことだけど」

「ああ、いいよ。そのことは気にしないで」

「ありがと。あ、そういえば」

「うん？それなら一番上の引き出しに入ってるわ」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

「これは？」

「離婚届よ？」

「違うよこれのことじゃない、っていうか何でこんなものがあるの？」

[@ce1039](#)

ガソリン

ガソリン警告灯が点滅している。

近所のスタンドはどこも777円表示で実際いくらか解らない。

安い店も探せず僕は適当な店に入る。

[@tatsuya_chi @1_dark #twremix](#)

「高すぎない？」

「777円/Lで50L入りましたので」

ガソリンの高騰で値段が看板に追いついていた。

憎しみが生む憎しみ

「憎しみは新しい憎しみを生み出すだけ。戦いよりも友愛を。
ここは話しあいませんか。争いからは何も生まれない！」

[@1_dark](#) [#twremix](#)

俺が魔王でお前は勇者。憎しみあってなんぼじゃねーか。
流行りの戦わない解決なんて糞食らえだ。
殺す前に一つ教える。俺、文学少女が好きなんだ。

#twremix

「何やってるの？」

「[#twremix](#)」

「それはなあに？」

「ツイノベの再加工みたいなもんかな」

「何だかエコっぽいね」

「だいたいそんな感じ。いい話、それほど何度も書けるわけじゃないしね」

「リサイクル？」

「フリー宣言した人同士でのね。貴方もいかが？」

[@ce1039](#) [@1_dark](#)

ブロック

気持ち悪い。ブロック。僕は耳を疑う。

君の気持ちを代弁しているだけなのにおかしい。

考えて考えて、僕は一つの結論に至る。

「君は自分を見失い自分を嫌いになりそうな不安定な精神状態である」いうこと。

大丈夫。

君の分まで君のこと、僕が愛してあげるから。

[@pirch_yui #twremix](#)

運命の

あなたは特別。

運命の出会いだった。

良くも悪くも、あなたに会って人生が変わってしまった。

そう言うとそのお方は、ここには運命を変えない出会いなんてないと、

顔を真赤にして怒った。

運命を変えない本などない。運命を変えない本などない。

売れない小説家だった。

[@1_dark #twremix](#)

初夢三題 短歌

真っ白なすはだ晒してたかびしゃに 誘う貴女のふじつな色香

[#初夢三題](#) [#tanka](#)

#worldV&T 迷子の街

迷子の僕らは恋に落ちた。今日も一緒に時計を探す。

チクタク。

なんだか懐かしい。そうだこの音、僕の時計。けれど。

[#worldT](#)

どうかしたのと尋ねる君に何でもないと答えて時計を通り過ぎた。

君もいつか同じ事をするのかな。それともどうに？

僕ら二人、病める時も健やかなる時も仲良く迷子。

#worldV&T お狐様

会えました？巫女さんに尋ねられた僕は首を横に振る。
残念ですね。優しく慰められる日々。
いつ来たって空振りだけど、ここに来るのが僕は楽しい。
だって巫女さん。君には必ず逢えるから。

[#worldT](#)

物好きな子もおるもんじゃ。
恋心になどまるで気づかず、巫女に化けたお狐様は尻尾を出す。
コン。

冬の亡骸

分厚いコートでしっかりと身を包む。

梅に鶯、柔らかな陽光からは目を伏せて。

僕の指からあの日するりと解けていった君は未だ帰らない。

寒い夜だった。

透明な窓も曇って向こうが見えなくなるような、とても寒い夜だった。

僕は待ってる。あの日のままで。

巡る季節を拒んで僕は、未だ冬のまま。

[#冬の亡骸](#)

最近、この駅に停まる電車が増えた。

少女の噂を聞きつけた人々が電車を駆ってここにくる。

誰が少女を救うのか。なびかぬ少女に痺れをくらし、男は強引にその手を引いた。

[#世界描写](#)

翻るスカートを合図に電車中に蔓延る夏。

少女こそが夏だった。

電車を夏で埋め尽くし、彷徨える夏は秋を探す。

出愛ポエム

でんげん落ちたら
あなたの言葉も消えちゃうはずなのに
いまもひかるのそうまるで
ぽらりす
えきしょうのむこうがわ あなたがあたしにくれた星

[#出愛ポエム](#) [#出愛ポエム1周年記念](#)

ツイノベオン

おばあさんが川で洗濯をしていると魚が泳いでおりました。

「なんて大きい」おばあさんは川魚を持ち帰り包丁で真っ二つ。

すると中から大きな桃が。

魚よりもずっといい。喜び、川魚そっちのけで真っ二つ。

すると中から赤ちゃんが。

これを割ったら、もしやもっといいものが？

[#twnovelOFF](#)

空から落ちてきた女の子を拾った。

彼女は毎日小高い丘で空を見上げて、その帰り道、飛行機雲のような軌跡を残す。

気になり少し調べてみると飛行機雲って、「エンジンの排気により空気中の水分が増加して...」

[#twnovelOFF](#)

それはまるで淋しい君の涙のようで、小さなその手をぎゅっと握る。

箱の中には空っぽが入ってるって偉そうに言うけれど空っぽは空っぽだ。

金返せって睨みつけたら、しょうがないなって出してきたその箱はなんだ。

開けてみたならやっぱり空っぽ。お前いい加減に。

ここには空っぽの貴方が入ってね。

突き落とされた箱の中、予想外の心地よさに僕は。

[#twnovelOFF](#)

憧れていた。スマートな身体。柔らかな女らしさで沢山の男を渡り歩く。

なりたい。あんなセクシーな女に私もなりたい。

[#twnovelOFF](#)

ダンゴ汁（大分県出身）はきしめん（愛知県出身）に憧れていた。

味噌や醤油以外にも抱かれてみたいの。ダイエットしていつかきっと。

曲がり角で運命を待っていた。運命のイケメンとの出会いを信じてる。

「そんな百円の食パンでみつかる運命、笑わせる」

「でたわね食パン夫人」

彼女の口には一斤一万円の幻の食パン。負けない。運命はお金じゃない。

[#twnovelOFF](#)

夫人はため息をつく。

パン交換しない？その一言が言えない。

いつも空を見上げていた川魚は、ある日飛行機雲を見つけた。
なんて美しい青と白。
羨ましかった。あんな軌跡が自分にもあれば。そう願ってた。
だからきっとこれは神からの贈り物。

[#twnovelOFF](#)

川魚はきしめんを尻尾にくくり泳ぐ。
パン食走女子はそれを見て、きしめん食もいいなと思った。